

# 保育学科

## 保育学科 1 年生 授業科目一覧

### ◎卒業必修、※学科履修指定、☆卒業選択必修

記号	授業科目	担当者	期別	頁
☆	文 学	未 開 講	後期	96
☆	心 理 学	亀 田 佐知子	前期	97
☆	経 済 学	豊 田 眞 弓	前期	98
☆	生 物 学	近 藤 博 史	前期	99
○☆	日 本 国 憲 法	磯 崎 奈保子	前期	100
◎	英 語 I	伊 藤 能 之	前期	101
◎	おだたん人間成長講座 I	おだたん人間成長講座 運 営 委 員 会	通年	102
	英 会 話	C. ハースト	後期	104
※	基礎学力演習 I	間 野 百 子 大 浦 賢 治	前期	105
※	基礎学力演習 II	間 野 百 子 大 浦 賢 治	後期	106
◎	健康・スポーツ実技	水 島 徳 彦	前期	107
◎	健康・スポーツ理論	水 島 徳 彦	後期	108
	海外文化事情	塩 川 雅 史 山 本 華 子	前期	109
●	児 童 文 化	炭 美智子	前期	110
○	子どもの保健	成 川 美 和	前期	111
◎	子ども家庭福祉	武 山 美 子	前期	112
○	音楽表現 I	今 泉 明 美	前期	113
○	造形表現 I	吉 田 収	前期	114
◎	保育者論	野 津 直 樹	前期	115
◎	教育原理	唐 沢 俊 光	前期	116
◎	教育制度論	内 山 絵美子	前期	117
◎	保育の心理学 I	杉 崎 雅 子	前期	118
○	保育内容総論 I	宮 川 萬寿美	前期	119
○	表現（造形）	吉 田 収	前期	120
○	情報処理論	飯 原 智 子	前期	121
※	ピアノ弾き歌い	今 泉 明 美 有 村 さやか 園 田 紘 子	通年	122
※	ボランティア活動	山 本 華 子 内 山 絵美子	通年	124

### ○免許・資格必修、●免許選択必修

記号	授業科目	担当者	期別	頁
○	子ども家庭支援の心理学	杉 崎 雅 子	後期	125
◎	保 育 原 理	宮 川 萬寿美	後期	126
○	社会的養護 I	上 野 文 枝	後期	127
◎	社 会 福 祉	實 方 徹 平	後期	128
○	音楽表現 II	有 村 さやか	後期	129
○	造形表現 II	吉 田 収	後期	130
○	身体表現 I	中 山 貴 太	後期	131
○	保育カリキュラム論	内 山 絵美子	後期	132
○	健 康	上 野 奈初美	後期	133
○	人 間 関 係	竹 内 あゆみ	後期	134
○	環 境	野 津 直 樹	後期	135
○	言 葉	宮 川 萬寿美	後期	136
○	表現（音楽）	今 泉 明 美	後期	137
○	乳児保育 I	竹 内 あゆみ	後期	138
○	障害児保育	小 倉 直 子	後期	139
※	職業と社会 I (保育)	間 野 百 子 中 村 真知子	後期	140
○	保育実習 I ( 保 育 所 )	竹 内 あゆみ 杉 崎 雅 子 山 本 華 子 宮 川 萬寿美	後期	141
○	保育実習指導 I A	竹 内 あゆみ 上 野 文 枝 小 倉 直 子 杉 崎 雅 子 山 本 華 子 武 山 美 子 宮 川 萬寿美	通年	142

●免許選択必修科目は学生便覧 P39 参照

## 保育学科2年生 授業科目一覧

### ◎卒業必修、※学科履修指定、

記号	授業科目	担当者	期別	頁
◎	おだたん人間成長講座Ⅱ	おだたん人間成長講座運営委員会	通年	146
※	職業と社会Ⅱ(保育)	中村 真知子	前期	147
●	児童文学	馬見塚 昭久	前期	148
○	子どもの食と栄養Ⅰ	平井 千里	後期	149
○	子どもの食と栄養Ⅱ	稲葉 佳代子	後期	150
○	子どもの健康と安全	中山 貴太	前期	151
○	言語表現	宮川 萬寿美	後期	152
○	環境指導法	野津 直樹	前期	153
○	健康指導法	上野 奈初美	前期	154
○	表現指導法	有村 さやか	前期	155
○	言葉指導法	小倉 直子	前期	156
○	人間関係指導法	竹内 あゆみ	前期	157
○	乳児保育Ⅱ	神蔵 幸子	前期	158
○	身体表現Ⅱ	中山 貴太	前期	159
○	社会的養護Ⅱ	上野 文枝	前期	160
○	子ども家庭支援論	武山 美子	後期	161
○	教育の方法と技術	田畑 忍	後期	162
○	教育相談	杉崎 雅子	前期	163
○	幼児理解の理論と方法	間野 百子	前期	164
○	特別支援教育・保育概論	小倉 直子	後期	165
○	子育て支援	上野 文枝	後期	166
●	教育社会学	間野 百子	後期	167
○	保育実習指導ⅠB	上野 文枝 小倉 直子 武山 美子	通年	168
○	保育・教職実践演習(幼稚園)	野津 直樹 内山 絵美子 竹内 あゆみ	後期	170
	音楽表現指導法	今泉 明美	後期	171
	造形表現指導法	吉田 収	後期	172
	身体表現指導法	上野 奈初美	後期	173

●免許選択必修科目は学生便覧 P39 参照

### ○免許・資格必修、●免許選択必修

記号	授業科目	担当者	期別	頁
○	保育実習Ⅰ(施設)	上野 文枝 小倉 直子 武山 美子	前期	174
○	保育実習Ⅱ	竹内 あゆみ 杉崎 雅子 山本 華子 宮川 萬寿美	前期	175
○	保育実習指導Ⅱ	竹内 あゆみ 杉崎 雅子 山本 華子 宮川 萬寿美	通年	176
○	保育実習Ⅲ	上野 文枝 武山 美子 小倉 直子	前期	177
○	保育実習指導Ⅲ	上野 文枝 小倉 直子 武山 美子	通年	178
○	教育実習	野津 直樹 内山 絵美子 中山 貴太	通年	179
○	教育実習指導	野津 直樹 内山 絵美子 中山 貴太	前期	180
※	卒業研究ゼミナール	有村 さやか	通年	181
		今泉 明美	通年	182
		上野 奈初美	通年	183
		上野 文枝	通年	184
		内山 絵美子	通年	185
		小倉 直子	通年	186
		杉崎 雅子	通年	187
		竹内 あゆみ	通年	188
		中山 貴太	通年	189
		野津 直樹	通年	190
		間野 百子	通年	191
		未開講	通年	192
		山本 華子	通年	193
吉田 収	通年	194		

記号	授業科目	担当者	期別	頁
※	サービ ス ラー ニ ン グ	有 村 さやか	通年	195
		今 泉 明 美	通年	196
		上 野 奈初美	通年	197
		上 野 文 枝	通年	198
		内 山 絵美子	通年	199
		小 倉 直 子	通年	200
		杉 崎 雅 子	通年	201
		竹 内 あゆみ	通年	202
		中 山 貴 太	通年	203
		野 津 直 樹	通年	204
		間 野 百 子	通年	205
		未 開 講	通年	206
		山 本 華 子	通年	207
		吉 田 収	通年	208
※	生活実践Ⅱ 子どもの発達と遊び	小 倉 直 子	前期	209
	生活実践Ⅱ 子どもの発達と心理 (保育現場の心理学)	宮 川 萬寿美	後期	210
	生活実践Ⅱ 国際が加ア PYP を知る	野 津 直 樹	前期	211
	生活実践Ⅱ 食育と調理	栗 本 公 恵 内 山 麻 子 中 村 眞樹子 平 井 千 里	後期	212
	表現実践 伝統音楽による音あそび	山 本 華 子	前期	213
	表現実践 ヴォイスパフォーマンス	今 泉 明 美	後期	214
	表現実践 五感で感じる リズム・アンサンブル	有 村 さやか	後期	215
	表現実践 造形あそび	吉 田 収	後期	216

# カリキュラムツリー 保育学科（通学）

2023 年度生用

		1年	2年	ディプロマポリシー	学習成果	
教養科目	一般教養	文学 心理学 日本国憲法 生物学 経済学 基礎学力演習 I ●★おだたん人間成長講座 I	●英語 I 英会話 <b>体育</b> ●健康・スポーツ理論 ●健康・スポーツ実技 基礎学力演習 II 海外文化事情	●★おだたん人間成長講座 II	DP1c <b>人間性・社会性の研鑽</b>	学習成果 豊かな人間性と教養、保育者に必要な社会観、子ども観、生活力、及び実践力の基礎を修得した人。 教養科目の学びを通して保育者としての姿勢を身につける
	外国語					
専門科目等	(保育内容の理解)	保育の内容・方法に関する科目等	生活指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 保育の内容・方法に関する科目等	生活指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 保育の内容・方法に関する科目等	DP2c <b>職業人としての姿勢、専門的な知識・技術の修得</b>	学習成果 子どもと家族を支援するために必要とされる基礎的な知識・技術を習得した人。保育・教育・福祉に関する事例研究の方法を修得した人。 専門職としての保育者に必要な基礎的知識・技術を身につけ、それを活用して事例研究ができるようになる
	音楽表現 I	情報処理論	教育相談	特別支援教育・保育概論		
	音楽表現 II	(領域・保育内容と方法)	(保育の本質・目的)	子育て支援		
	造形表現 I	健康	社会的養護 II	児童文学		
	造形表現 II	人間関係	★子ども家庭支援論	教育の基礎理解に関する科目		
	身体表現 I	環境	教育課程及び指導法に関する科目	教育社会学		
	言語表現	表現(造形)	教育の方法と技術	生活指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		
	ピアノ/弾き歌い	表現(音楽)	指導法に関する科目	★幼児理解の理論と方法		
	教育の基礎理解に関する科目	言葉	環境指導法	指導法に関する科目		
	●教育原理	社会的養護 I	健康指導法	音楽表現指導法		
●教育制度論	乳児保育 I	表現指導法	身体表現指導法			
教育の基礎理解に関する科目	障害児保育	言葉指導法	造形表現指導法			
(保育の本質・目的)	児童文化	人間関係指導法				
●★子ども家庭福祉	(保育の対象理解)	身体表現 II				
●社会福祉	子どもの保健	(保育の対象理解)				
●保育者論	★子ども家庭支援の心理学	子どもの健康と安全				
●保育原理	保育の内容・方法に関する科目等	子どもの食と栄養 I				
教育の基礎理解に関する科目	保育カリキュラム論	子どもの食と栄養 II				
(保育の対象理解)	★保育内容総論 I	乳児保育 II				
●保育の心理学 I						
応用実践科目	★職業と社会 I	★職業と社会 II	保育・教職実践演習(幼稚園)	DP3c <b>社会人としての自覚・課題解決力の修得</b>	学習成果 家庭や社会とのかかわりを通じて保育・福祉の実践ができる人。一人ひとりの子どもの心と育ちを様々な視点から理解できる人。 保育者としての学びを生かし、社会で活躍するための素養を得る	
	ボランティア活動	教育実習指導	教育実習			
	保育実習指導 I A	保育実習指導 I B	保育実習 I (施設)			
	保育実習 I (保育所)	保育実習指導 II	保育実習 II			
		保育実習指導 III	保育実習 III			
		サービスマニエール				
		卒業研究(ゼミナール)				
		生活実践 I	生活実践 II			
	こどもITコース	フォト・ムービー演習	子どもとIT			
	こども心理コース	コミュニケーションの心理学	子どもの心理学			
	表観実践					
こどもスポーツコース	こどもスポーツ	キッズダンス				
こども音楽コース	ピアノアンサンブル	リズムあそび				
こどもアートコース	造形あそび	おもちゃ作り				

※2022年度生については2022年度版シラバスの7,8ページを参照する事

●印 卒業必修科目

★印 DP各項目代表科目

---

# 保育学科

1年生

---

# 文学

[ Japanese Literature ]

(未 開 講)

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
1年生	後期	講義	2単位	選択必修	教養科目	保育士資格選択必修 幼稚園2種免許選択必修	DP1c	No. Cg1n201
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業中の取り組み（課題に対する発表30%）、授業内テスト（筆記試験1回40%）、レポート課題（ポートフォリオの提出30%）を基本的配分とする総合評価							
教科書	事前にプリントを配付する							
参考文献	『物語もっと深読み教室』宮川健郎（岩波書店）							

## 授業概要

近現代の日本文学を分析的かつ共感的に読み深めながら、文学史や作家についての知識を得るとともに、社会人として生きる上で必要な読解力と文学的感性を養う。

毎回、全員で音読した後、作品の内容についてグループで対話する。その成果を発表することにより、作品の深層に迫る読みを全員で共有することを目指す。

## 学習成果

- ① 知識面 日本近代文学の大まかな流れについての知識を得る。
- ② 技術面 文学作品に親しむ読解力を身につける。
- ③ 理念・理解 文学に接する楽しさや意義について説明できるようになる。

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	AL
1	近代文学とは	近代文学の黎明 文学作品を「読む」とは	思い出深い文学作品についての感想を200文字でノートにまとめる	GW
2	近代文学の諸相①	「ロマン主義」の解釈と鑑賞	事前配付する作品②の通読と難解語の意味調べ	GW
3	近代文学の諸相②	「自然主義」の解釈と鑑賞	事前配付する作品③の通読と難解語の意味調べ	GW
4	近代文学の諸相③	「反自然主義」の解釈と鑑賞①	事前配付する作品④の通読と難解語の意味調べ	GW
5	近代文学の諸相④	「反自然主義」の解釈と鑑賞②	事前配付する作品⑤の通読と難解語の意味調べ	GW
6	近代文学の諸相⑤	「プロレタリア文学」の解釈と鑑賞	事前配付する作品⑥の通読と難解語の意味調べ	GW
7	近代文学の諸相⑥	「芸術派」の解釈と鑑賞①	事前配付する作品⑦の通読と難解語の意味調べ	GW
8	近代文学の諸相⑦	「芸術派」の解釈と鑑賞②	事前配付する作品⑧の通読と難解語の意味調べ	GW
9	近代文学の諸相⑧	現代作家・作品の解釈と鑑賞①	事前配付する作品⑨の通読と難解語の意味調べ	GW
10	近代文学の諸相⑨	現代作家・作品の解釈と鑑賞②	事前配付する作品⑩の通読と難解語の意味調べ	GW
11	近代文学の諸相⑩	現代作家・作品の解釈と鑑賞③	事前配付する作品⑪の通読と難解語の意味調べ *お勧め文学作品を1つ選び、紹介レポートを作成	GW
12	文学とサブカルチャー①	現代文学とアニメ文化①	事前配付するプリント⑫を確認し、難解語の意味調べ	GW
13	文学とサブカルチャー②	現代文学とアニメ文化②	事前配付するプリント⑬を確認し、難解語の意味調べ	GW
14	文学とサブカルチャー③	現代文学とアニメ文化③	事前配付するプリント⑭を確認し、難解語の意味調べ	GW
15	文学とサブカルチャー④	現代文学とアニメ文化④	事前配付するプリント⑮を確認し、難解語の意味調べ	GW

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 心理学

[ Psychology ]

亀田 佐知子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	前期	講義	2単位	選択必修	教養科目	保育士・幼稚園免許選択必修	DP1c・DP1f	No. Cg1n202・Fg1n201
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(筆記試験3回)30%、レポート課題(3回)25%、期末試験40%、授業中の取り組み(ワーク、発表)5%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実践につながる新しい教養の心理学』大浦賢治編 ミネルヴァ書房							
参考文献	『心理学辞典』中島義明(編)有斐閣、『新・はじめて学ぶところの世界』山崎晃・浜崎隆司(編)北大路書房、『ステップアップ心理学シリーズ心理学入門—心を科学する10のアプローチ』坂口典弘・相馬花恵(編)講談社							

**授業概要** 心理学とは様々な事柄を研究テーマとして取り上げる「心の科学」であり、事実と証拠に基づくということが前提となっている。この授業では、なるべく自分の日常に照らし合わせ考えていけるように、自分がどのように物を見て考え、行動しているのかなど、普段の生活では当たり前になっていることを心理学の見地から考え、自分の視野を広げることを試みる。

- 学習成果**
- ① 知識面 心理学の基礎知識を得る。心理学的視点から物を見たり考えたりする力を身につける。
  - ② 技術面 自分の心を行動科学の見地から捉え、発達の視点等から自己の新たな側面を考える。
  - ③ 理念・理解 直感や経験からだけではなく、実験や統計的なデータから心の働きを理解する。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	心のしくみ・働きを知る—感覚・知覚	人間の心のしくみ・働きを知るために、感覚と知覚の特性について学んでいく。	第2章を読んでおく。		GW
2	感情の心理学	感情のメカニズムについて、青年期から老年期に至るまでのこころや体の変化を学ぶ。	第3章を読んでおく。		GW
3	学習	自然に学びを深める姿と学びたいという意欲との関係性から学びの本質を考えていく。	第4章を読んでおく。		GW
4	記憶	覚えること、忘れること、記憶が変化していくことを理解し、記憶方略を考えていく。	第4章を読んでおく。		GW
5	思うこと、考えること	思考するとき、私たちがハマりやすい、いくつかのパターンから、正しい思考とは何かを考えていく。	第5章を読んでおく。		GW
6	こころのしくみを考える	学んできたことを総合して、こころのしくみを考えていく。	*小テスト(1~5回)		D
7	幼児期から児童期にかけて	発達の主なプロセス、発達理論、その応用について学んでいく。	第6章を読んでおく。		GW
8	人はいくつになっても成長する	青年期、成人期、老年期と3つのライフステージに分け、それぞれの時期に特有な心理的特徴を学ぶ。	第7章を読んでおく。		GW
9	パーソナリティ	パーソナリティはどのようにしてつくられるのか、その分類・測定できるのかなどについてみていく。	第9章を読んでおく。		GW
10	「家族」について考える(家族心理学)	家族のライフサイクルとはどのようなものかを概観し、家族という視点から考える。	第10章を読んでおく。		GW
11	発達について考える	学んできたことを総合して、自己の発達や家族、パーソナリティから自己理解を深める。	*小テスト(7~10回)		D
12	人間関係とこころ	日常の些細な出来事から社会問題まで、人のこころがどのように関与しているのかを理解する。	第11章を読んでおく。		GW
13	「悩み」を悩むこと・支えること	「悩み」について考えていく。どのような視点や工夫が「悩む」ことを取り扱ううえで役立つかを学ぶ。	第13章を読んでおく。		GW
14	ポジティブ心理学	ポジティブ心理学ではウェルビーイングとパフォーマンスの向上を目指す。	第14章を読んでおく。		GW
15	人間関係や悩みについて考える	学んできたことを総合して、悩みとの向き合い方やパフォーマンス向上を考える。 レポート課題「心理学を学んで理解を深めたこと」	*小テスト(12~14回) *レポート課題提出		D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業時に使用するため、各自PCを持参すること。

# 経済学

[ Economics ]

豊田 眞弓

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
1年生	前期	講義	2単位	選択必修	教養科目	保育士・幼稚園免許選択必修	DP1c・DP1f	No. Cg1n203・Fg1n203
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内小テスト(原則毎回)70%、課題(レポート等2回)30%。							
教科書	初回授業時に説明(毎回レジュメをクラスルームにアップする予定)							
参考文献	『大学生のための 人生とお金の知恵』金融広報中央委員会 『赤ちゃんができたら考えるお金の本』ベネッセムック							

**授業概要** 私たちの暮らしと密接に関わりがありながら、敬遠されがちな「経済学」。この講座では、「生活」の視点から「経済」にクローズアップし、生活者として役立つ「パーソナルファイナンス」の基礎を学ぶ。これだけは学生の間に身につけておきたい金融・経済の基礎知識の習得を目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 生活経済の基礎を学び、学習前よりも知識を深める
  - ② 技術面 金利や費用の比較など、電卓を使った計算もできるようになる
  - ③ 理念・理解 ライフイベントでかかる費用を知り、ライフプランを作成できるようになる

授業計画				【AL】 D:ディカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、S:シミュレーション・試算
回数	テーマ	学習内容	準備学習(予読の章・頁、資料No) *作成課題内容	AL
1	お金って何だろう?	お金の役割とは? お金を通じて社会とつながっている。外国のお金と為替。見えないお金、キャッシュレス。	事前にレジュメをアップするので、それをダウンロードし予習しておくこと	
2	お金の使い方と貯蓄	お金の使い方を「ニーズ」と「ウォンツ」で考える。貯蓄は夢をかなえる手段。私の命を育んだお金はいくら?	〃	S
3	働いて収入を得る<1>	アルバイトと労働者の権利。労働者の権利を守る働き方について考えよう。	〃	D
4	働いて収入を得る<2>	求人票や給与明細票を読んでみよう。社会人になってひとり暮らしを始めた時の収支配分を考えてみよう。	〃	S
5	結婚にかかるお金	結婚でかかるお金はどれくらい? 新生活にかかるお金も知っておこう。	〃	S
6	子育てや教育にかかるお金	子どもにかかるお金を知っておこう。あなたなら、将来の教育資金をどう貯める?	〃 *レポート課題「子育てにかかるお金ともらえるお金」	
7	住宅にかかるお金	購入 vs 賃貸、どちらが得? 家庭を持った時のため、それぞれのメリットと注意点を知っておこう。	〃	GW
8	老後のお金と公的年金制度のイロハ	老後ってどれくらいかかるの? 国民年金って学生も入るの? 老後のお金と公的年金制度の基本を学ぶ。	〃	D
9	リスクと保険	あなたにはどんなリスクがある? 公的医療保険制度も知っておこう。リスクに合わせて民間の保険を選ぶ。	〃	D
10	金融商品の基礎<1>	株式って何? 投資信託って何? 金融商品の基礎や運用のリスクを軽くする3つの方法について学ぼう。	〃	
11	金融商品の基礎<2>	社会に出たら関わる可能性がある「確定拠出年金」や「つみたてNISA(少額投資非課税制度)」の基本を知る。	〃	
12	ライフプランを作る	ライフプランの作り方。人生の4大分岐点と3大資金を知ろう。将来どんな生活を送りたいですか?	〃 *課題「私のライフプラン」作成	S
13	よい借金・悪い借金。	奨学金は借金? 「悪い借金」にはどんなものがある? クレジットカードとデビットカードの違いや多重債務の怖さ。	〃	D
14	親の介護のこと	介護にかかるお金ってどれくらい? 介護保険の基礎や「仕事をやめない介護」のための助けになる制度など。	〃	D
15	おいしい話にご用心!	「きっぱり断る」ことが大事。悪質商法への対処方法や相談先なども知っておこう。	〃	

**備考** 授業時に使用するため、各自 PC を持参すること。レジュメを事前にクラスルームにアップするので、それをダウンロードし、授業の前に予習をしておくこと。また、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。毎回小テストを行うので、自主的に取り組み、力を付けること。課題や小テストは採点等によりフィードバックを行う。新聞や経済ニュースを見る習慣をつけること。



# 生物学

[ Biology ]

近藤 博史

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
1年生	前期	講義	2単位	選択必修	教養科目	保育士・幼稚園免許選択必修	DP1c・DP1f	No. Cg1n205・Fg1n202
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト 40%(筆記:1回)、レポート課題40%(生物の観察記録等をまとめたもの:1回)、授業内容の理解度確認課題(簡単な選択問題形式:毎回)20%を基本的配分とし、総合的に評価します。							
教科書	基本的には、講義前にプリント(講義用スライド資料)を配布します。 『生き物の描き方:自然観察の技法』(東京大学出版会) 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1~5巻』(ブルーボックス)							
参考文献	『生物学』和田勝 東京化学同人、『生態学入門』日本生態学会(編) 東京化学同人、 『山溪ハンディ図鑑 14 増補改訂 樹木の葉 実物スキャンで見分ける 1300種類』林将之 (山と溪谷社)							

**授業概要** 人間は生物の一員としてこの地球で生活をしています。生物は、その生活環境の中で、他の生物や周囲の環境と深く関わりながら生きており、そのバランスは非常に重要かつ繊細です。本授業では、最新の科学論文を元に、生物の生きる仕組みから、地球全体の生物や環境の繋がりまで幅広く学び、命や環境について考える力を身に付けていくことを目的とします。特に、身近な生物を観察・研究することに重点を置き、実際に生物を見る目を養います。

- 学習成果**
- ① 知識面 一般的な教養としての生物学的基礎知識を習得できる。
  - ② 技術面 実際に社会の現場で役立つ生物の観察力・記録力・伝達力を習得できる。
  - ③ 理念・理解 生物と自然環境、そしてわれわれ人間生活との関係性を知る能力を習得できる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L P F D
1	生物学について	生物学とはどのような学問か、また保育学や栄養学との関係について解説します。	授業前日までに資料配布 理解度確認課題あり	P
2	生物の基本を学ぶ	生物の代謝について・生物の分類など、生物に関する基礎を学びます。	授業前日までに資料配布 理解度確認課題あり	P
3	植物とは	植物とはどういう生物なのか、植物の見分け方、植物の観察ポイントなどを学びます。	授業前日までに資料配布 理解度確認課題あり	P
4	身近な生物	身近な環境にはどのような生物が生息しているのか、どういう特徴があるのかを学びます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	P
5	日本の生物	日本に生息する様々な生物の分布やその特徴を理解してもらいます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	P
6	世界の生物	世界に生息する様々な生物の分布やその特徴を理解してもらいます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	P
7	外来種について	外来種とはどういう生物か、なぜ今、問題になっているのかを学びます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	P
8	生物観察とスケッチ 実習①	実際に野外において生物のスケッチや観察をし、生物の特徴を理解してもらいます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題・レポート出題	F
9	生物観察とスケッチ 実習②	実際に野外において生物のスケッチや観察をし、生物の特徴を理解してもらいます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	F
10	生物多様性と生物の 歴史	地球誕生から、生物誕生、恐竜繁栄、哺乳類出現など、地球の生物史と生物が多様になった経緯を学びます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	P
11	生物に関わる環境問題	身近で起こっている環境問題やその原因について理解し、実際の取組や私達ができることを考えます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	P
12	様々な生物の生態①	地球上の様々な生物について、いくつかの種をとり上げながらその生態について学びます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	D
13	様々な生物の生態②	地球上の様々な生物について、いくつかの種をとり上げながらその生態について学びます。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	D
14	全体のまとめ	総括。授業各回において、分かりにくかったところや、生物に関するディスカッションを行います。	授業前日までに資料を配布 理解度確認課題あり	D
15	授業内テスト 問題内容の解説	理解度確認テストと問題解説。授業前半でテストを受けてもらい、その後、テスト問題の解説をします。	レポート課題提出	E

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

保育・一年生

# 日本国憲法

[ Japanese Constitutional Law ]

礒 崎 奈保子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリングNo.
保1年生、食2年生	前期	講義	2単位	選択必修	教養科目	幼稚園2種免許必修 栄養教諭免許必修	DP1c	No. Cg1n204・Fg2f204
教職課程科目区分 含める必要事項		施行規則66条の6に定める科目						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内テスト(小テスト10回)80%、(まとめ試験)0%、レポート課題15%、授業中の取り組み(発表)5%、を基本的配分とする総合評価							
教科書	『憲法入門講義』 一藝社 2021							
参考文献	『いちばんやさしい憲法入門<第6版>』有斐閣アルマ 2020							

**授業概要** 日本国憲法の理念・基本原理、基本的人権の内容について、学びます。  
身のまわりで起きる出来事や、社会で問題になっている事柄に関係づけながら、授業を進めます。  
地方公務員の責任についても授業で扱います。

**学習成果**

- ① 知識面 日本国憲法の基本的な知識や考え方について説明できるようになる。
- ② 技術面 法的なものを見方を身につけ、日常生活に活用できるようにする。
- ③ 理念・理解 憲法を通じて我が国の政治制度・行政制度等について理解する。

授業計画		D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	基本原理1	日本国憲法の全体像、意義	教科書の第1～3章を事前に読んでおく		D
2	基本原理2	国民主権、平和主義、基本的人権の保障と限界	教科書の第4～6章を事前に読んでおく		D
3	包括的基本権	包括的人権、法の下での平等	教科書の第6, 7章を事前に読んでおく		D
4	人身の自由	適正手続き、刑事被告人の諸権利等	教科書の第8章を事前に読んでおく		D
5	精神的自由権	表現の自由、信教の自由と政教分離等	教科書の第9章を事前に読んでおく *課題「SNSによるトラブルやいじめ防止策と表現の自由について」		D
6	経済的自由権	職業選択の自由、財産権等	教科書の第10章を事前に読んでおく		D
7	参政権	選挙権と被選挙権	教科書の第11章を事前に読んでおく		D
8	社会権	生存権、教育を受ける権利、労働基本権等	教科書の第12章を事前に読んでおく		D
9	国務請求権	裁判を受ける権利、国家賠償請求権等	教科書の第13章を事前に読んでおく		D
10	統治機構1 国会	三権分立、国会の地位・組織、両議院の関係等	教科書の第14章を事前に読んでおく		D
11	統治機構2 内閣	行政権、議員内閣制等	教科書の第15章を事前に読んでおく		D
12	統治機構3 裁判所	司法権の概念、司法権の独立、三権分立等	教科書の第16章を事前に読んでおく		D
13	国民の義務、財政	財政法律主義、租税法律主義、公金支出の禁止等	教科書の第17章を事前に読んでおく		D
14	地方自治・憲法の改正最高法規	住民投票、条例制定権、憲法尊重擁護義務等	教科書の第18～21章を事前に読んでおく		D
15	国家緊急権、日本国憲法の現在と未来	国家緊急権の意義と問題点、日本国憲法の未来	教科書の第22章、終章を事前に読んでおく		D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。適宜プリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。第1～9、14回の授業中に小テストを実施する。

# 英語 I

[ English I ]

伊藤能之

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーNo.
1年生	前期	講義	2単位	必修	教養科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP1c	No. Cg1n13
教職課程科目区分 含める必要事項		施行規則66条の6に定める科目						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(筆記試験3回)30%、レポート課題 30%、授業中の取り組み(英語手遊び等)40%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『Learning English』五十嵐淳子編著 大学図書出版							
参考文献	中英和辞典(研究社)							

**授業概要** この授業では、実際に保育園における英語活動の実践を通して、子どもの意欲を高める英語活動はどのようなものか、また、どのような英語教材が効果的なのかを学び、将来保育現場に英語活動を取り入れていくことを想定し、保育者になった際に異文化を理解するとともに、英語活動を主導できるようになることを目標とする。その上で、英語だけでなく保育現場や教育現場における視点を大切にしながら現場で役立つ内容を取り入れる。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育の内容について理解し知識を得る。
  - ② 技術面 アクティビティー活動を行うための準備物を作成し、英語活動の方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 英語活動の意義を踏まえ保育者がなぜ英語活動を行う必要があるかを理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	授業ガイダンス/英語活動の意義	授業の説明と受講上の注意(試験、成績等)	英語到達確認テストを行う	E
2	自己の英語学習の経験の内省	これまで学んできた英語学習の在り方について考える	英語到達確認テストを行う	E
3	英語学習の意義	英語学習の進め方について	資料配布	GW
4	動画からの学び	動画を通じて英語の理解度を確認する	資料配布	D
5	動画からの学び2	動画を通じて会話能力を確認する	資料配布	D
6	洋楽からの学び	洋楽を聞く場合の注意点を確認する	資料配布	P
7	英語を訳すということ1	翻訳の問題点を翻訳作品より理解する。	教科書第5課 P34 を読んでおく	GW
8	英語を訳すということ1	翻訳の問題点から文化の相違について学ぶ	資料配布	GW
9	異文化理解	保育活動の用いられる音楽を通じた文化理解	資料配布	E
10	異文化理解2	絵本を通じた異文化を体験する	資料配布	E
11	英語での自己表現	英語でのスピーチを学ぶ	教科書第10課 P90 を読んでおく	P
12	映画から学ぶ①	英語が好きになる映画を視聴する	教科書第12課 P106 を読んでおく	E
13	映画から学ぶ②	保育者を目指す人に見てほしい映画を視聴する	映画のまとめを行う	E
14	保育英語の意味	保育者に必要な英語の内容を確認する	資料配布	GW
15	前期の学習の総括	まとめ/前期に学んだ重要事項の再確認	これまでの配布プリントをチェックしておくこと。	D

**備考** 授業では復習に重点をおく。授業の中で重点と示唆されたことについては、より丁寧に復習をすること。特に小テストにおいては、その出来不出来よりも、まちがえた箇所を復習、チェックを行うこと。授業内にフィードバックをする。振り返りプリントを配布する。

# おだたん人間成長講座Ⅰ

[ Liberal Arts of Odawara Junior College I ]

統括：おだたん人間成長講座運営委員会

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーNo.
1年生	通年	演習	1単位	必修	教養科目		DP1c	No. Cg1n106
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。建学の精神 10%、人として 10%、女性として 10%、国民として 10%、小峰祭 10%、推薦図書 10%、美術館 10%、古典芸能 10%、マナー講習 10%、振り返り発表会 10%							
教科書	おだたんポートフォリオ							
参考文献	各回の配布資料、おだたん人間成長講座ファイル							

## 授業概要

建学の精神「女子を人として教育する、女性として教育する、国民として教育する」に基づいて設置された2年間にわたる総合的な教養科目である。専門科目とあわせて学び、本学の3つの教育目標（自他ともに敬い愛する人・豊かな知性と感性あふれる人・健やかな家庭、社会を担う人）を具体化する授業内容である。

## 学習成果

- ①知識面 建学の精神について説明できるようになる
- ②技術面 コースで学んだことを生活に活用できるようになる
- ③理念・理解 本学の学生としての自覚を持ち、社会に出ることができるようになる

授業計画		【AL】D:ディカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験						A	L
回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容					
1	4/12	・本講座の説明(オリエンテーション) ・講演「建学の精神」	・1年次から2年次にわたる学習内容とコースの学びについて理解する 本学の歴史、建学の精神、教育理念について聴くとともにおだたん人間成長講座の意義を確認する ・【学長講演】	シラバス 課題：講演内容レポート①				D	
2	4/26	・講演「人として」 ・おだたん生のマナーの確認①	・講演者の生い立ちや社会への思いを聴き、人としての生き方を考える【当事者講演】 ・スタプロで学んだ、学内での挨拶を再確認する(挨拶とメールマナー)	ファイル内資料熟読 課題：講演内容レポート②				P	
3	5/10	・講演「女性として」 ・おだたん生のマナーの確認②	・卒業生のお話を聴き、本学の教育の原点を知る【卒業生講演】 ・スタプロで学んだ、授業態度を再確認する	ファイル内資料熟読 課題：講演内容レポート③					
4	5/24	・講演「国民として」 ・おだたん生のマナーの確認③	・市民と協働する街づくりのお話を聴き、社会の形成者としての生き方を考える【当事者講演】 ・登下校、通学車内のマナーを再確認する	ファイル内資料熟読 課題：講演内容レポート④					
5	6/28 クラス 単位	・美術鑑賞や推薦図書ガイダンス ・古典芸能ガイダンス ・講演の感想交換会	・美術鑑賞や推薦図書について、見どころ・見学観賞の仕方・推薦の意図を理解し、取り組む意欲を高める ・古典芸能について、観賞の仕方を理解し取り組む意欲を高める クラス教室に分かれて返却されたレポートをもとに、講演を通じて気づいたことや感じたことを伝えあう(1年クラス委員が司会進行)	オリエンテーション、ガイダンスの資料熟読 当日に①～④の講演のレポート返却 各クラス担任が見守り					
6	夏期 休暇	美術鑑賞	学外で自己選択にて経験：美術館の鑑賞を通じて、芸術に親しむ生活を経験する(夏期休暇中に鑑賞、レポート作成)	オリエンテーション、ガイダンスの資料熟読 課題：美術館鑑賞をしての感想レポート					
7	夏期 休暇	推薦図書	教員が推薦した図書を読んで、書物に親しむ時間を持つ(夏期休暇中に読書し、レポート作成)	オリエンテーション、ガイダンスの資料熟読 課題：図書を読んだ感想レポート					

8 9	夏期 休暇	古典芸能鑑賞	学外で自己選択にて経験：古典芸能鑑賞（12月クラス会までに鑑賞、レポート作成）	配布資料 課題：感想レポート	
--------	----------	--------	---	-------------------	--

### 【後期】

授業計画		1年次後期 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数		テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	
10 11	9/20 クラス 単位	読書感想交換会 美術鑑賞報告会	クラス教室に分かれて読んだ本を持ち寄り、レポートをもとに、本の紹介をして感想を伝えあう 提出したパワーポイントをもとに、鑑賞した美術について感想を伝えあう (1年クラス委員が司会進行)	当日までに読書課題のレポートを提出（PPT） 各クラス教室で担任が見守り	D
12	10/14	小峰祭レポート	2年生の発表を見学・小峰祭に参加した感想文を提出	小峰祭パンフレット	F
13	11/29 クラス 単位	古典芸能鑑賞報告会	クラス教室に分かれて提出したパワーポイントをもとに、鑑賞した古典芸能について感想を伝えあう（1年クラス委員が司会進行） コース選択オリエンテーション	古典芸能鑑賞レポート提出 各クラス教室で担任が見守り	E
14	12/13	マナー講習	洋食コース料理のマナーを学ぶ	ファイル内資料熟読 課題：実践レポート	E
15	12/20	振り返り発表会 に参加	2年生のコース別活動の成果を知る 学長挨拶（建学の精神）講話を聴く	各コース担当者の指示 課題：感想レポート	E
芸術分野担当			吉田 収		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して採点者よりフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 英会話

[ English Conversation ]

チャールズ・ハースト

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマ No.	ナパリング No.
1年生	後期	演習	2単位	選択	教養科目		DP1c・DP1f	No. Gg1r014・Fg1r206
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業中の取り組み状況 10% (授業内では英語で話す)、課題 30% (毎週時間通りに提出)、中間プロジェクト 30% (海外の食事を料理してレシピを作る)、期末プロジェクト 30% (小田原短大のPR 発表) を基本配分とする総合評価。授業はPC を使って行います。							
教科書	『Passport 2』 Oxford							
参考文献	ウェブ上で週によって異なるサイトを使用 (YouTube、Google)							

## 授業概要

学生の speaking と listening を強くするためのものです。単語、文法、他の国のカルチャーを学んでいきます。海外でのホームステイをテーマにした教材を使って、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高めることが狙いです。ここに扱われている海外でのホームステイでの 15 場面の英会話を、CD とテキストを使って学びます。授業は、1 回 1・2 場面の速さで進む予定。毎回の授業では、最初に CD を聞きながら英語をリスニングし、次にそれをテキストに書きこむ。その後再び CD を聞きながら、発音・イントネーション・速さの点で自然な英語が身につくよう口頭練習をします。

## 学習成果

- ① 知識面 英語での基本的なコミュニケーション能力を高める。
- ② 技術面 CD でのリスニングと口頭練習に集中し、英語の音・速さ・リズムに慣れる。
- ③ 理念・理解 テキストの各章にある基本単語・熟語・会話文を確実に身につける。  
海外でのホームステイの基礎知識を身につけ、さらに他国の文化や人々への理解を深める。

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料 No) *作成課題内容	
1	授業ガイダンス 初対面の挨拶	自己紹介・授業概要の説明と受講上の注意点・プロジェクト・評価方法を伝える。(初対面の挨拶を学ぶ)	自分の家族の写真を携帯の中で用意する	P
2	旅のスタート	Chapter 1: What's the purpose of your visit? Chapter 2: How much is it? (フライト状況・買い物)	(第 1 章・2 章 p 8-11) CD で Word Check 1&2	P
3	電車	Chapter 3: When is the next train to Xi'an (電車の乗り方)	(第 3 章 p 12-13) CD で Word Check 3	D
4	ホテル 観光	Chapter 4: The TV is broken. (ホテルについて学ぶ) Chapter 5: What is there to see? (観光について学ぶ)	(第 4 章・5 章 p 14-17) CD で Word Check 4&5	D
5	レンタル 紹介	Chapter 6: I'd like to rent a snowboard please. (レンタルの仕方について学ぶ) Chapter 7: Tell me about your country. (紹介について学ぶ)	(第 6 章・7 章 p 20-23) CD で Word Check 6&7	D
6	会話	Chapter 8: How was your weekend? (週末について語る)	(第 8 章 p 24-25) CD で Word Check 8	D
7	中間プロジェクト	課題: 感謝祭の料理を調理して、英語のレシピと感想文を書く	課題: 感謝祭料理を作り、レシピと感想文を書く	E
8	ケガ カフェ	Chapter 9: Does it hurt? (ケガをした時について学ぶ) Chapter 10: I'd like a cup of coffee please. (カフェで注文の仕方について学ぶ)	(第 9 章・10 章 p 26-29) CD で Word Check 9&10	D
9	ツアー PC	Chapter 11: Would you like to visit the Temple of Heaven? (ツアーについて学ぶ) Chapter 12: I want to send an attachment. (PC について学ぶ)	(第 11 章・12 章 p 32-35) CD で Word Check 11&12	D
10	食事	Chapter 13: I'd like a chicken sandwich, please. (食事について学ぶ)	(第 13 章 p 36-37) CD で Word Check 13	D
11	道案内	Chapter 14: Go straight along this road. (道案内について学ぶ)	(第 14 章 p 38-39) CD で Word Check 16	D
12	助けてもらう	Chapter 16: Excuse me. Can you help us? (助けてもらう方法について学ぶ)	(第 16 章 p 50-51) CD で Word Check 19	D
13	帰り道	Chapter 19: Did you pack this bag yourself? Chapter 20: Are you going snowboarding again? (旅のかえり道の話について学ぶ)	(第 19 章・20 章 p 50-53) CD で Word Check 19&20	D
14	期末プロジェクト	期末プロジェクト・授業内フィードバック	課題: 小田原短大の PR 発表	P
15	単語と文章	第 1 章から第 20 章までの見直し	CD を聞いてくること	D

## 備考

毎回出席して、積極的に授業に参加してください。  
本学に 23 年間勤務し、日本語も話せますので、海外のことで、知りたい事柄、旅行等についていつでも声をかけてください。各授業の前には 45 分程度の予習をし、授業後には復習をすること。

# 基礎学力演習 I

間野 百子 大浦 賢治

[ Basic Academic Training I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーNo.
1年生	前期	演習	1単位	選択必修	教養科目	学科履修指定科目	DP1c	No. Cg1n208
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業中の取り組み(課題に対する発表)40%、授業内テスト(筆記試験 3 回)30%、レポート課題(作文・小論文の作成 15 回)30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	改訂『保育学生のための基礎学力演習』(馬見塚昭久・大浦賢治 編著、中央法規出版)							
参考文献	『保育用語辞典』(谷田貝公昭、一藝社)							

**授業概要** この科目における「基礎学力」とは、保育者を目指すために必要な基礎的教養や、保育現場で必要とされる国語力、生活技術等である。ここでは特に、敬語や日本語文法、文章力や読解力に焦点を当て、毎回、論作文や名文音読を繰り返し、確かな教養と国語力を伸ばす。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育者として知っておくべき教養事項についての知識を得る。
  - ② 技術面 読みやすい作文や小論文が書けるようになる。
  - ③ 理念・理解 日本語の適切な使い方(敬語や接続語など)について理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L G W
1	保育に関する基本事項	保育用語(保育に関する基本事項)、文節、名文音読、論作文、作文・小論文の書き方について学ぶ	テキスト pp.4-5 を予習する。	G W
2	5 領域	保育用語(5 領域)、主語と述語、名文音読、論作文、基本的なマナーについて学ぶ	作文「私という人間」の構想メモを作成する。	G W
3	子どもの育ち①	保育用語(子どもの育ち①)、修飾語、名文音読、論作文、平仮名と片仮名について学ぶ	小論文「瓶と缶」の構想メモを作成する。	G W
4	子どもの育ち②	保育用語(子どもの育ち②)、指示語、名文音読、論作文、尊敬語①について学ぶ、小テスト①	作文「わたしの町」の構想メモを作成する。	G W
5	子どもの育ち③	保育用語(子どもの育ち③)、動詞、名文音読、論作文、尊敬語②について学ぶ	小論文「鉛筆とボールペン」の構想メモを作成する。	G W
6	遊びにかかわる子どもの発達	保育用語(遊びにかかわる子どもの発達)、品詞、名文音読、論作文、謙譲語について学ぶ	作文「ペット」の構想メモを作成する。	G W
7	子どもの遊び	保育用語(子どもの遊び)、オノマトペ、名文音読、論作文、実習オリエンテーションのマナー	小論文「好きな季節の魅力」の構想メモを作成する。	G W
8	遊びの形態	保育用語(遊びの形態)、能動態と受動態、名文音読、論作文、実習に適した髪型、メイク、服装について学ぶ、小テスト②	作文「消しゴム」の構想メモを作成する。	G W
9	母子の絆	保育用語(母子の絆)、仮名遣い①、名文音読、論作文、園での言葉遣いについて学ぶ	小論文「国内旅行と海外旅行」の構想メモを作成する。	G W
10	保育の形態①	保育用語(保育の形態①)、仮名遣い②、名文音読、論作文、書中見舞い状の書き方、お礼状の書き方について学ぶ	作文「雨」の構想メモ作成。 *ふれあい体験でお世話になった園へお礼状を作成。	G W
11	保育の形態②	保育用語(保育の形態②)、接続語①、名文音読、論作文、安全対策について学ぶ	小論文「豊かさとは何か」の構想メモを作成する。	G W
12	保育の形態③	保育用語(保育の形態③)、接続語②、名文音読、論作文、守秘義務について学ぶ、小テスト③	作文「窓の外」の構想メモを作成する。	G W
13	保育の計画	保育用語(保育の計画)、接続語③、名文音読、論作文、ネット、SNS、メールのマナー、著作権について学ぶ	小論文「学校生活の意義」の構想メモを作成する。	G W
14	基本的生活習慣	保育用語(基本的生活習慣)、接続語④、名文音読、論作文、ら抜き言葉について学ぶ	作文「夏休み」の構想メモを作成する。	G W
15	子どもの食と栄養①	保育用語(子どもの食と栄養①)、接続語⑤、名文音読、論作文、掃除の仕方について学ぶ	小論文「友達感覚の親子関係の是非」の構想メモを作成する。	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 基礎学力演習Ⅱ

間野百子 大浦賢治

[ Basic Academic TrainingⅡ ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	後期	演習	1単位	選択必修	教養科目	学科履修指定科目	DP1c	No. Cg1n209
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法及び基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業中の取り組み(課題に対する発表)40%、授業内テスト(筆記試験 3回)30%、レポート課題(作文・小論文の作成 15回) 30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	改訂『保育学生のための基礎学力演習』(馬見塚昭久・大浦賢治 編著、中央法規出版)							
参考文献	『保育用語辞典』(谷田貝公昭、一藝社)							

**授業概要** この科目における「基礎学力」とは、保育者を目指すために必要な基礎的教養や、保育現場で必要とされる国語力、生活技術等である。ここでは特に、敬語や日本語文法、文章力や読解力に焦点を当て、毎回、論作文や名文音読を繰り返し、確かな教養と国語力を伸ばす。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育者として知っておくべき教養事項についての知識を得る。
  - ② 技術面 読みやすい作文や小論文が書けるようになる。
  - ③ 理念・理解 日本語の適切な使い方(敬語や接続語など)について理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	子どもの食と栄養②	保育用語(子どもの食と栄養②)、接続語⑥、名文音読、論作文、ペンの持ち方について学ぶ	作文「朝食」の構想メモを作成する。	G W
2	子どもの保健	保育用語(子どもの保健)、可能表現、名文音読、論作文、お茶の作法について学ぶ	小論文「遊びの大切さ」の構想メモを作成する。	G W
3	子どもの生活	保育用語(子どもの生活)、適切な表現①、名文音読、論作文、長音表記について学ぶ	作文「恋」の構想メモを作成する。	G W
4	幼児教育	保育用語(幼児教育)、適切な表現②、名文音読、論作文、食事のマナーについて学ぶ、小テスト①	小論文「不言実行と有言実行」の構想メモを作成する。	G W
5	保育の職場	保育用語(保育の職場)、敬語①、名文音読、論作文、時間の計算について学ぶ	作文「思い出の味」の構想メモを作成する。	G W
6	注意すべき病気	保育用語(注意すべき病気)、敬語②、名文音読、よくある表記の間違ひについて学ぶ	小論文「世界平和の実現方法」構想メモを作成する。	G W
7	子どもの福祉	保育用語(子どもの福祉)、適切な表現③、名文音読、論作文、海外保育事情について学ぶ	作文「私のお気に入り」の構想メモを作成する。	G W
8	安全	保育用語(安全)、比喩、名文音読、論作文、間違ひやすい同音・同訓異義語について学ぶ、小テスト②	小論文「幸福とは何か」の構想メモを作成する。	G W
9	日常における保育の進め方	保育用語(日常における保育の進め方)、四字熟語、名文音読、論作文、季節の行事について学ぶ	作文「正月」の構想メモを作成する。	G W
10	虐待への対応	保育用語(虐待への対応)、帰納法、名文音読、論作文、神社とお寺について学ぶ	小論文「今どきの若者」の構想メモを作成する。	G W
11	保育に関する相談	保育用語(保育に関する相談)、演繹法、名文音読、論作文、よくある表記の間違ひについて学ぶ	作文「最近感動したこと」の構想メモを作成する。 *配属予定の実習園への年賀状を作成する。	G W
12	障害児保育	保育用語(障害児保育)、適切な表現③、名文音読、論作文、海外保育事情について学ぶ、小テスト③	小論文「働くことの意味」の構想メモを作成する。	G W
13	幼保小の連携	保育用語(幼保小の連携)、適切な表現④、名文音読、論作文、お礼状の書き方について学ぶ	作文「名前」の構想メモを作成する。	G W
14	これからの保育と教育	保育用語(これからの保育と教育)、適切な表現⑤、名文音読、論作文、昆虫や小動物の飼育について学ぶ	小論文「ロボットによる保育はどうあるべきか」の構想メモを作成する。	G W
15	ことわざ	保育用語(ことわざ)、適切な表現⑥、名文音読、論作文、保育者としての心構えについて学ぶ	作文「旅」の構想メモを作成する。	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。



# 健康・スポーツ実技

水島徳彦

[ Health and Sports Actual Technique ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリングNo.
1年生	前期	実技	1単位	必修	教養科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP1c	No. Cg1n116
教職課程科目区分 含める必要事項		施行規則66条の6に定める科目						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(実技試験2回)60%、レポート課題(3回)30%、授業中の取り組み(安全に取り組んでいるか等)10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『フットサルクリニック』高橋書店、 『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版							
参考文献	『観る前に読む 大修館スポーツルール2020』大修館書店編集部							

**授業概要** 本授業では、これまでに学習してきた健康や運動に関する基本的な知識、スポーツ種目の基礎技能の向上を目指し、実生活に役立つスポーツ実践、さらに生涯スポーツへと方向づけることを目的とする。また、スポーツ実践を通して、自らの体力を維持・増進させることを目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 ルール、ゲーム戦術、審判方法について知識を得る。
  - ② 技術面 球技、ラケットスポーツの基礎技術を身につける。
  - ③ 理念・理解 スポーツを通じた、体力の維持・増進に対する実践力を理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L E
1	バドミントン	シングルス、ダブルスのコートの把握及び設営方法	それぞれの打ち方の長所を調べる(教科書 p.132-135)	E
2	バドミントン	基本技術の習得Ⅰ:サーブ、レシーブ、ドライブ、クリアなど	*レポート課題「バドミントンを調査する」	E
3	バドミントン	基本技術の習得Ⅱ:スマッシュ、プッシュ、ヘアピン、ドロップなど	ダブルスのフォーメーションについて調べる	E
4	バドミントン	ゲームⅠ(ダブルス)(審判方法含む)	達成点と課題点をまとめる	E
5	バドミントン	ゲームⅡ(ダブルス)(審判方法含む)	達成点と課題点をまとめる	E
6	バドミントン	ゲームⅢ(シングルス)(審判方法含む)	達成点と課題点をまとめる	E
7	バドミントン	ゲームⅣ(シングルス)(審判方法含む)、実技試験	達成点と課題点をまとめる	E
8	フットサル	コートの理解、基本技術の習得Ⅰ:ボールフィーリング、ドリブル	キックの種類を調べる(教科書 p.38-59)	E
9	フットサル	基本技術の習得Ⅱ:パス、シュート	*レポート課題「フットサルを調査する」	E
10	フットサル	ミニゲームⅠ	達成点と課題点をまとめる	E
11	フットサル	ゲームⅠ(審判方法含む)	達成点と課題点をまとめる	E
12	フットサル	ゲームⅡ(審判方法含む)	達成点と課題点をまとめる	E
13	フットサル	ゲームⅢ(審判方法含む)	達成点と課題点をまとめる	E
14	フットサル	ゲームⅣ(審判方法含む)、実技試験	達成点と課題点をまとめる	E
15	ニュースポーツ	生涯スポーツの一環としてニュースポーツの実施	*レポート課題「ニュースポーツについて調査する」	E

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 健康・スポーツ理論

[ Theory of Health and Sports ]

水島 徳彦

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
1年生	後期	講義	1単位	必修	教養科目	幼稚園2種免許必修 保育士資格必修	DP1c	No. Cg1n115
教職課程科目区分 含める必要事項		施行規則66条の6に定める科目						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。レポート課題(2回)80%、授業中の取り組み(授業ごとのディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等)20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『これからの健康とスポーツの科学第5版』講談社							
参考文献	『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版							

**授業概要** これまで、健康についてあまり意識しなくても、特に問題はなかったのではないだろうか。しかし、健康は、自己管理が重要であり、人生の目標を達成する上で大切な一要素である。よって、本講義では、自己の健康を維持・増進させるために必要な基本的知識や現代生活における身近な健康問題を取り上げ、健康生活実践の方法や態度を身につけることを学ぶ。また、運動やスポーツにより健康増進を図るために、その意味や文化的意義についても学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 健康やスポーツの概念についてさまざまな面から説明できる。
  - ② 技術面 現代社会を健康に生きる方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 健康の概念について理解する。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィードバック、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	健康とは	健康の概念・定義について	教科書1章	D P	
2	からだの構造と機能	人体の構造と機能について	教科書5章	D P	
3	健康の三要素	健康の三要素について	教科書2章	D P	
4	健康と運動	健康と運動、体力の関連性について	自身の生活習慣を把握し、まとめる	D P	
5	人口動態を知る	世界の人口動態について	世界情勢について調べる。 事後配布資料を読む。	D P	
6	心とからだの健康	心とからだの関わりと健康について	教科書15章	D P	
7	女性とスポーツ	女性アスリートが直面する課題について	*レポート課題「女性アスリートの現状」 事後配布資料を読む。	D P	
8	現代生活における課題	現代を生きるための課題について	配布資料をよく読んでおく *レポート課題「自身を取り巻くスポーツ環境について」	D P	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 海外文化事情

塩川 雅史 山本 華子

[ Intercultural Understanding ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	前期集中	演習	1単位	選択	教養科目		DP1c・DP1f	No. Cg1n212・Fg1n214
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①授業中の取り組み(レポート、フォーム提出)60% ②海外旅行体験課題 40% を基本的配分とする総合評価							
教科書	プリントを配付する。							
参考文献	砂崎 良『リアルな今がわかる 日本と世界の地理』(朝日新聞出版、2020) 世界遺産検定事務局『きほんを学ぶ世界遺産 100 世界遺産検定 3 級公式テキスト』(マイナビ出版、2021) 村田晶子 編著『大学における多文化体験学習への挑戦』(ナカニシヤ出版、2018) プリントを配付する。							

**授業概要** グローバリズムの進展とともに、食の現場も保育の現場も、今後ますます多様な文化的背景を持った人たちが増えることが予想される。そのため、社会に出ていくためには、広く世界情勢を知るとともに、日本及び日本と関係の深い国々の文化事情を知ることが必要である。この科目では、世界情勢や各国の政治・文化、その背景となる思想などに触れ、国際感覚豊かな社会人としての素養を身につけることを目的とする。

- 学習成果**
- ① 知識面 海外の文化について知識を得る。
  - ② 技術面 海外文化と日本文化の違いについて説明できる。
  - ③ 理念・理解 海外文化の魅力について知り異文化について理解する。

回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L G W E G W E G W F E
1		世界に目を向けよう①	ガイダンス、世界の国々(自然、言語、暮らし)	地球儀や世界地図を見て、五大大陸を把握する	
2		世界に目を向けよう②	日本の歴史と多文化共生	日本の歴史を振り返る	
3		海外の生活を知ろう	海外在住の方とのオンラインによる交流 (担当:外部講師)	当該国について調べる	
4		世界の国々を知ろう①	在日外国人の講話 (担当:外部講師)	世界について知っていることをまとめる	
5		世界の国々を知ろう②	海外文化体験 (担当:外部講師)	当該国について知りたいことをまとめる	
6		世界の自然と文化を知ろう	ユネスコ世界遺産(文化遺産、自然遺産、複合遺産)	日本の世界遺産について調べる	
7		バーチャル海外旅行の計画	バーチャル海外旅行について調査し、計画を立てる	行きたい国を決めて下調べする	
8		バーチャル海外旅行体験	バーチャル海外旅行を体験し、レポートを作成する	ツアーで巡る場所について下調べする	

**備考** 各授業の前に 45 分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。課題作成に積極的に取り組むこと。課題等に関して授業内にフィードバックをする。第 1 回～第 3 回は、9/11、第 4 回～第 6 回は 9/12 に開講する集中講義である。授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 児童文化

[ Children's Culture ]

炭 美智子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリングNo.
1年生	前期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格選択必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs1n118
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(筆記試験)10% ②まとめ試験 40% ③課題提出 2作品と実技発表 40%(20×2) ④授業中の取り組み 10%を基本配分とし、総合的に評価する。							
教科書	『児童文化 保育内容としての実践と展開』小川清実編 萌文書林							
参考文献	『乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』福岡貞子・磯沢淳子編著(ミネルヴァ書房)『アレンジたっぷりパネルシアター』・『アレンジたっぷりペープサート』阿部恵著(ひかりのくに)							

**授業概要** 「児童文化」は、子どもの健全な心身の発達に深いかわりを持つ。日本独自のものであり、独自の歴史を辿ってきたといわれている。子どもが主体的に関わり、子ども社会の中で伝えられ創り出される文化でもある。「児童文化」の学習を通して、子どもにとっての遊びとは何か、遊びの意味や遊びで育つものは何かを学ぶ。保育現場で役立つ「パネルシアター」や「ペープサート」を作成し、実際に演習を行い実践力を身につける。

**学習成果**

- ① 知識面 「児童文化」「児童文化の伝承」に果たしてきた子どもの役割を知る。
- ② 技術面 「児童文化財」と、こどもの健全な成長発達につながる遊びを学ぶ。保育の展開に繋げるために、様々な保育技術を学ぶ。実際にシアター作成を通して演習技術を身につける。
- ③ 理念・理解 「児童文化」と「児童文化財」について学び、その歴史や内容について知識を得る。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	児童文化とは	児童文化の歴史や考え方について学び、児童文化財とは何かその基礎を学ぶ。	教科書 (P8 - 18)	
2	子どもにとっての遊び	遊びとは何か。遊びで育つもの、遊びの伝承性について学び、遊びの伝承者としての保育者の役割について学ぶ。	教科書 (P19 - 27)	
3	子どもの遊びの変化	歴史の上に、子どもの遊びがどのように刻まれてきたのか、時代を超えて繋がっていく遊びの意味を知る。	教科書 (P28 - 38)	
4	保育における児童文化①	保育の歴史と児童文化・児童文化財の定義、保育の歴史にみる児童文化を学ぶ。	教科書 (P39 - 46)	
5	保育における児童文化②	集団保育における児童文化・児童文化財の活用について学ぶ。	教科書 (P46 - 56) 授業内テスト	
6	「伝承遊び」	保育環境としての児童文化財「伝承遊び」について学ぶ。	教科書 (P154 - 166)	
7	保育への展開 パネルシアター ①	保育環境としての児童文化財「パネルシアター」について学ぶ。	教科書 (P90 - 97)	
8	保育への展開 パネルシアター ②	「パネルシアター」に適した物語や歌などを探して、準備をする。	パネルシアター作成準備	E
9	保育への展開 パネルシアター ③	「パネルシアター」に適した物語や歌などを探して、実際に作成する。	パネルシアター作成	E
10	保育への展開 パネルシアター ④	「パネルシアター」を完成させ、模擬保育として実際に演じる。実践から考察・分析してまとめる。提出する。	パネルシアター発表/提出	E
11	保育への展開 ペープサート ①	保育環境としての児童文化財「ペープサート」について学ぶ。(P98 - 107)	教科書 (P98 - 107)	
12	保育への展開 ペープサート ②	「ペープサート」に適した物語や歌などを探して、準備をする。	ペープサート作成準備	E
13	保育への展開 ペープサート ③	「ペープサート」に適した物語や歌などを探して、実際に作成する。	ペープサート作成	E
14	保育への展開 ペープサート ④	「ペープサート」を完成させ、模擬保育として実際に演じる。実践から考察・分析してまとめる。提出する。	ペープサート発表/提出	E
15	まとめ	授業のまとめと振り返り。遊び上手の保育者になるための課題を見出す。	まとめの試験	

**備考** 各授業の前に45分程度の子習をし、授業後には復習をすること。  
テスト・課題等に関してフィードバックを行うので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 子どもの保健

成川美和

[ Health for Children ]

対象	期別	形態	単位	卒業条件	教諭・専門教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
1年生	前期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs1c121
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内テスト50%、期末試験50%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『子どもの保健と安全』高内正子編著 教育情報出版							
参考文献	『保育者のための子どもの保健Ⅰ』鈴木美枝子編著 創成社、『子どもの保健テキスト』小林美由紀編著 診断と治療社、『子どもの保健Ⅰ』佐藤益子編著 ななみ書房、『よくわかる子どもの保健』竹内義博・大矢紀昭編 ミネルヴァ書房、『保育園の保健のしごと』東社協保育士会保健部会編 赤ちゃんとママ社							

**授業概要** 子どもの心身の健康と保健の意義を理解し、子どもの身体的発育・発達、心身の健康状態とその把握、子どもの疾病の予防及び適切な対応について知識が得られるように講義する。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもへの保健活動の意義と目的、現代社会の子どもの健康に関する現状と課題がわかる  
子どもの身体的発育・運動機能・生理機能の発達について知る  
子どもの不調、子どもの疾病の特徴、予防方法、適切な対応の知識を得る
  - ② 技術面 子どもの心身の健康状態の観察ができるようになる
  - ③ 理念・理解 地域における保健活動、保護者との情報共有等の必要性がわかり、方法等を理解する

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L D
1	子どもの心身の健康と保健の意義	保健活動の意義と目的・健康の概念と健康指標・健康に関する現状と課題・保健活動と子どもの虐待防止	1章1節～4節 p12-19	D
2	子どもの保健の諸統計	保健と人口統計・子どもの保健と出生率・母子保健(周産期)と死亡率・年齢別事故・けが・病気の予防	2章1節～4節 p20-31	D
3	子どもの心身の発達とその評価	発達の順序と連続性・発達の臨界期と基本的方向性・子どもの精神発達・子どもの尊信の健康状態とその把握	3章1節～4節 p32-41	D
4	子どもの生理的機能の発達①	生体の成り立ちとホメオスタシス・子どもの呼吸と呼吸数・乳幼児突然死症候群(SIDS)・体温	4章1節～4節 p42-49	D
5	子どもの生理的機能の発達②	血液・循環・脈拍数・消化吸収と排泄・睡眠とホルモン	4章5節～7節 p50-55	D
6	子どもの脳神経系の発達	脳神経系のしくみ・神経細胞と髄鞘化・脳神経系の発達と反射	5章1節～3節 p56-61	D
7	子どもの運動機能の発達とその評価	運動機能の発達・運動発達の方向性・運動発達の評価	6章1節～3節 p62-67	D
8	感覚の発達と評価	視覚・聴覚の発達・味覚・嗅覚・触覚の発達	7章1節～3節 p68-73	D
9	子どもの歯の発達とケア	乳歯と永久歯の発達・歯の健康状態・健康管理	8章1節～3節 p74-79	D
10	子どもの病気と予防・手当①	病気・先天異常・呼吸器の病気・循環器の病気	9章1節～4節 p80-87	D
11	子どもの病気と予防・手当②	血液の病気・消化器の病気・悪性腫瘍・精神神経系の病気・	9章5節～8節 p88-95	D
12	子どもの病気と予防・手当③	泌尿器・生殖器の病気・皮膚の病気・整形外科的病気・口腔の病気	9章9節～12節 p96-103	D
13	子どもの病気と予防・手当④	眼の病気・耳・鼻の病気・内分泌の病気・予防接種	9章13節～16節 p104-112	D
14	特別な配慮を要する子どもへの対応	保育における保健的対応・3歳未満への対応・アレルギー性疾患への対応・その他の慢性疾患への対応・障害のある子ども、医療的ケア児への対応	14章1節～5節 p141-152	D
15	期末試験	試験・自己採点による内容の振り返り	試験(全ての範囲)	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。授業内テストに関しては初回に提示する。テスト課題に関して授業内で振り返りプリントでフィードバックする。

保育・一年生

# 子ども家庭福祉

[ Child and Family Welfare ]

武山美子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
1年生	前期	講義	2単位	必修	専門科目	保育士資格必修	DP2c	No. Cs1n128
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内小テスト(筆記3回)70%、レポート課題(3回)30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『児童の福祉を支える 子ども家庭福祉』吉田真理著 萌文書林							
参考文献	『子ども家庭福祉論』柏女霊峰 誠信書房 『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック』全国保育士養成協議会(監修) 中央法規出版							

**授業概要** 保育士には、子ども家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度が必須である。この授業では、子ども家庭福祉について学ぶことを通じて、福祉職としての保育者の役割を意識化することを期している。

- 学習成果**
- ① 知識面 児童福祉施設の種類について説明ができる。
  - ② 技術面 現代社会の子どもに関する課題をみつけることができるようになる。
  - ③ 理念・理解 地域にどのような子育て支援が行われているか理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	子ども家庭福祉の理念と概念	子ども家庭福祉の理念と概念、実際の活動内容、実践対象と方法(教科書 第1章)	子ども家庭福祉の理念と概念を熟読して参加	A L D
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷	海外の子ども家庭福祉の歴史、わが国の子ども家庭福祉の歴史現代社会と子ども家庭福祉(教科書 第1章)	子ども家庭福祉の歴史の変遷を熟読して参加	P
3	子どもの人権擁護Ⅰ	子どもの人権擁護の歴史の変遷、児童の権利に関する条約(教科書 第2章)	児童の権利に関する条約を熟読して参加	D
4	子どもの人権擁護Ⅱ	子どもの権利を護る仕組み、現代社会における子どもの人権擁護の課題(教科書 第2章)	子どもの権利擁護の仕組みを熟読して参加*小テスト	G W
5	子ども家庭福祉の制度と法体系	日本国憲法、児童福祉六法、児童虐待防止法、児童福祉施設運営基準、次世代育成支援対策推進法(教科書 第3章)	子ども家庭福祉の制度と法体系を熟読して参加	P
6	子ども家庭福祉行財政と実施機関	厚生労働省、地方自治体、児童相談所、要保護児童対策協議会(教科書 第3章)	子ども家庭福祉行財政と実施機関を熟読して参加	P
7	児童福祉施設等	児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、母子生活支援施設、障害児施設、保育所(教科書 第3章)	児童福祉施設等を熟読して参加 *レポート課題	D
8	子ども家庭福祉の専門職・実施者	保育所や施設で働く人たち、里親、住民による児童家庭福祉活動(教科書 第3章)	子ども家庭福祉の専門職・実施者を熟読して参加	P
9	少子化と子育て支援サービス、母子保健	少子化の進行、新待機児童ゼロ作戦、こんにちは赤ちゃん事業(教科書 第4章)	少子化と地域子育て支援、母子保健を熟読して参加	G W
10	多様な保育ニーズへの対応	地域における保育、幼保連携型認定こども園(教科書 第4章)	多様な保育ニーズへの対応を熟読して参加*小テスト	P
11	児童虐待、ドメスティックバイオレンス	児童虐待、ドメスティックバイオレンス、社会的養護(教科書 第4章)	児童虐待、DVを熟読して参加 *レポート課題	D
12	障害のある児童、少年非行等、ひとり親家庭	在宅障害児のための制度、ノーマライゼーション、少年非行(教科書 第4章)	障害のある児童、少年非行等ひとり親家庭を熟読して参加	G W
13	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	わが国の子ども家庭福祉の方向性、次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進(教科書 第5章)	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進を熟読して参加	G W
14	保育と近接分野との連携とネットワーク	保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク、諸外国の現状、アクションプログラム(教科書 第5章)	保育と他分野との連携とネットワークを熟読して参加 *小テスト	P
15	全体総括まとめ	児童の権利に関する条約、現代の児童福祉のあり方と方向性について確認し、児童福祉の学びを再確認する	全体総括まとめ *レポート課題	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 音楽表現 I

[ Music Expression I ]

今泉明美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
1年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許選択必修 保育士資格必修	DP2c	No. Cs1c133
実務経験との関連性		声楽家としての25年以上に渡る演奏活動や、保育現場における音楽表現活動の指導経験を活かして声を含む身体的な表現法の理論に基づく保育者としての歌唱技能の指導や、保育における歌唱や実践的な音楽教育を行う。						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(声楽実技試験 20%、基礎音楽知識筆記試験 2回 40%、音楽表現実践に関する小テスト3回各5%等)75%、②レポート課題(楽曲分析)5%、③授業中の取り組み(音楽実践)20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術』今泉明美編著他(萌文書林) 『保育のためのやさしい子どもの歌』有村さやか・今泉明美他編著(ミネルヴァ書房)・音楽ファイル資料							
参考文献	Video Tone ビデオ ライブラリー『音楽的な遊びに見る乳幼児の発達』(株)新宿スタジオ(0~5歳児全4巻) 『声と日本人』(米山文明著・平凡社)、DVD声の不思議:米山文明監修 音楽之友社							

**授業概要** この科目は保育士資格取得における保育の内容の理解と方法に関する科目である。保育現場での子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な音楽基礎理論、歌唱の技能や知識を学ぶ。また、音楽的表現実践を通して、保育や乳幼児の発達を踏まえた音楽音環境や音楽的表現遊びの基礎を学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 音楽基礎理論や乳幼児の音楽的表現遊びを豊かに実践するための音楽表現活動の知識を得る
  - ② 技術面 保育者として歌唱を含む音楽表現や音楽表現活動の支援方法の基本的技術を身につける
  - ③ 理念・理解 保育における音楽表現遊びや活動、及びそれらの支援の方法の基本的考え方を理解する

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	子どもの音楽的表現・表現活動	授業ガイダンス・子どもの音楽的表現とクラス活動のつながり、保育者の支援、幼稚園教育要領領域「表現」	p124~125、130~134 課題小テスト①学習	A L D
2	音楽の基礎知識①	音楽の基礎知識:(五線・ト音・ヘ音記号)音名(幹音、派生音)小節(小節線と小節、複縦線、演奏順序)	p2~15(課)旋律の特徴調べ p12、14	D
3	音楽の基礎知識②	音楽の基礎知識:楽曲の形式理解(身近な曲の形式)	p16~22(課)楽曲形式調べ	E
4	音楽の基礎知識③	音楽の基礎知識:音符・休符とリズム	p23~27、67~72、78~80(課) p26、27	E
5	音楽の基礎知識④ 歌唱と音楽表現①	音楽の基礎知識:拍と拍子、弱起の曲、新譜の見方 歌唱:子どもの声・歌唱の育ちと支援	p27~33、128~130、151~154(課)拍子調べテスト学習	E
6	音楽の基礎知識⑤ 歌唱と音楽表現②	音楽の基礎知識:確認テスト①と前半の内容のまとめ 歌唱:表現実践による歌唱の意義理解	p2~33、141~142(課) p142	E
7	音楽の基礎知識⑥ 歌唱と音楽表現③	音楽基礎知識:奏法記号・楽語 保育者の歌唱技術(呼吸法と発声法)子どもの歌 視覚的教材による導入法紙芝居作成の説明	p76~78、147、楽譜 p44、50(課)小テスト②学習・紙芝居作成	G W
8	音楽の基礎知識⑦ 歌唱と音楽表現④	音楽の基礎知識:音程の理解(音程の種類、全音・半音) 歌唱:子どもの歌の歌唱と音楽表現遊び	p33~40、(課)小テスト③楽譜 p43、120	D E
9	音楽の基礎知識⑧ 歌唱と音楽表現⑤	音楽の基礎知識:音程と音階・調号・調性 歌唱:季節の歌楽しい歌歌唱・音楽的表現遊び	p33~52、楽譜 p26、89(課) p39Challenge14	E D
10	歌唱と音楽表現⑥	歌唱:季節の歌楽しい歌歌唱・音楽的表現遊び ボイスアンサンブル	p81 楽譜 p113、138、183、193~196(課)歌唱練習	E
11	音楽の基礎知識⑨ 歌唱と音楽表現⑦	音楽基礎知識:和音・コードネーム(主要三和音、コードネームと伴奏付け)歌唱:楽しい歌唱	p53~66・楽譜 p22、90、146(課)楽譜作成・練習	E
12	音楽の基礎知識⑩ 歌唱と音楽表現⑧	音楽の基礎知識:コード実践・これまでの復習 歌唱:歌唱:視覚的教材による導入法の実践(G実)	楽譜 p89、113、138、183 他 課題コード伴奏テスト学習	E
13	音楽の基礎知識⑪ 歌唱と音楽表現⑨	音楽の基礎知識:確認テスト②とまとめ 歌唱:視覚的教材による導入法の実践(G実)	1章 p33~74(課)歌唱の導入方法	E D
14	音楽の基礎知識⑪ 歌唱と音楽表現⑩	子どもの歌シート作成 子どもの歌歌唱	楽譜 p22、90、146(課)テスト曲練習子どもの歌シート	E
15	歌唱と音楽表現⑪	歌唱:歌唱パフォーマンスと振り返り・全体のまとめ	楽譜 p22、90、146(課)振り返り	E

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には提示した課題に取り組む。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。配布する振り返りプリント等には自主的に取り組む。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

保育・一年生

# 造形表現 I

[ Art Expression I ]

吉 田 収

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許選択必修 保育士資格必修	DP2c	No. Cs1c136
実務経験との関連性		保育者養成及び教職と、彫刻家としての制作活動や展覧会の発表歴の30年以上に渡る実務経験を活かして、造形全般の素材や技能の保育における指導や理論、そして実践的な造形教育を行う。						
成績評価	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①授業中の取り組み(制作姿勢) 30%・②ポートフォリオ(授業内容のまとめ) 40%・③提出作品(コラージュ作品2点) 30%の総合評価。							
教科書	『生活事例からはじめる造形表現』宮川 萬寿美編著、吉田 収、野津 直樹著 青踏社 必要に応じてプリントを配布する。使用教材：画用紙(八つ切り程度)、折り紙、水彩絵の具一式、鉛筆(2B)、ハサミ、カッターナイフ、ホチキス、糊等適宜指示あり。							
参考文献	『保育をひらく造形表現』横 英子著 萌文書林							

**授業概要** 子どもたちは、遊びを通して色々なことを学びます。造形の遊びでは、全身を使って表現し、人間らしい知識や心を獲得していきます。その子どもたちの清新な発想や創造的な思考を理解するためには、それに同調できるアンテナを持っていなければなりません。そのためには、自分の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが大切です。ここでは先ず、幼かった頃、強要される基準もなく、自分の気持ちのおもむくまま表現できた頃を思い出して、新鮮な気持ちで臨んで下さい。ここでは平面素材を中心に扱い、その可能性を学び、実践力を養います。

- 学習成果**
- ① 知識面 平面表現における素材の知識を得て、使用方法について説明できるようになる
  - ② 技術面 平面表現の素材を自由に活用して、自己表現ができるようになる
  - ③ 理念・理解 造形表現における平面表現の意義を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する

授業計画		D:ディカッション・ディバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A	L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容			
1	オリエンテーション 使用素材について	授業内容とともに平面表現で使用する用具、素材の説明	(第1部第1章1 p8-19) を通読しておく		P	
2	絵の具について フィンガーペインティング	平面素材である絵の具の説明と食用出来る絵具を使って、触感を体験。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章1(1),2-(1) p8-9、p19-20) を通読しておく		P E	
3	ドリッピング デカルコマニー	筆と絵の具を使って、偶然に出来る形や転写することの面白さを知る。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章1(2),2(1),(2) p9-10,p21-23、p25-29) を通読しておく		P E	
4	マーブリング スタンプング	野菜の断面を生かした押捺遊びを知る。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章2(2),3(4) p25-31) を通読しておく		P E	
5	パチック、スクラッチ	クレヨンと絵の具を使った技法。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章2(3) p41-42) を通読しておく		P E	
6	フロッターージュ (屋外制作)	擦り出しの不思議さと、テクスチャーの違いの面白さを知る。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章2(3) p33) を通読しておく		F E	
7	コラージュ	フロッターージュで採取した素材を生かした再構築作品の制作。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章2(3) p33) を通読しておく		P E	
8	ローラーを使って	ローラー二種類の特性を生かした造形遊び。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章2(2) p31-33) を通読しておく		P E	
9	紙版画	画用紙を使った版画制作。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章2(3)P34-35) を通読しておく		P E	
10	実践へ「見立て活動から」	これまで学んできた表現を使い、見立て活動で壁画を制作する。グループ制作)平面表現の総括。	(第1部第1章2(5) p43-44) を通読しておく		P E	
11	実践へ「見立て活動から」	〃	〃		E	
12	実践へ「見立て活動から」	〃	〃		E	
13	フォトコラージュ	既成の印刷物から各自でテーマを絞り、再構築して作品を制作。子どもへの指導と援助、展開	(第1部第1章3(2) p79-80) を通読しておく		P E	
14	フォトコラージュ	〃	〃		E	
15	記録のまとめ	ポートフォリオの最終的なまとめ			E	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作制課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関して授業内にフィードバックをする。適宜プリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い特参すること。



# 保育者論

[ Theory of Nursery and Kindergarten Teacher ]

野津直樹

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	前期	講義	2単位	必修	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c143
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し積極的に参加すること 中テスト(第8回で実施予定)30、小テスト14回で70を基本的配分とする総合評価							
教科書	『保育者論～主体性のある保育者を目指して』野津直樹・宮川萬寿美編著 萌文書林							
参考文献	『保育所保育指針解説書』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							

**授業概要** 本授業では、「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を、学生を主体とした方法を用いて追及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育者(幼稚園教諭・保育士等)の役割を言える
  - ② 技術面 主体性(自ら考え、自ら動く)のある保育者として備えるべき考え方を身に付ける
  - ③ 理念・理解 保育者の葛藤がどう保育者としての成長を支えているのか、説明できる。

<b>授業計画</b>		【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容			
1	保育者とは何か①	・保育者とは何か、保育者像を探る (教科書 第1章 保育者とは)	教科書 第1章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
2	保育者とは何か②	・保育士と幼稚園教諭、保育教諭について (教科書 第1章 保育者とは)	教科書 第1章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
3	保育者の法的根拠	・保育士と幼稚園教諭、保育教諭の法的根拠 ・保育所保育指針と幼稚園教育要領 (教科書第1章保育者とは 第6章保育者の制度的位置付け)	教科書 第1・6章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
4	保育者の資質・能力	・保育者の資質・能力=専門的な知識・技術+人間性 ・保育者の専門性・人権・社会問題への配慮 (教科書 第7章 保育者の資質・能力)	教科書 第7章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
5	保育者の仕事と役割 ①	・幼稚園教諭の仕事と役割 (教科書 第2章 幼稚園教諭とは)	教科書 第2章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
6	保育者の仕事と役割 ②	・保育士の仕事と役割、保育教諭の仕事と役割 (教科書第3章 保育士とは 第4章 保育教諭及び施設で働く保育者)	教科書 第3・4章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
7	保育者の一日	・保育者が実際にどのような仕事をしているのか、中テスト (教科書 第2章 幼稚園教諭とは 第3章 保育士とは 第4章 保育教諭及び施設で働く保育者)	教科書 第2・3・4章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
8	保育の現代的な問題	・不適切な養育、保育をどう予防していくのか ・子どもの最善の利益、守秘義務 (教科書第5章保育の現代的な問題 第8章養護及び教育の一体的展開)	教科書 第5・8章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
9	保護者との協働 関係機関との協働	・保育者と保護者は子育てのパートナー (教科書 第11章 園内の保育者チーム及び家庭との連携) ・地域における子育て支援(教科書第12章専門機関や地域との連携)	教科書 第11・12章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
10	保育者の葛藤と成長 ①	・エピソードを通じて、その保育者の気持ちを探る (教科書 第9章 保育の質の向上 第13章 保育者の葛藤と成長)	教科書 第9・13章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
11	保育者の葛藤と成長 ②	・エピソードを通じて、その保育者の気持ちを探る、園の保育は園全体でつくる～ティーム学校運営への参画に向けて (教科書 第9章 保育の質の向上 第13章 保育者の葛藤と成長)	教科書 第9・13章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
12	保育における省察	・保育者の専門性と省察・PDCA サイクル (教科書 第10章 計画に基づく保育の実践と省察・評価)	教科書 第10章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
13	保育者として働くということ	・保育者として働き続けるための心の持ち様、必要なスキル (教科書 第14章 保育の現代的な問題)	教科書 第14章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G	W	
14	主体的な保育者を目指して①	・主体的な保育者を目指して、授業内スピーチを行う (教科書 第15章 保育者を目指すあなたへ)	教科書 第15章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示			P
15	主体的な保育者を目指して②	・主体的な保育者を目指して、授業内スピーチを行う ・まとめにかえて (教科書 第15章 保育者を目指すあなたへ)	教科書 第15章の熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示			P

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 教育原理

唐 沢 俊 光

[ Principle of Education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	前期	講義	1単位	必修	専門科目	幼稚園2種免許必修 保育士資格必修	DP2c	No. Cs1n144
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 人物研究レポート50%、授業内テスト50%を基本的配分とする総合評価。							
教科書	『人物で学ぶ教育原理』中村弘行 三恵社							
参考文献	『教育学・私の方法』中村弘行 愛生社							

**授業概要** 教育の語義・意義とともに保育との関係について理解する。  
教育の理論を教育史上の有名な人物にそくして理解する。それらはおおむね4つの理論に分類される。その特色を理解し、現在行われている子ども中心教育の背景を理解する。  
外国教育史と日本教育史を学ぶ。ともに政治経済史と密接な関連にあるため、世界史日本史の復習をしながらこれらを学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 教育の意義・目的、各種教育理論、教育史について理解している。
  - ② 技術面 歴史に残る教育家について調べ、レポートにまとめられる。
  - ③ 理念・理解 今日の教育がいかなる過程を経て築かれたのかについて理解している。

回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	AL
1		教育の意義と目的、保育との関連	教育の意義・目的 保育との関連	1-1. 1-2 *P191-197 の予習	D
2		早期教育理論	ジョン・ロック 貝原益軒	2-2. 3-1 *両者の共通点を考える。	D
3		幼児教育の3つの理論	コメニウス フレーベル モンテッソーリ	2-1. 2-5. 2-7 *3者の理論の要約→比較	D
4		子ども救済理論	ルソー ペスタロッチ	2-3. 2-4 *何からの救済か。	D
5		経験主義教育理論	ジョン・デューイ 倉橋惣三	2-6. 3-5 *プラグマティズム調べ学習	D
6		外国教育史	ソクラテス プラトン ボローニャ大学 ルターの宗教改革 産業革命と教育の大衆化	4-1~4. 4 *産業革命調べ学習	D
7		日本教育史 I	古代 中世武家社会 近世・私塾・藩校・寺子屋	5. 1~5-3 *吉田松陰調べ学習	D
8		日本教育史 II	福沢諭吉と学制 近代義務教育制度 大正自由教育	5. 4~5-5 *福沢諭吉調べ学習	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 教育制度論

内山 絵美子

[ Theory of Educational System and Organization ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーリング No.
1年生	前期	講義	1単位	必修	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1n145
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内の取り組み(ワークシート)20%、小テスト(5回分)20%、レポート(1回)20%、授業内試験 40%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『新訂版 保育者・幼稚園教諭のための教育制度論』内山絵美子・山田知代・坂田仰 編 教育開発研究所							
参考文献	『だれのための保育制度改革—無償化・待機児童解消の真実』中山徹著 自治体研究社							

**授業概要** 教育・保育実践を支える制度について、その構造や原理、意義や必要性を学んだのち、現在に至るまでの制度の変化や、それが教育・保育に与える影響、現在の制度が抱える課題等について検討する。毎回の授業のはじめには、前回授業の復習として小テストを実施して知識の定着を図る。

- 学習成果**
- ① 知識面 教育に関する基本的な仕組みを説明できる。
  - ② 技術面 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。
  - ③ 理念・理解 幼児教育・保育の改革について理解し、課題を考えることができる。

<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L
1	教育制度とは何か	教育を受ける権利を保障するしくみ、公教育の基本原則と教育行政の役割を学ぶ	(第1章・第2章・第9章)	G W
2	教育制度改革の歴史	教育制度がどのように成立し、改革されて現在に至っているのかを学ぶ	(第1章・第2章) 小テスト①	G W
3	学校制度・幼児教育制度	就学前教育を中心に学校の基本的な制度のしくみを学ぶ	(第3章・第4章・第6章) 小テスト②	G W
4	現代の教育課題①	不登校を中心に児童生徒の問題行動とそれに対する制度・政策的な対応、学校改善について学ぶ	(第12章) 小テスト③ *レポート「幼保小連携」について	G W
5	特別支援教育制度	特別なニーズのある児童生徒を支援するしくみを知る	(第7・13章) 小テスト④	G W
6	保育・幼児教育制度改革	保育・教育改革の動向をつかみ、現場への影響などについて検討する	(第5・15章) 小テスト⑤	G W
7	現代の教育課題②	教育・保育の環境整備と質の向上、安全の確保、地域連携について検討する	(第11・14章) 小テスト⑥	D
8	制度の視点から教育・保育を考える	制度の視点から教育・保育の問題を考えてみることを通して科目への理解を深める (まとめ・授業内試験)	前回までの小テスト・ノート・配布資料	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用することがあるため、教員の指示により持参すること。

# 保育の心理学 I

杉 崎 雅 子

[ Psychology in Early Child Care and Education I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリング No.
1年生	前期	講義	2単位	必修	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1n147
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト2回 20%、まとめの試験1回 50%)、②レポート課題(授業内小レポート5回 30%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実践につながる新しい保育の心理学』大浦賢治編著 ミネルヴァ書房							
参考文献	『子どもとかわる人のための心理学』 沼山博・三浦主博編著 萌文書林							

**授業概要** 子どもの発達に関する代表的な理論を踏まえ、乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達、社会性の発達について、その具体的な内容を理解していく。また、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解していく。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの心身の発達の過程及び学習に関する基礎的知識を習得する。
  - ② 技術面 子どもの発達段階やアセスメント結果を読み取り保育に生かす視点を身につける。
  - ③ 理念・理解 発達を支えるかわり、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験					A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) * 作成課題内容		L
1	子どもの発達を理解する意義	心理学的視点が保育の場で必要な背景について	第1章		
2	子どもの発達と環境 子ども観・保育観	子ども観と保育観の整理	第2章、第3章 *レポート課題「子ども観・保育観」		D
3	0、1、2歳の発達	0歳～2歳までの発達の特徴	第9章		
4	3、4、5歳の発達	3歳～5歳までの発達の特徴	第10章 *レポート課題「各年齢の子どもの特徴」		
5	学童期・青年期の発達	学童期から青年期までの発達	第11章 *レポート課題「青年期を振り返る」		
6	社会情動的発達①	基本的信頼感や愛着の形成	第4章 *レポート課題「愛着形成について」 小テスト①3～5		GW
7	社会情動的発達②	自我と社会性の発達	第4章		GW
8	運動機能の発達	身体的機能と運動機能の発達	第5章		
9	認知の発達	認知発達 (ピアジェ理論)	第6章		
10	言語の発達	言葉の発達	第7章		GW
11	アセスメント	発達検査の種類と結果の見方	第8章 小テスト②6～10 *レポート課題「検査についてのまとめ」		E
12	学びに関する理論①	学習理論から考える子どもへの関わり	第13章		GW
13	学びに関する理論②	主体的な学びと動機づけ	第13章		GW
14	乳幼児期の学び (遊び)の過程とそれを支える保育	子どもの遊びの発達過程について学び、遊びを通した主体的な学びを保育実践から理解する	第14章、第15章		GW
15	発達と学習の理論と保育	発達と学習の理論と保育との関連 これまでのまとめと振り返り	まとめの試験		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 保育内容総論 I

宮川 萬寿美

[ Guidance of Early Child Care and Education I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
1年生	前期	講義	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c349
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用に活用を含む。))						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、積極的に参加すること。 授業内テスト(筆記 2 回)20%、レポート課題(3 回)30%、まとめの授業内レポート 40%、出席カードによる省察 10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	「生活事例からはじめる 保育内容総論」 神蔵幸子・宮川萬寿美 編著 青踏社 (2019 第3版) 「平成 29 年告示 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針 原本」 内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 (2019) 第7刷 「保育を支える生活の基礎 ―豊かな環境のつくり手として」 神蔵幸子・中川秋美編著 萌文書林 2018							
参考文献	「保育所保育指針解説書」 厚生労働省 フレーベル館 (2018) 初版							

**授業概要** 保育の場では、保育者は子どもがその環境の中で生活し、その環境とのかかわりの中で、心身ともに成長し発達していくことを援助する。保育内容総論 I では、保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や保育・教育方法を模擬授業を通して具体的に展開していく方法を学ぶ。「生活」「発達」「環境」などをキーワードに、保育者の基本的な考え方やふるまい方について、事例を取り上げながら授業を進めていく。

- 学習成果**
- ① 知識面 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、保育内容の構造を理解し、保育内容のねらいと内容について知識を得る
  - ② 技術面 子どもの生活に即し、季節の変化等を取り入れた計画を立てる方法を身につける
  - ③ 理念・理解 5領域及び総合的な遊びについて説明できる

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L D P
1	保育内容とは	幼児教育の基本 保育内容のねらいと内容 5領域	第1章	D
2	保育内容の変遷	保育内容の歴史 幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷	第2章 *課題提出:保育内容の目標とねらいの表を作成	P
3	環境を通して行う保育	5領域と遊びの総合的な展開	第3章 *授業内テスト1回目と解説	
4	乳児保育と保育内容	乳児、1歳以上3歳未満児の保育内容 養護と教育の一体	第5章	
5	幼児教育と保育内容	3歳以上児の保育内容 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 学びの連続性について	第5章	
6	保育の計画と評価	遊びを通しての指導 教育課程と保育の全体的な計画及びそれに基づく長期の指導計画及び短期の指導計画 季節の行事の週案・指導案作成	第6章 第7章 *課題提出と発表:季節の行事しらべ	
7	多様性への対応と保育内容	子ども理解と保育内容 教材作成・教材を使った模擬保育 (情報機器及び教材の活用) 保育の多様性・多文化共生の保育について	第8章 *課題提出と発表:教材製作 紙皿のおもちゃ製作 *授業内テスト2回目と解説	P
8	保育の記録	保育における記録の意味 保育日誌の実際	第9章 まとめ:クラス便りの作成	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。\* PCの使用については、授業内の指示に従う事。

# 表現(造形)

吉田 収

[ Representation (Art) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	前期	講義	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c254
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項						
成績評価	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(筆記試験3回等)60%、②レポート課題(内容を記載1回等)30%、③授業中の取り組み(プレゼンテーション等)10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『生活事例からはじめる造形表現』宮川 萬寿美編著、吉田 収、野津 直樹著 青踏社 必要に応じてプリントを配布する。使用教材：折り紙(トータルカラー)、ハサミ、糊等適宜指示あり。							
参考文献	『保育をひらく造形表現』槇英子著 萌文書林2008 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成編著 萌文書林2018							

**授業概要** 表現(造形)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付けていきます。そのためには、自分の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要です。まずは自分の表現に向き合い、自分の表現を確認して下さい。そして、子どもたちの表現を受け止め理解していく柔軟な感性を学んで下さい。

- 学習成果**
- ① 知識 造形についての知識を得て、造形に関する要素について説明できるようになる
  - ② 技術 子どもの造形での発達の過程を知り、援助法・指導法を学ぶ
  - ③ 理念・理解 子どもの感性を受け止める柔軟な感性を知り、造形の意義について理解する

D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(リストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L
1	オリエンテーション 幼児期の造形表現について	カリキュラムの説明 幼児期の発達に伴う造形表現の推移	(第2部第2章1,2p90-92 第1部第1章2p44-51)を 通読しておく	P
2	平面の表現①	平面表現(絵の具)を生成する過程を学ぶ 幼児における平面の表現を理解する	(第1部第1章1-2p8-25 41-42)を通読しておく	P E
3	平面の表現②	平面表現(版画)を生成する過程を学ぶ 幼児における平面の表現を理解する	(第1部第1章1-2p25 -41)を通読しておく	P E
4	立体の表現	立体表現を生成する過程を学ぶ 幼児における立体表現を理解する	(第1部第1章3p53-86)を 通読しておく	P E
5	表現の原理(色彩)	表現の原理の構成要素の色彩を学ぶ	配布資料1「色彩について」	P E
6	表現の原理(色彩)	表現の原理の構成要素の色彩を折り紙を用いて実践する	〃	P E
7	表現の原理(形態)	表現の原理の構成要素の形態を学ぶ	配布資料2「形態について」	P E
8	協同しての表現	他者の表現を理解して、協同し表現を発展させることを学ぶ	(第1部第1章2, p43-44) を通読しておく	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作制課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 情報処理論

飯原 智子

[ Introduction to Computer Science ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
1年生	前期	演習	2単位	選択	教養科目	幼稚園2種免許必修 学科履修指定科目	DP2c	No. Cs1c230
教職課程科目区分 含める必要事項		「施行規則66条の6に定める科目」(情報機器の操作)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(小テスト3回、まとめテスト1回)50%、実技課題(Word、Excel、PowerPoint)30%、授業中の取り組み(確認問題の実施)20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	①「情報基礎演習」最新版 キャリアラボ Step By Step 編・発行 ②「教育デジタルトランスフォーメーション 基礎」最新版 キャリアラボ Step By Step 編・発行							
参考文献	『情報利活用文書作成』『情報利活用表計算』『情報利活用プレゼンテーション』 日経BP社							

**授業概要** この教科は情報リテラシーや情報機器の操作を扱う授業である。また、幼稚園教諭2種免許取得のための科目である「情報機器の操作」に該当するものである。パソコンは保育現場でも活用されるものとなり、園のおたより作成、保育記録などの電子化、保護者との連絡、会計管理など様々な活用場面がある。本科目では、Office 操作を中心にコンピュータの利用方法を演習し、最新の活用方法の習得を目指す。

**学習成果**

- ① 知識面 情報機器の基礎知識、情報モラル(個人情報管理、著作権等)に関し説明できるようになる。
- ② 技術面 Windows、Office の操作や社会人としてのプレゼンができるようになる。
- ③ 理念・理解 現場での実践的な文書作成、学生としてのレポート作成技法、図書館の利用・情報検索やデータベースの扱い、クラウド利用の意味など、より社会生活に即した情報の活用ができるようになる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(予習の章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	情報モラル Windows 基本操作	教科書①「情報基礎演習」(以下①と記載) 第1章「パソコンの基本操作とメールの利用。(学内環境の利用)	①第1章 実習課題	A L D
2	情報モラル ファイル操作	① 第2章「ファイルの操作と入力練習」他 (パソコンの環境整備と入力練習)	①第2章 実習課題	E
3	小テスト1 Word の操作1	① 第3章 「Word の基本操作」他 小テスト(情報モラル)、(簡単な文書の作成、入力練習)	①第3章 実習課題	E
4	Word の操作2	① 第4章 「おたよりを作成しよう」 (実用的な文書作成)	①第4章 実習課題	E
5	Word の演習1	① 第7章 「知っている则便利な機能」、入力演習 (Word の基本操作、文書作成の総合演習)	①第1章から第4章の 実習課題	E
6	Word の操作4	① 第5章 「掲示用ポスターを作成しよう」 (図形、イラストを利用した文書作成)	①第5章 実習課題	E
7	Word の演習	① 第6章 「レポートを作成しよう」 (今までの不得意分野の強化)	①第6章 実習課題 総合演習	E
8	小テスト2 Excel の操作1	① 第8章 「Excel の基本操作」 小テスト(Word)、(Excel の入力練習)	①第8章 実習課題	E
9	Excel の操作2	① 第9章 「基本関数の利用」 (簡単な関数が利用でき、条件付き書式が使える)	①第9章 実習課題	E
10	プレゼン資料作成1	① 第12章 「PowerPoint の基本操作」 (プレゼンを企画し、テーマを決める)	①第12章 実習課題	E
11	プレゼン資料作成2	① 第13章 「知っている则便利な機能」、 (企画に基づいた資料作成)	*発表用資料の作成	E
12	小テスト3 プレゼンリハーサル	小テスト(Excel、PowerPoint)、 ②プレゼンの技法、リハーサル、発表実施の注意事項	発表用資料の完成 リハーサル(資料提出)	P
13	プレゼン発表会	発表実施(個人ごと)	プレゼンテーション実施	P
14	情報モラル ICT の活用	②「情報倫理とルール」個人情報、著作権等、ICT のシステムを利用した保育の情報化	ワークシート作成	E
15	総合演習	まとめテスト、②クラウド活用、情報モラルグループワーク	全講義内容の復習	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# ピアノ弾き歌い

[ Lesson in Playing the Piano with Singing ]

今泉 明美 有村 さやか  
園田 絃子 ピアノ特別講師

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	デプロマNo.	ナンバリング No.
1年生	通期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs1r080
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト前期末、後期中間・期末の確認試験を各 20%、②レポート各確認試験振り返り各5%③授業内取り組み課題曲進捗状況 10%、課題曲シート 15%、を基本配分とする総合評価							
教科書	『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』有村さやか・今泉明美他編著（ミネルヴァ書房）・音楽ファイル							
参考文献	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美、有村さやか、望月たけ美、宮川萬寿美、東元りか、高地誠子著（萌文書林）他（萌文書林）							

## 授業概要

「歌唱活動」は、保育現場での音楽表現活動の中心的な働きを持ち、ピアノは、その「歌」の表現をより豊かに広げていくことが出来る楽器の一つである。この授業では、子どもの歌唱活動を支援し、音楽遊びとして展開するための「弾き歌い」を個人レッスンやグループレッスンの形態で学ぶ。保育現場で活用される頻度の高い弾き歌い 25 曲を課題曲とし、個人レッスンやグループレッスンで仲間の演奏を聴くことや参加することを通して、保育者としての基礎的なピアノ技法と伴奏技法について学ぶ。また、歌詞や言葉を大切に、子どもの心や身体に共感させることが出来る弾き歌い演奏を目指し表現技術を磨く。

## 学習成果

- ① 知識面 音楽の基礎知識やピアノ技能を学ぶ中から自ら読譜して演奏していくための知識を得る。
- ② 技術面 課題曲 25 曲を、暗譜で弾き歌い出来るようにし、自分のレパートリーにする。
- ③ 理念・理解 演奏確認試験を通して子どもを対象とした弾き歌い演奏方法の留意点を理解する。

## 授業計画

【AL】D:ディカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L D P E G W
1	オリエンテーション 入学前課題曲確認演奏	授業内容に関するガイダンス・入学前課題曲の発表	『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』から指定する 25 曲の授業前後の練習及び 25 曲課題曲シートの作成	
2	弾き歌いレッスン①	個人レッシングループごとに受講		
3	弾き歌いレッスン②	個人レッシングループごとに受講		
4	弾き歌いレッスン③	個人レッシングループごとに受講		
5	弾き歌いレッスン④	個人レッシングループごとに受講		
6	弾き歌いレッスン⑤	個人レッシングループごとに受講		
7	弾き歌いレッスン⑥	個人レッシングループごとに受講		
8	弾き歌いレッスン⑦	個人レッシングループごとに受講		
9	弾き歌いレッスン⑧	個人レッシングループごとに受講		
10	弾き歌いレッスン⑨	個人レッシングループごとに受講		
11	弾き歌いレッスン⑩	個人レッシングループごとに受講		
12	弾き歌いレッスン⑪	個人レッシングループごとに受講		
13	弾き歌いレッスン⑫	個人レッシングループごとに受講		
14	弾き歌いレッスン⑬	個人レッシングループごとに受講		
15	弾き歌い 課題曲の演奏確認試験①	弾き歌い 課題曲の演奏確認試験①		



**備考** 課題曲の習得に対し、計画性を持って日々継続的に練習し、毎回のレッスンに臨む。作成した課題曲シート及び毎回の指導から得た学びを基に予・復習の練習に励む。授業開始時から終了時までの各学習内容に自主性をもってしっかり取り組む。授業内でPCを使用する場合は、教員の指示に従い持参する。

**【後期】**

- 学習成果**
- ① 知識面 音楽の基礎知識やピアノ技能を学ぶ中から自ら読譜して演奏していくための知識を得る。
  - ② 技術面 課題曲 25 曲を暗譜で弾き歌いが出来るようにし、自分のレパートリーにする。
  - ③ 理念・理解 演奏確認試験を通して子どもを対象とした弾き歌い演奏方法の留意点を理解する。

授業計画		【AL】D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技・実習・実験		A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成レポート課題内容	
16	弾き歌いレッスン⑭	個人レッスングループごとに受講	『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』から指定する 25 曲の授業前後の練習及び 25 曲課題曲シートの作成	E G W
17	弾き歌いレッスン⑮	個人レッスングループごとに受講		
18	弾き歌いレッスン⑯	個人レッスングループごとに受講		
19	弾き歌いレッスン⑰	個人レッスングループごとに受講		
20	弾き歌いレッスン⑱	個人レッスングループごとに受講・歌唱指導		
21	弾き歌いレッスン⑲	個人レッスングループごとに受講		
22	弾き歌い課題曲の演奏確認試験②	公開弾き歌い試験とその振り返り (弾き歌いにおける歌唱やピアノの表現方法について)		
23	弾き歌いレッスン⑳	個人レッスングループごとに受講		
24	弾き歌いレッスン㉑	個人レッスングループごとに受講		
25	弾き歌いレッスン㉒	個人レッスングループごとに受講		
26	弾き歌いレッスン㉓	個人レッスングループごとに受講・歌唱指導		
27	弾き歌いレッスン㉔	個人レッスングループごとに受講		
28	弾き歌い課題曲の演奏確認試験③	公開弾き歌い試験とその振り返り (弾き歌いと子どもの歌唱との関わりについて)		
29	弾き歌いレッスン㉕	25 課題曲シートの作成		
30	弾き歌いレッスン㉖	個人レッスングループごとに受講・1年間のまとめ		

**備考** 課題曲の習得に対し、計画性を持って日々継続的に練習し、毎回のレッスンに臨む。作成した課題曲シート及び毎回の指導から得た学びを基に予・復習の練習に励む。授業開始時から終了時までの各学習内容に自主性をもってしっかり取り組む。授業内でPCを使用する場合は、教員の指示に従い持参する。

# ボランティア活動

[ Volunteer Activities ]

山本華子

内山絵美子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No
1年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	保育士資格選択 学科履修指定科目	DP3c	No. Cs1c131
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	授業を受講し、ボランティア活動を3回以上体験すること。課題 30 点相当、活動報告 30～50 点相当、レポート作成 20 点相当を基本的配分とする総合評価							
教科書	『ボランティアノート』 小田原短期大学編							
参考文献	『ボランティアまるごとガイド [改訂版]』 安藤雄太監修 ミネルヴァ書房 『ボランティアのすすめ 基礎から実践まで』 岡本榮一監修 ミネルヴァ書房							

**授業概要** 地域社会において保育・教育・福祉などの領域に関わるボランティア活動に参加することを通して、多様な能力の育成、社会性の涵養ならびに実践による知識技術の習得などを旨とする。また、本学の教育方針である自他共に敬い、相手を思いやる精神を培い、高い人権意識を持った責任ある保育者としての対人援助方法を学ぶことを目的とする。

- 学習成果**
- ① 知識面 地域社会におけるボランティア活動の意義や機能について説明できる。
  - ② 技術面 ボランティア活動を経験することを通じ、関係者と連携・協働する力・方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 専門分野を活かし、地域貢献する姿勢や意義を理解している。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No)*作成課題内容	L	
1	ボランティアの基礎	ボランティアに関する基本的事項を学ぶ	『ボランティアノート』 p1～4		D
2	ボランティア活動の進め方	ボランティア活動に関する基本的事項を学ぶ	『ボランティアノート』 p5～7		D
3	ボランティア体験から学ぶ	2年生の活動体験の報告を聞き、ボランティア活動の具体的なイメージを持つ	『ボランティアノート』 p8～9		G W
4	ボランティアの実際(1)	ボランティア先での実践について、ボランティア先の事業者(ゲストスピーカー4～5名)の話を伺う	『ボランティアノート』 p10～11、16～17		G W
5	ボランティアの実際(2)	地域活動の意義と実際について、地域のボランティア関係者(ゲストスピーカー1～2名)の話を伺う。	『ボランティアノート』 p12～13、16～17		G W
6	活動の計画	ボランティア活動の計画を立てる	各回共通 事前課題:ボランティアノートにボランティア先の施設調べ・行き方等を記入 事後課題:活動内容の記録・感想を記入		E
7	実践準備(1)	ボランティア体験の準備(活動調査、応募、オリ参加など)		E	
8	実践体験(1)	ボランティア体験の記録を作成する		E	
9	実践準備(2)	ボランティア体験の準備(活動調査、応募、オリ参加など)		E	
10	実践体験(2)	ボランティア体験の記録を作成する		G W P	
11	中間報告	ここまでの活動で学んだことをグループで振り返る。省察・自己評価し、次のボランティア体験につなげる。		E	
12	実践準備(3)～(5)	ボランティア体験の準備(活動調査、応募、オリ参加など)		E	
13	実践体験(3)～(5)	ボランティア体験の記録を作成する		E	
14	実践の振り返り	活動のフィードバックをうけ、振り返りを行う		E	
15	活動の自己評価	活動全体の最終レポートを作成する		『ボランティアノート』 p30～31	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関して授業内にフィードバックをする。第6回～第14回については活動内容により順序が前後することがある。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 子ども家庭支援の心理学

杉 崎 雅 子

[ Psychology to support a Child and a Family ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択必修	DP2c	No. Cs1c123
実務経験との関連性		公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教員が、発達相談、教育相談の実務経験から、支援が必要な家庭の理解や子どもの心の健康に関わる問題について指導する。						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト3回 30%、まとめの試験1回 45%)、②レポート課題(授業内小レポート5回 25%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『スギ先生と考える 子ども家庭支援の心理学』 杉崎雅子著 萌文書林							
参考文献	『子ども家庭支援の心理学』 白川佳子・福丸由佳編 中央法規出版							

**授業概要** 発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。

**学習成果**

- ① 知識面 生涯発達についての基礎的知識を習得する。子どもの精神保健に関する知識を習得する。
- ② 技術面 子どもと家庭・家族を包括的に捉え、理論的理解に基づく支援策が検討できるようになる。
- ③ 理念・理解 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L	
1	乳幼児期の発達	乳児期～幼児期の特徴とかわり	第1章	D	
2	児童期・青年期の発達	児童期・青年期の発達特徴と教育の諸問題	第2章、第3章*レポート課題「青年期に見られる課題」	GW	
3	成人期・高齢期の発達	成人期、高齢期の発達や心理的課題	第4章	GW	
4	家族・家庭の意義と機能	家族や家庭の意義と機能	第5章 小テスト①1～4	GW	
5	親子・家族関係の理解	家族を理解し支援するための理論	第6章 *レポート課題「ジェノグラム演習」	D	
6	子育てを取り巻く社会的状況	現代における子育てに関する状況	第7章	D	
7	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの観点から考える保護者支援	第8章	D	
8	多様な家庭とその理解	多様な現代の家族の現状とその支援	第9章 小テスト②5～8	D	
9	特別な配慮を要する家庭①	保護者の疾患や障害など、特別なニーズがある家庭への配慮	第10章*レポート課題「子どもや家庭への配慮を考える」	D	
10	特別な配慮を要する家庭②	虐待が子どもに与える心理的影響と支援	第11章	D	
11	子どもの心の健康①	子どものストレスによる心身症や、食事・睡眠・排泄に関する症状	第12章、第13章 小テスト③9～11 *レポート課題「症状を理解する」	D	
12	子どもの心の健康②	チック、吃音、選択性緘黙	第14章 *レポート課題「対応を考える」	GW	
13	子どもの心の健康③	発達障害 (LD、ADHD) の症状と対応	第15章	P	
14	子どもの心の健康④	発達障害 (ASD、DCD) の症状と対応	第15章	P	
15	子どもと家庭への支援	支援の視点の習得、まとめと振り返り	まとめの試験		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

保育・一年生

# 保育原理

宮川 萬寿美

[ Principles of Early Childhood Care and Education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	後期	講義	2単位	必修	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1n124
教職課程科目区分 含める必要事項		大学が独自に設定する科目						
成績評価 方法及び基準	毎回授業に出席し、積極的に参加すること。授業内テスト(筆記試験2回)20%、レポート課題((3回)30%、理解力テスト(期末)40% 出席カードによる省察 10% を基本的配分とする総合評価							
教科書	『生活事例からはじめる保育原理』 神蔵幸子・宮川萬寿美編 (2019 第5版)青踏社 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『保育を支える生活の基礎 ―豊かな環境のつくり手として』 神蔵幸子・中川秋美編著 萌文書林 2018							
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 原本』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 (2019) 第7刷							

## 授業概要

「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に、保育者に求められる専門性について理解していくために、保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく。子どもの人権を守り、常に子どもの味方であるために、また、豊かな保育実践を展開していくための、基本の視点を養う科目である。

## 学習成果

- ① 知識面 こども理解とは何か、子どもの発達や遊び、生活について理解する
- ② 技術面 保育実践の事例を拾い、他の人と共有できるようにエピソード記録を書くことができる
- ③ 理念・理解 保育者に求められる専門性について説明できる

## 授業計画

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	保育について学ぶ	「保育」について、保育とは? 保育者に求められること	第1章	
2	子ども理解①	子ども理解とは? 事例を読み解く	第2章	GW
3	子ども理解②	年間の子どもの生活と遊び、子どもの成長	第2章 DVD鑑賞 *課題提出: 感想の提出	
4	保育の歴史①	西洋の近代・現代における保育思想の成立と展開・発展	第3章 *フレーベルの恩物とモンテッソーリ教具	GW
5	保育の歴史②	日本の近代・現代における保育思想の成立と展開・発展	第3章	
6	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規	第4章 *授業内テスト1回目と解説	
7	保育の場の現状	保育現場の実際: 保育現場のICTについて (外部講師)	PCを持参	E
8	保育の目標と方法①	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能・目的や方法	第5章 第6章 第7章 第8章	P
9	保育の目標と方法②	乳幼児にふさわしい遊びと生活 ごっこ遊び	第9章 *授業内テスト2回目と解説	P
10	保育の内容①	保育の目標と内容の関係について 領域の考え方	第7章 *課題提出: 3施設の比較の表 (PCで作成)	
11	保育の内容②	領域と総合的展開 子どもの遊び チーム保育	第7章	GW P E
12	学びの連続性	就学前教育と就学後の学び (架け橋プログラム) 幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿	第11章	D GW
13	保育者のあり方	保育者のあり方とは? 保育観とこども観	第15章・第13章 *課題提出: 育ての心	
14	保育の現状と課題	日本・海外の保育の現状と課題	第14章 *DVD鑑賞	
15	子育て支援と保育	多様な保育ニーズと保育の今日的な課題 学習内容のまとめと確認 (保育マップ)	第15章 *理解度テスト	

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。\*PCについては授業内の指示に従う事。

# 社会的養護 I

[ Theory of Out-of-Home Care I ]

上野文枝

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択必修	DP2c	No. Cs1c125
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内提出課題40%、復習小テスト15回30%、レポート30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『児童の福祉を支える 社会的養護 I』萌文書林							
参考文献	『子ども虐待』西澤哲（講談社）、『児童養護施設の子どもたち』大久保真紀（高文研）、『「家族」をつくる 養育里親という生き方』村田和木（中央公論新社）							

**授業概要** 児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識と技術を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な子どもの育ちを学ぶ。「児童虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」などに関する知識を身に付け、生活場面での支援、家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等について理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解し、社会的養護の理念と原則に沿った支援について学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの権利擁護を踏まえた子どもへの支援について説明ができる。
  - ② 技術面 社会的養護における子どもとその家庭に対する支援方法を学び、説明できる。
  - ③ 理念・理解 社会的養護の理念と原則について説明できるようになる。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		L
1	現代社会における社会的養護の意義と変遷	社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題と保育士の役割を理解する。	テキスト第1講(p2~p18) *課題の提示		D
2	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利、施設保育士としての倫理と責務を理解する。	テキスト第2講 (p19~33) *課題の提示、復習小テスト		D
3	家庭の機能と社会的養護	子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。	テキスト第3講 (p34~48) *課題の提示、復習小テスト		D
4	基本原則Ⅰ: 養育日常生活支援	子どもの人権に配慮した日常生活支援の実践を学び、施設規模による養育への影響について考察する。	テキスト第4講 (p49~61) *課題の提示、復習小テスト		D
5	基本原則Ⅱ: 保護—自己実現に向けた支援	施設における子どもの支援と親子関係調整、地域との関係調整について理解する。	テキスト第5講 (p62~73) *課題の提示、復習小テスト		D
6	基本原則Ⅲ: 回復—治療的支援	被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。	テキスト第6講 (p74~85) *課題の提示、復習小テスト		D
7	基本原則Ⅳ: 生活力の習得—自立支援	日常生活を通じた自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。	テキスト第7講 (p86~100) *課題の提示、復習小テスト		D
8	基本原則Ⅴ: 生命倫理観の醸成	生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。	テキスト第8講 (p101~117) *課題の提示、復習小テスト		D
9	社会的養護の制度と実施体系	制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。	テキスト第9講 (p118~134) *課題の提示、復習小テスト		D
10	乳児院と児童養護施設	ゲストスピーカー (児童福祉施設の職員) より支援の実践を伺って学ぶ。	テキスト第10講(p135~147) *課題の提示、復習小テスト		D
11	障害児の入所施設	障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。	テキスト第11講(p148~159) *課題の提示、復習小テスト		D
12	児童自立支援施設と児童心理治療施設	社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。	テキスト第12講 (p160~170) *課題の提示、復習小テスト		D
13	家庭養護—里親・ファミリーホーム	里親とファミリーホームについて、制度と養育の実践を学ぶ。	テキスト第13講 (p171~194) *課題の提示、復習小テスト		D
14	社会的養護の現状と課題①	施設の運営管理、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。	テキスト第14講Ⅰ~Ⅲ(p195~215) *課題の提示、復習小テスト、レポート課題の提示		D
15	社会的養護の現状と課題②	被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められることについて学ぶ。	テキスト第14講Ⅳ~Ⅵ (p216~238) *課題の提示、復習小テスト		D

**備考** 各授業の前に45分程度のテキストによる「準備学習」をし、授業後には復習をすること。授業時には「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題・質問等に関して授業内または Classroom にてフィードバックをする。\*PCの使用については授業内で指示する。

# 社会福祉

[ Social Welfare ]

平 徹 方 實

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
1年生	後期	講義	2単位	必修	専門科目	保育士資格必修	DP2c	No. Cs1n127
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること</li> <li>・ 各授業内ワークシート 60%、ミニテスト (3 回) 30%、小論文 10%を基本的配分とする総合評価</li> </ul>							
教科書	『生活事例からはじめる 新版 社会福祉』吉田 眞理/著 青踏社							
参考文献	『新 基本保育シリーズ4 社会福祉』児童育成協会/監修 松原康雄、坪 洋一、金子 充/編集 中央法規							

- 授業概要**
- ① 社会福祉の歴史的背景と、現代社会における社会福祉の制度・政策を学習する
  - ② 子どもを取り巻く家庭等の生活課題と、保育現場に必要な社会福祉に関する知識を修得する
  - ③ これらを通して、専門職に必要となる支援の対象理解と、福祉の精神を学習する

- 学習成果**
- ① 知識面 社会福祉の諸分野に渡る法制度に関する知識の基礎を獲得する
  - ② 技術面 社会福祉における相談援助の技術の基礎を習得する
  - ③ 理念・理解 保育者として必要とされる、社会福祉の理念や、対象を理解する

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	社会福祉の理念と概念①	・ 社会福祉とは何か ・ ノーマライゼーションとは何か	(第1章 p8-13) *ワークシート 1	GW E
2	社会福祉の理念と概念②	・ ニーズとは何か ・ 社会参加について	(第1章 13-21p) *ワークシート 2	GW E
3	社会福祉の理念と概念③	・ 自立について ・ 平等に関する事例検討	(第1章 21-29p) *ワークシート 3	GW E
4	社会福祉の歴史的変遷①	・ 貧困問題について ・ 貧富の差について	(第1章 30-37p) *ワークシート 4	GW E
5	社会福祉の歴史的変遷②	・ 夜警国家と国家について ・ 民間の相互扶助に関する事例検討	(第1章 37-43p) *ワークシート 5	GW E
6	子ども家庭支援と社会福祉	・ 人権擁護の視点について ・ 児童虐待について	(第1章 44-61p) *小テスト,ワークシート 6	GW E
7	福祉を支える法律と財政①	・ 社会福祉法について ・ 福祉六法について	(第2章 64-69p) *ワークシート 7	GW E
8	福祉を支える法律と財政②	・ 政策主体について ・ 関連法規について	(第2章 69-80p) *ワークシート 8	GW E
9	社会保険と私たちの生活	・ 介護保険、医療保険、年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険について	(第2章 81-89p) *ワークシート 9	GW E
10	社会福祉の専門職・実施者と利用者保護	・ 国家資格について ・ 利用者保護について	(第2章 90-103p) *ワークシート 10	GW E
11	社会福祉における相談援助①	・ 相談援助の理論・意義・機能・対象について ・ バイステックの7原則について	(第3章 106-113p) *小テスト,ワークシート 11	GW E
12	社会福祉における相談援助②	・ 個別相談援助過程に関する事例検討 ・ 集団援助技術、地域援助技術について	(第3章 114-126p) *ワークシート 12	GW E
13	社会福祉の動向と課題①	・ 子ども子育て支援新制度について ・ 保育業界の今後に関する考察	(第4章 128-149p) *ワークシート 13	GW E
14	社会福祉の動向と課題②	・ 高齢者福祉制度について ・ 障害者福祉制度について	(第4章 150-176p) *ワークシート 14	GW E
15	福祉援助職としての保育士	・ 福祉援助職としての保育士に求められる専門性とは	*小テスト,小論文,ワークシート 15	GW E

- 備考**
- ・ 各授業の前に 45 分程度の「学習内容」の予習をし、授業後には復習をすること。
  - ・ テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。自主的に取り組み、力を付けること。
  - ・ 積極的に「自分なりに考え」、「意見を述べる」こと。
  - ・ 授業時に使用するため、各自 PC を持参すること。

# 音楽表現Ⅱ

[ Music Expression II ]

有村 さやか

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs1c134
実務経験との関連性		作曲家・演奏家としての20年以上の実務経験を活かして、楽典、楽器学、和声などの音楽理論に基づき、保育における実践的な音楽教育を行う						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(打楽器実技試験)40%、②授業中の取り組み(器楽アンサンブル)30%③レポート課題(音楽的発達、楽器の基礎知識、年齢別器楽活動)30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美・有村さやか編著他(萌文書林)『保育のためのやさしい子どもの歌』有村さやか他編著(ミネルヴァ書房)							
参考文献	『最新・幼児の音楽教育』井口太編著(朝日出版社)、『わくわく音遊びで簡単発表会』細田淳子著(すずき出版)『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							

**授業概要** この科目は音楽表現Ⅰに引き続き、保育士資格取得における保育の内容の理解と方法に関する科目である。保育内容を理解し、保育現場や児童館での子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術、保育環境の構成、活動の展開を習得する。ここでは特に打楽器や音板打楽器の特徴や奏法を学び保育者としての表現力を培うと共に、子どもとの楽器活動を行う上での環境構成や楽器の指導・支援方法について学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 器楽に関する音楽的発達や保育現場で扱う打楽器の発音原理や基本奏法に関する知識を得る
  - ② 技術面 各楽器の効果的な演奏法や活用法を身につけると共に、保育者としての表現力を培う
  - ③ 理念・理解 子どもの日頃の遊びを豊かにし、子どもの感性を養うための音や音楽の環境構成を知り、楽器活動の指導・支援方法を理解する

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L D E E G W E G W E G W D
1	打楽器の特徴と奏法 乳幼児の音楽的発達	保育現場で親しむ楽器と器楽活動 乳幼児の音楽的発達と器楽の導入・指導について	(Part1.p120-121 2-⑤) (Part2.p127-128)	
2	簡易打楽器の特徴と奏法①	保育現場で親しむ打楽器の発音原理とその種類 タンブリン・カスタネットの特徴と奏法、リズム演習	(Part1.p113-119 2-①②③④)	
3	簡易打楽器の特徴と奏法②	タンブリン・カスタネットの特徴と奏法、リズム演習 簡易打楽器を用いた実技演奏、アンサンブル演習	(Part1.p113-119 2-①②③④)	
4	簡易打楽器の実技演奏	簡易打楽器を用いた実技演奏試験 リズム遊び②視覚的教材を用いた実践	(Part1.p113-119) より課題曲 challenge30,31,33,34 (Part1.p110-113 1)	
5	音板打楽器の知識と奏法 手作り楽器制作	音板打楽器の発音の仕組みと奏法について 音板打楽器の基本奏法とアンサンブル演奏 手作り楽器の制作①	(Part1.p120-121 2-⑤) 資料配布:「かえるの合唱アンサンブル」	
6	音板打楽器の知識と奏法 手作り楽器制作	音板打楽器の発音の仕組みと奏法について 音板打楽器の基本奏法とアンサンブル演奏 手作り楽器の制作②	(Part1.p120-121 2-⑤) 資料配布:「きらきら星変奏曲アンサンブル」	
7	幼児の器楽合奏①	幼児の器楽合奏における留意点と指導法について 年齢別(3歳児)器楽合奏の実践と指導	(Part2.p168-169) 4 資料配布:合奏曲	
8	幼児の器楽合奏②	年齢別(4歳児・5歳児)器楽合奏の実践と指導 幼児の器楽活動における課題	(Part2.p127-131.)5, p161-166) 資料配布:合奏曲・音楽表現遊び	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 造形表現Ⅱ

[ Art Expression II ]

吉 田 収

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許選択必修 保育士資格必修	DP2c	No. Cs1c137
実務経験との関連性		保育者養成及び教職と、彫刻家としての制作活動や展覧会の発表歴の30年以上に渡る実務経験を活かして、造形全般の素材や技能の保育における指導や理論、そして実践的な造形教育を行う。						
成績評価	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①授業中の取り組み(制作姿勢) 30%・②ポートフォリオ(授業内容のまとめ) 40%・③提出作品(制作作品2点) 30%の総合評価。							
教科書	『生活事例からはじめる造形表現』宮川 萬寿美編著、吉田 収、野津 直樹著 青踏社 必要に応じてプリントを配布する。使用教材：画用紙(八つ切り程度)、折り紙、水彩絵の具一式、鉛筆(2B)、ハサミ、カッターナイフ、ホチキス、糊等適宜指示あり。							
参考文献	『保育をひらく造形表現』横 英子著 萌文書林							

**授業概要** 私たちの周囲には、いろいろな物がありますが、表現素材もまた数多くあります。いろいろな表現素材や用具を使っでの表現体験は、子どもの造形活動の内容をより豊かに、より創造的にしますが、ただむやみと数多い材料などの体験をすることが良いわけではありません。それぞれの材料用具のもっている特性や性質をよく理解し、それが表現内容に適しているかどうかを考えて行うことが大切です。また、基本的な使用方法などを繰り返し体験していくことが、子どもの創造性を高める力になります。  
ここでは、立体素材を中心に、自己の感性を磨くと同時に、実践力を養っていきます。

- 学習成果**
- ① 知識 立体表現における素材の知識を得て、使用方法について説明できるようになる
  - ② 技術 立体表現の素材を自由に活用して、自己表現ができるようになる
  - ③ 理念・理解 造形表現における立体表現の意義を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する

授業計画		D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	立体素材 粘土	立体素材の解説。 粘土という素材、種類と小麦粉粘土作成。保育への展開	(第1部第1章3(1)-(5) p53-86)を通読しておく		P E
2	粘土	土粘土の素材過程。子どもへの指導と援助、展開	(第1部第1章3(1)p53-58) を通読しておく		E
3	粘土	グループ制作による土粘土の可能性を探索。 子どもへの指導と援助、展開。	第1部第1章3(2)p60-68) を通読しておく		E
4	自然素材から 紙	紙という素材の種類。子どもへの指導と援助法、展開	(第1部第1章3(3)p68-71) を通読しておく		P E
5	紙を使って	お面制作(張り子) アイデアと構造を作る	(第1部第1章3(3)p68-71) を通読しておく		E
6	紙を使って	お面制作(張り子) 張り子をする 新聞紙	(第1部第1章3(3)p68-71) を通読しておく		E
7	紙を使って	お面制作(張り子) 張り子をする 和紙	(第1部第1章3(3)p68-71) を通読しておく		E
8	紙を使って 記録まとめ	着彩からニス塗り。保育への展開 ポートフォリオの最終的なまとめ			E

**備 考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関して授業内にフィードバックをする。適宜プリント等を配布するので、自主的に取り組み、ポートフォリオにまとめて力を付けること。授業内でPCを使用することがあるので、教員の指示に従い持参すること。



# 身体表現 I

中山 貴太

[ Physical Expression I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
1年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許選択必修 保育士資格必修	DP2c	No. Cs1c139
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト（課題発表1回）40%、レポート課題（4回等）40%、授業中の取り組み（実技、安全面への配慮等）20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、 『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省プレーベル館							
参考文献	『新版 保育者を目指す保育内容「健康」』圭文社							

**授業概要** 子どもの身体運動に関する基礎的な知識を理解するとともに、自らの運動技能や身体表現力を高めることをねらいとする。模擬保育などの実践を通して、子どもの経験や保育の環境を様々な表現活動に結びつけたり、あそびを豊かに展開したりするために必要な技術を習得できるようにする。さらに、幼児が興味・関心を示し、安全で積極的に関わられるような実践法について学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 多様な運動遊びについて知識を得る。
  - ② 技術面 子どもの年齢に応じた運動遊びを指導する力を身につける。
  - ③ 理念・理解 自らが伸び伸びと身体で表現できるようになる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	A L E
1	幼児の運動遊びについて	幼児の運動や遊びの必要性	教科書の領域「健康」を読む	E
2	リズム・表現遊び	リズムに合わせた模倣遊び	事前配布資料を読む	
3	運動遊び①	コーディネーション運動（リズムにのって）	事前配布資料を読む	E
4	運動遊び②	鬼遊び①	事前配布資料を読む	
5	運動遊び③	鬼遊び②	*レポート：鬼ごっこについてまとめる	E
6	運動遊び④	縄・フープ等を用いた遊び①	事前配布資料を読む	E
7	運動遊び⑤	縄・フープ等を用いた遊び②	*レポート：縄・フープ等を用いた遊びについてまとめる	E
8	運動遊び⑥	マット・鉄棒・平均台等を用いた遊び①	事前配布資料を読む	E
9	運動遊び⑦	マット・鉄棒・平均台等を用いた遊び②	*レポート：マット・鉄棒・平均台等を用いた遊びについてまとめる	E
10	運動遊び⑧	ボール等を用いた遊び①	事前配布資料を読む	E
11	運動遊び⑨	ボール等を用いた遊び②	*レポート：ボール等を用いた遊びについてまとめる	E
12	ミニ運動会	ミニ運動会の計画と実践	年齢別にプログラムを作成しておく	E
13	季節の遊びと行事	四季の遊びと行事における遊び	四季の遊びと行事における遊びを考案しておく	E
14	模擬保育	指導案の作成と模擬保育の実践	運動遊びの指導案を作成しておく	E
15	課題発表	運動遊びの課題についてテーマを決めグループごとに発表する。半期の学びについて振り返りを行う	運動遊びの課題について発表準備をしておく	E

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、主体的に取り組む、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い特参すること。

# 保育カリキュラム論

内山 絵美子

[ Curriculum in Early Child Care and Education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c348
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内テスト(中間テスト2回、最終テスト1回)計3回)50%、レポート課題(2回)30%、授業中の取り組み(ワークシート)20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『保育の評価と計画—豊富な例で1からわかる(第2版)』宮川萬寿美編著 萌文書林							
参考文献	『平成29年告示 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針 原本』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社							

**授業概要** 幼稚園教育要領等に基づいて教育課程の編成、全体的な計画の作成、長期・短期の指導計画の作成について基本的な考え方や視点などを学習する。また計画を実施した後の評価と改善についても学ぶ。事例の検討やワークを通して、計画を作成する力を養う。

**学習成果**

- ① 知識面 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容や役割を知り、これらに基づく教育・保育の計画、実践、評価、改善の基本を理解している。
- ② 技術面 法令等の内容や全体的な計画、子どもの発達を踏まえ、指導計画を立てることができる。
- ③ 理念・理解 計画・評価の意義、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解している。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(予読の章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	計画と評価の意義・役割	教育・保育における計画の必要性と幼稚園教育要領等が果たす役割について学ぶ	第1章	GW
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムの基本的な考え方や、構成要素、種類などについて学ぶ	第1章	GW
3	教育課程・保育課程の変遷	幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容、社会的背景を知る	第2章	GW
4	教育課程編成・全体的な計画の作成の基本①	教育課程の編成、全体的な計画の作成に関する基本原理、編成の要件を学ぶ	第2章	GW
5	教育課程編成・全体的な計画の作成の基本②	教育課程や指導計画を入園から卒園までの長期的な視野で子どもの発達と関連付けながら学ぶ	第3章 *課題：実習園のカリキュラムについて調べる	P
6	子どもの理解と計画	計画を立てる際に最も基本となる子ども理解について学ぶ	第3章/中間テスト①・解説	GW
7	指導計画作成の実際① 長期の指導計画	指導計画の作成の理論と方法、年間計画や月案など長期の計画の作成について学ぶ	第4章	GW
8	指導計画作成の実際② 短期の指導計画	週案、週日案、日案など短期の指導計画の作成について学ぶ	第5章	GW
9	3.4.5歳児の指導計画	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿・5領域を意識した指導計画の作成について学ぶ	第6章	GW
10	0.1.2歳児の指導計画	個別的な指導計画の作成について学ぶ	第5章 *課題：日案をつくる	P
11	行事等の計画	行事についての計画や展開について学ぶ	第6章 中間テスト②・解説	GW
12	食育計画、学校保健・安全計画、子育て支援計画	食育計画、学校保健計画・学校安全計画、子育て支援計画等について教育課程や全体的な計画との関連づけながら理解する	第5章・第6章	GW
13	保育における記録	記録の意味や視点、記録の種類、書き方を知る	第7章	GW
14	教育・保育の評価と改善	評価と改善のプロセスについて学ぶ	第7章	GW
15	教育・保育の質の向上	PDCAサイクルを通じた実践の改善と、カリキュラム・マネジメントの意義を知る	第8章 最終テスト・解説	P

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用することがあるため、教員の指示に従って持参すること。

# 健康

[ Health ]

上野 奈初美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリングNo.
1年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c250
教職課程科目区分 含める必要事項		「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 領域に関する専門的事項						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業中の取り組み(ワークシート 30%) ②授業内テスト(筆記テスト3回30%) ③レポート課題(指導案作成40%)を基本的割合とする総合評価							
教科書	健やかな育ちを支える 領域「健康」上野奈初美編著 ミネルヴァ書房							
参考文献	『保育所保育指針 解説書』厚生労働省編 フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							

**授業概要** 領域「健康」に示されたねらいを達成するために、幼児の理解を主眼として「健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣や態度を育て健全な心身の基礎を培うようにする」ための基礎となる理論、および実践法について学ぶ。

**学習成果**

- ① 知識面 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「健康」のねらいと内容について理解し、乳幼児の生活習慣獲得内容と指導上の留意点を説明できる
- ② 技術面 子どもの生活習慣を確立するための方法を身につける
- ③ 理念・理解 幼児期の健康課題や現代的課題について理解し、具体的な支援場面を想定した保育計画が立案できる

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L	
1	幼児と健康	健康の定義、領域「健康」のねらいと内容について(幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)	テキスト1章、幼稚園教育要領・保育指針・教育・保育要領を熟読する	G	W
2	発育・発達	成長(発育)・発達の特徴、形態的発育、機能的発育、発育評価、発達評価	テキスト2章を熟読、分からない用語を調べておく	G	W
3	運動	運動技能の発達、運動遊びの指導、成長と運動、指導の実際	テキスト3章を熟読、分からない用語を調べておく	G	W
4	生活習慣	基本的な生活習慣、園生活における指導、生活習慣獲得のための課題	テキスト4章を熟読、分からない用語を調べておく	G	W
5	食育	食育の基本、食育を推進するための考え方、食物アレルギー	テキスト5章を熟読、分からない用語を調べておく	E	
6	幼児の保健	保育現場における健康管理、応急処置、発達障害	テキスト6章を熟読、分からない用語を調べておく	G	W
7	保育における安全管理	保育における安全管理、事故防止、リスクとハザード、安全教育の実際	テキスト7章を熟読、分からない用語を調べておく	E	
8	現代的課題	保育におけるICT、異文化・多文化共生、領域健康の指導にあたって、保育者の健康	テキスト7章を熟読、分からない用語を調べておく	P	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示により持参すること。

# 人間関係

[ Human Relations ]

竹内 あゆみ

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c251
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト3回30%)、②レポート課題(事例検討2回20%、最終レポート課題30%)、③授業中の取り組み(振り返り・感想記入20%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『事例で学ぶ保育内容 人間関係』無藤隆 監修 萌文書林							
参考文献	幼稚園教育要領解説』文部科学省・フレーベル館、『保育所保育指針解説書』厚生労働省・フレーベル館、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							

**授業概要** 本講義では、乳幼児期の社会性の発達を理解し、発達段階に合わせた援助を学ぶ。また、現代における子どもを取り巻く人間関係について幅広く学ぶとともに、幼稚園、保育所、認定こども園での子どもの生活や遊びにおける保育者の役割を考える。視聴覚教材等で具体的な実践を見ながら、子どもの発達段階や興味関心に合わせたかかわりについて検討できるようになることを目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 乳幼児期の社会性の発達を理解し、子どもの発達段階に合わせた援助を知る。
  - ② 技術面 実践現場での「人間関係」に関する保育方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 乳幼児期の「人間関係」の重要性について、社会的背景を踏まえて説明できる。

<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (予読の章・頁、資料No) *作成課題内容	L
1	幼児教育の基本	環境を通しての教育、領域「人間関係」とは 領域「人間関係」と他領域との関係、保育者の役割	第1章を熟読する ※課題は授業内で指示	
2	乳幼児期の発達と 領域「人間関係」	親、保育者、友達との出会いと関わり	第2章を熟読する ※課題は授業内で指示	G W
3	子どもと保育者の 関わり	信頼関係を築く、自己主張を支える、子ども同士をつなぐ、自立へ向かって	第3章を熟読する ※課題は授業内で指示	G W
4	遊びのなかの人の かかわり	遊びの発達と人間関係、遊びのなかの友達との関わり	第4章を熟読する ※課題は授業内で指示	G W
5	生活を通して育つ 人とのかかわり	家庭生活での関わり、園生活での関わり	第5章を熟読する ※課題は授業内で指示	G W
6	個と集団の育ち	一人一人を理解する、個と集団の関係	第6章を熟読する ※課題は授業内で指示	G W
7	人との関わりを見る 視点	自立心、協同性、道徳性・規範意識の育ち、 社会生活との関わり	第7章を熟読する ※課題は授業内で指示	G W
8	現代の保育の課題と 領域「人間関係」	現代社会と人の関わり、まとめ	第8章を熟読する ※課題：最終レポート	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。  
授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 環境

[ Environment ]

野津直樹

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリングNo.
1年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c252
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し授業に積極的に参加すること。 ①授業内テスト（小テスト7回）70%、②提出物（授業ノート等）30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『保育内容「環境」』無藤隆・中坪史典・後藤範子編著 大学図書出版							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							

**授業概要** 本授業は、保育所保育指針・幼稚園教育要領に示される5領域の内の一つ「環境」について学ぶ。その上で、保育所や幼稚園等における環境とは何かを考えていく。さらに、子どもが環境と関わるができる力をどう保育士・幼稚園教諭が育んでいくのかについて考える。  
子どもたちが身近な生き物や自然、遊具等と関わる様子を映像・写真を使って、授業を進める。

- 学習成果**
- ① 知識面 環境とは何かを理解し、述べることができる
  - ② 技術面 子どもの視点に立った環境を整えるために必要な考え方を身に付ける
  - ③ 理念・理解 自然環境とのかかわり、特に生物の命の尊さについて説明できる

回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	
1	環境とは何か	環境と5領域としての環境 (教科書 第1章 保育とは何か)	第1章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	A L G W
2	領域 環境のねらい・内容	領域 環境のねらい・内容 (第2章 領域「環境」について)	第2章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G W
3	園のあり方としての環境	人的環境・物的環境・自然環境・社会環境、危険への対応、園での環境構成の実際 (教科書 第3章 子どもの生活と環境とのかかわり 第4章 園の環境構成 第5章 物とのかかわりと遊び)	第3章、第4章、第5章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G W
4	科学との出会いと環境	保育における科学とは・教材研究 (教科書 第9章 科学との出会いと環境)	第9章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G W
5	子どもを取り巻く社会環境	地域社会との関わり・教材研究 (教科書 第11章 子どもを取り巻く社会環境)	第11章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G W
6	自然環境との関わり	自然、季節、動植物、小動物との関わり等の事例について 命の移り変わりについて、悲しみについて (教科書 第6章 自然環境とのかかわり)	第6章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G W
7	数量・図形・文字・標識とのかかわり 保育と行事	保育の中で数量を学ぶということ・教材研究 (教科書 第7章 数量と図形との関わり 第8章 幼児と文字・標識の関わり) 年中行事を知る、その実際・教材研究 (教科書 第10章 保育と行事)	第7章、第8章、第10章を熟読 課題:授業内容から提示 小テスト:授業内容から提示	G W
8	子どもを取り巻く情報メディア 環境教育について	子どもとコンピュータ・指導計画作成 (教科書 第14章 子どもを取り巻く情報メディア) 持続発展教育、持続可能な社会とは・模擬保育準備 (教科書 第13章 環境教育について)	第13章、第14章を熟読 小テスト:授業内容から提示	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 言葉

[ Language ]

宮川 萬寿美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c253
教職課程科目区分 含める必要事項		「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 領域に関する専門的事項						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業中の取り組み(課題に対する発表 30%)、授業内テスト(筆記テスト 1回 20%、実技テスト 1回 20%)、レポート課題(ポートフォリオの提出 30%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」(馬見塚昭久、小倉直子編著、ミネルヴァ書房)							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場に生きる 一児童文化財活用のエッセンス (馬見塚昭久著、萌文書林)</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針</li> </ul>							

**授業概要** 子どもたちが豊かな言葉や表現を身につけるためには、保育者が言葉の意義や機能を理解し、適切な言語環境を整える必要がある。この科目では、人間にとっての言葉の意義と機能について学び、言葉遊びや児童文化財に触れつつ、言葉の本質を知るとともに、子どもたちにとって望ましい言語環境についての理解を深める。

- 学習成果**
- ① 知識面 人間にとっての言葉の意義と機能についての知識を得る。
  - ② 技術面 言葉を豊かにする言葉遊びの方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 言葉の楽しさや美しさを理解する。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L	
1	人間と言葉	①言葉と文化 ②言葉とは何か	教科書第1章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W
2	乳幼児期の言語獲得	①なぜ話せるようになるのか ②言葉の仕組みを見つける	教科書第2章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W
3	言葉の豊かさ	①日本語の特徴 ②言葉を感じる	教科書第3章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W
4	言葉遊び	①子どもと言葉遊び ②言葉遊びの実際	教科書第4章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W
5	児童文化財①〔おはなし〕	①児童文化財とは ②おはなし	教科書第5章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W
6	児童文化財②〔紙芝居〕	①紙芝居とは ②紙芝居の実際	教科書第6章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W
7	児童文化財③〔絵本とは何か〕	①絵本の基礎知識 ②絵本の特性と絵の構成要素	教科書第7章を読み、難解語の意味を調べる。 *おすすめ児童文化財の紹介レポート作成。	G	W
8	児童文化財④〔絵本と子ども〕	①絵本の読み聞かせ ②絵本に描かれた子ども	教科書第8章を読み、難解語の意味を調べる。	G	W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 表現(音楽)

[ Representation (Music) ]

今泉明美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
1年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs1c255
教職課程科目区分 含める必要事項		「領域及び保育内容の指導法に関する科目」領域に関する専門的事項						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①レポート課題(音楽遊びの計画と振り返り)20%、②授業中の取り組み音楽実践 20%、コード伴奏法実践と譜面作成 30%③授業内テスト歌唱活動の支援・わらべうた・リトミック等音楽基礎知識各小テスト各 10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美編著 他(萌文書林)、『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』有村さやか・今泉他編著(ミネルヴァ書房)・音楽表現ファイル資料							
参考文献	『わらべうた 手合わせ遊び 子守うた』細田淳子著(すずき出版)							

## 授業概要

この科目は幼稚園免許取得における領域及び保育内容の指導法に関する科目である。保育内容を理解し、保育現場での子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術、保育環境の構成、活動の展開を習得する。具体的には、コード伴奏法や音楽教育のメソッド等を学び、歌唱や楽器、身体表現を組み合わせた子どもの音楽的な遊びや総合的な音楽表現を学習する。

## 学習成果

- ① 知識面 保育における様々な音楽的表現活動やそれらの指導・支援方法についての知識を得る
- ② 技術面 自身の表現力や感性を高め、表現の楽しさを体験すると共に音楽的表現活動の支援・指導方法に必要な音楽基礎技能を身につける
- ③ 理念・理解 保育における音楽的表現活動における指導・支援の基本的考え方を理解する

授業計画		【AL】D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験	A L E E D E G W E G W E D E E E D
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容
1	幼児の音楽的な表現 わらべうた	わらべうた遊びの実践を通してわらべうたの特徴から捉える幼児の音楽的表現活動を知る。	2部第2章1,3, p136-141、154-158 楽譜 p 153、162、168(課)チャレンジ43
2	幼児の音楽表現活動 ～幼児の歌唱活動	子どもの歌唱のモデルとなる保育者の歌唱や初めてのうたの歌唱活動から学ぶ歌唱の支援	2部第2章 p144-146 (課)チャレンジ37
3	幼児の音楽表現活動 ～リトミック遊び①	打楽器の音色や言葉のリズムを用いた音楽遊び(リトミック的遊び)の実践と理解	2部第4章 p178-182 (課)チャレンジ49, 50
4	幼児の音楽表現活動 ～リトミック②	リトミック的身体表現遊びの理解とその実践	2部第4章 p 183-186 (課)チャレンジ51, 52
5	音楽遊びの計画立	音楽遊びの計画の立案の方法の理解	p170-172、186 (課)部分実習指導計画立案
6	幼児の音楽表現活動 のための基礎知識～ コード伴奏法	基本的音楽知識を基礎とした子どもの歌コード伴奏付けの理解と実践①	2部第1章4 p98-105 楽譜 p134(課)コード伴奏付けと コード伴奏の練習
7	幼児の音楽表現活動 のための基礎知識～ コード伴奏法の実践	基本的音楽知識を基礎とした子どもの歌コード伴奏の理解と実践②	2部第1章4 p98-105 (課)2部第1章 p105、106: コード伴奏付けとコード伴 奏の練習
8	音楽遊びの実践	立案した音楽遊びの実践 全授業の振り返り	第2部4章 p170 - 172、 (課)部分実習指導案提出

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には課題に取り組み復習をすること。テストや課題等に関して授業内にフィードバックをする。配布した振り返りプリント等に意欲的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い特参すること。

# 乳児保育Ⅰ

[ Infant Care Ⅰ ]

竹内 あゆみ

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
1年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs1c167
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(小テスト 3回 20%)、レポート課題(ワークシート 30%、総括レポート 30%)、授業中の取り組み(振り返り・感想記入 20%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子編 同文書院							
参考文献	『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館							

**授業概要** 本講義では、乳児保育の意義や目的を理解し、3歳未満児の発達とその育ちを支える保育内容について学ぶ。また、乳児保育で一人ひとりの子どもと応答的・受容的に関わることを理解し、保育現場における具体的な援助を検討する。さらに、各関係機関との協働や連携の重要性について学び、乳児保育の時期の子どもの育ちを多面的にとらえることができるようになることを目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容について知識を得る。
  - ② 技術面 乳児保育の意義と目的を理解し、多様な保育の場における課題と関連づけて説明できる。
  - ③ 理念・理解 乳児保育における職員間の連携や授業計画を理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	乳児保育の目的と役割	乳児保育の目的と役割、対象と実施体制	第1章を熟読する ※課題は授業内に提示	
2	乳児保育の基本	乳児保育の歴史の変遷、乳児保育の社会的役割	第2章を熟読する ※課題は授業内に提示	
3	乳児保育の制度	児童福祉法、育児・介護休業法等の理解	第3章を熟読する ※課題は授業内に提示	
4	乳児の発達過程	保育所保育指針における乳児保育のポイント① 0.1.2 歳児の発達過程	第4章を熟読する、小テスト ※課題は授業内に提示	
5	乳児保育の配慮事項	保育所保育指針における乳児保育のポイント② 0.1.2 歳児の保育に関わる配慮事項	第5章を熟読する ※課題は授業内に提示	
6	乳児の発達①	運動機能、情緒、社会性、言葉の発達について	第6章を熟読する ※課題は授業内に提示	G W
7	乳児の発達②	乳児とのふれあい遊び、抱き方の基本	第7章を熟読する ※課題は授業内に提示	G W
8	乳児の発達③	睡眠、排泄について	第8章を熟読する、小テスト ※課題は授業内に提示	E
9	保育者の連携	乳児保育における複数担任制	第9章を熟読する ※課題は授業内に提示	G W
10	乳児保育の計画と評価	年齢別デイリープログラム(日課表)の理解	第10章を熟読する ※課題は授業内に提示	G W
11	乳児保育の環境づくり	保育環境の衛生管理、清潔について	第11章を熟読する ※課題は授業内に提示	G W
12	乳児保育の安全管理	乳児保育における安全管理	第12章を熟読する、小テスト ※課題は授業内で提示	G W
13	保護者との連携	保護者との連携、連絡帳の書き方	第13章を熟読する ※課題は授業内で提示	
14	子育て支援	子育て支援施設の役割と機能	第14章 ※課題は授業内で提示	
15	「乳児保育」まとめ	全体振り返り、乳児保育Ⅱに向けて	テキストまとめ *最終課題:総括レポート	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。  
授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。



# 障害児保育

[ Early Childhood Special Education ]

小倉直子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
1年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs1c169
実務経験との関連性		臨床心理士として療育現場での実務、保育園・幼稚園巡回の実務経験を持つ教員が、各種障害についての知識、障害児保育の実際と保護者支援について指導する。						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト3回)30%、②授業中の取り組み(毎回授業終了時の課題とミニレポート)40%、③レポート課題(期末レポート)30%を基本的配分とする総合評価。							
教科書	『保育者のためのテキスト 障害児保育』 近藤直子、白石正久、中村尚子 編著 全障研出版部 2013							
参考文献	シリーズ『発達と障害を考える本』1～12 ミネルヴァ書房 (2006～) DVD『光の中に子供たちがいる』第1部 1975							

**授業概要** この授業では障害児保育全般における問題と、一人ひとりの子どもの障害特性、発達課題を理解し、保育現場で実践的に取り組むことが可能な支援法を、理論・実技演習を通して習得する。それぞれの障害の概念や知識を学ぶとともに、その障害を固定化せず、発達的な変化を捉える目を養うことを通じ、保育現場で活用できる支援と今後の障害児保育の在り方について学ぶ。

**学習成果**

- ① 知識面 さまざまな障害の概念や基礎知識を得る。障害児保育の歴史と、現状の課題を知る。
- ② 技術面 障害児保育における遊びや日常生活動作を含む具体的な保育方法、家族への支援方法を学ぶ。
- ③ 理念・理解 一人ひとりの子どもの発達を保障する障害児保育の理念を理解し、今後の課題を考える。

授業計画		【AL】D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (予読の章・頁、資料No) * 作成課題内容	L	
1	「障害」とは	「障害」の概念と、障害児保育の目的について学ぶ。	(第1章p.23-30)「障害とは」	G W	
2	障害乳幼児の生活と発達	障害児保育と発達保障の歴史的背景を知り、障害児保育の内容と方法を考える。	(第1章 p.11-23)「障害児保育の歴史について」	D	
3	知的障害の理解と保育における配慮	知的障害(精神遅滞)の基礎知識、発達検査の概要と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.50-51、53-60)「知的障害」	D	
4	ダウン症の理解と保育における配慮	ダウン症に代表される染色体異常による障害の基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.51-53)「ダウン症」	D	
5	自閉症児の理解と保育における配慮	自閉症・自閉スペクトラム症の基礎知識と保育における配慮について学ぶ。	【小テスト①】 (第3章p.73-85、66-68)「自閉症」	D	
6	発達障害の理解と保育における配慮①	発達障害の概要と、LD(学習障害)の基礎知識、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.61-64)「LD」	D	
7	発達障害の理解と保育における配慮②	ADHD(注意欠陥多動症)の基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.64-72)「ADHD」	D	
8	視覚障害の理解と保育における配慮	視覚障害の基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	【小テスト②】 (第3章p.86-96)「視機能」	D	
9	聴覚障害の理解と保育における配慮	聴覚障害の基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.97-107)「聴覚機能」	D	
10	視覚障害・聴覚障害を持つ子の遊び	視覚・聴覚の障害と保育における配慮について具体的な支援方法と遊びを体験する。	「視覚・聴覚障害と支援」 【レポート課題提示】	E	
11	脳性まひの理解と保育における配慮	脳性まひに代表される運動障害の基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.108-120)「脳性まひ」	D	
12	てんかんの理解と保育における配慮	てんかんの基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.121-125)「てんかん」	D	
13	重症心身障害の理解と保育における配慮	医療的ケアの必要な重症心身障害の基礎知識と、保育における配慮について学ぶ。	(第3章p.125-134)「医療的ケア」 【レポート提出】	D	
14	障害乳幼児の保育・療育とは	障害乳幼児の保育・療育施設と保育所・幼稚園の違いを考える。	【小テスト③】 (第2章p.32-35)「療育」	G W	
15	障害を持った子どもと保育	障害児保育の実際を、子どもの遊びを軸に据えて考える。	(第2章p.35-47)「障害児保育とは」	D	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 職業と社会 I (保育)

間野 百子 中村 真知子

[ Placement Academy I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
1年生	後期	講義	1単位	選択	教養科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cg1n210
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業中の取り組み(フォームへの回答、グループ討論への参加)50%、提出物 30%、小テスト 20%を基本的配分とする 総合評価。							
教科書	『職業と社会・保育学科編』(オリジナルテキスト)							
参考文献	汐見稔幸『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、2011年、岩波書店							

**授業概要** 「働く」ことの意味と意義を学びます。仕事に就き、社会人としてどう生きるかを考えることを通して、職業観を確立しましょう。そして、保育士・幼稚園教諭として、様々な領域で働くビジョンを持ち、自分の将来を考え、就職活動に取り組むためのスタートラインに立つことを目指しています。  
未来の自分の姿をより具体的に思い描き、方向性を探り、よりよい生き方を模索できるよう、能動的な態度で学んでいきましょう。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育者の仕事にはどのようなものがあるのか、自分を知り方向性を考える；就職活動の進め方について学ぶ
  - ② 技術面 ビジネスマナー(電話・メールでの対応)を身に付ける；グループワークを通してコミュニケーション力を上げる
  - ③ 理念・理解 社会人として働くにあたり「働くこと」の意味と意義を学ぶ

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
				AL
1	社会と仕事①	・授業のオリエンテーションーこの科目の意味について ・資格・免許を活かしたさまざまな職業の特質を知る。 ・子どもの発達支援者としての役割について学ぶ。	※目標とする保育者像について考える 授業内容に関する感想提出。	D
2	社会と仕事②	・社会が求める力、職業意識について学ぶ。 ・授業内容に関する感想提出	※保育者の専門性について調べておく	GW
3	ライフワークとライフステージ①	・身近な人々の生き方に学び、自分の人生のキーワードを見つける。 ・保育の仕事について様々な働き方を学ぶ。	※保育に関する資格を活かせる職業について調べておく 授業内容に関する感想提出	D
4	ライフワークとライフステージ②	・自分の経験や特性を自覚し、短大生活をどのように過ごしていくのかについて考える。 ・授業内容に関する感想提出	※自らの個性や問題意識を活かせる職業について検討する	GW
5	就職活動を始めよう	・就職活動における心得 ・社会人として必要となるビジネスマナーを身に付ける。	(テキストP. 38-39) 課題：授業内容から掲示	GW
6	自分の魅力を見つけよう① ～グループワーク～	・小テスト(一般常識基礎編) ・働く目的について考える。(グループワーク①) ・自己分析を行いPRシートを作成する。	ワークシート配布 課題：授業内容から掲示	D
7	自分の魅力を見つけよう② ～グループワーク～	・小テスト(ビジネスマナー編) ・自分の強みを見つける。(グループワーク②) ・他己分析、意見交換をし、仲間と共に理解を深める。	ワークシート配布 課題：授業内容から掲示	D
8	内定者懇談会 ～2年生から1年生へのメッセージ～	・内定を頂いた先輩の話から就職活動を学び、各グループで体験談を聞き、その後質疑応答	ワークシート配布 課題：授業内容から掲示	GW

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 保育実習Ⅰ(保育所)

[ Practical Training in Nursery I ]

竹内 あゆみ 杉崎 雅子  
山本 華子 宮川 萬寿美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリングNo.
1年生	後期	実習	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修	DP3c	No. Cs1c174
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	実習評価表 40%、日誌 60%を基本的配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館							
参考文献	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子他著 わかば社 『保育所保育指針』フレーベル館							

## 授業概要

保育所における実習（合計10日間）  
乳幼児への理解を深めるとともに、保育所に機能とそこでの保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。  
※履修登録は1年に行い、2年前期に評価する。

## 学習成果

- ① 知識面 保育所・児童福祉施設の役割や機能についての知識を得る。
- ② 技術面 保育観察や子どもとの関わりを通して、保育計画、観察、記録、自己評価等、保育の基本的技術を習得する。
- ③ 理念・理解 保育士の業務内容や職業倫理について説明できるようになる。

## 授業計画

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No)* 作成課題内容	A L E
1日目~ 5日目	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	1. 以下の保育所の役割と機能を理解する (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の基本 (3) 保育所の社会的役割と責任 2. 以下を通じて子ども理解を進める (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの関わりと援助	実習の手引き ・実習日誌	E
6日目~ 10日目	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	3. 以下の保育内容・保育環境について学び実践する (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 以下の保育の計画、観察、記録について理解する (1) 保育の全体的な計画及び指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 以下の専門職としての保育士の役割と職業倫理を理解する (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理	実習の手引き ・実習日誌	E

## 備考

実習を履修するためには、「実習に行くための基準」を満たしていなければならない。  
実習中に教員が巡回するので、その指導に従うこと。  
実習終了後、報告会や個人面接等に参加すること。  
事前指導、事後指導と振り返りは保育実習指導の授業の中で行う。  
実習を履修する場合は保育実習指導の科目も履修しなければならない。

保育・  
一年生

# 保育実習指導 I A

竹内 あゆみ 上野 文枝 小倉 直子 杉崎 雅子

[ Guidance of Practical Training in Nursery I A ] 山本 華子 武山 美子 宮川 萬寿美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
1年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修	DP3c	No. Cs1c172
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト 30%)、②レポート課題(ワークシート 40%、活動記録 20%、実践課題 10%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館							
参考文献	『幼稚園・保育所 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』久富陽子編著 萌文書林 『社会的養護』吉田真理編著 萌文書林 『社会的養護内容』吉田真理編著 萌文書林							

## 授業概要

本科目は、免許・資格取得のための必修科目である。実習を円滑に進めていくための知識・技術の習得、実習体験を深化させるための基礎的学習を行う。

保育実習 I (保育所)及び保育実習 I (施設)に向けた準備と振り返りを行う。座学だけではなく、体験活動やグループワーク等様々な学習形態で、実践現場で実習を行うことへの心構えを育みたい。

## 学習成果

- ① 知識面 各実習の目的や内容が説明できるようになる
- ② 技術面 実習の計画、実践、観察、記録、評価の基本的な方法を身につける
- ③ 理念・理解 実習生の実習に対する意欲や態度の在り方について理解する

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	オリエンテーション 実習基礎①	オリエンテーション: 授業予定と進め方、実習全体の概要、保育実習の意義と目的、はじめの一步準備①	(手引き「全実習共通」)	D
2	保育実習 I 実習基礎②	実習の服装について、実習に行くための基準、選択実習の希望確認と説明	(手引き「全実習共通」)	P
3	保育実習 I 実習基礎③	保育活動の実演発表の説明(内容・手順・課題)、部分実習指導案の説明	(手引き「全実習共通」)	
4	保育実習 I 実習基礎④	基本的な実習マナー①(自己紹介・言葉遣いなど、実習に際しての留意事項、はじめの一步準備②)	(手引き「全実習共通」) *授業内活動記録	GW
5	保育実習 I 実習基礎⑤	基本的な実習マナー②(挨拶・実習先への電話など、はじめの一步準備③)	(手引き「全実習共通」)	GW
6	保育実習 I 実習基礎⑥	実習生紹介の書き方、実習生紹介作成、はじめの一步準備④	(手引き「全実習共通」)	
7	保育実習 I 実習基礎⑦	保育実習 I (保育所)における実習の目的と概要、(厚労省教授内容 1 保育実習の意義)	(手引き「保育実習 I (保育所)」 保育所保育指針解説	
8	保育実習 I 実習基礎⑧	保育実習 I (施設)における実習の目的と概要・施設種別の事前理解(厚労省教授内容 1 保育実習の意義)	(手引き「保育実習 I (施設)」)	
9	保育実習 I 実習基礎⑨	はじめの一步直前学習①(態度やマナー、子どもとのかわり方)	(手引き「全実習共通」)	E
10	保育実習 I 実習基礎⑩	はじめの一步直前学習②(生活技能、守秘義務)	(手引き「全実習共通」) *授業内活動記録	E
11	保育実習 I 実習基礎⑪	はじめの一步(保育体験)	*提出物: 体験記録	F
12	保育実習 I 実習基礎⑫	保育者になるための基礎知識と身につけたいこと①(表情・呼吸・声の出し方)、実習配属発表	(手引き「全実習共通」) 保育所保育指針解説	GW
13	保育実習 I 実習基礎⑬	夏休み保育体験説明会	(手引き「全実習共通」)	

14	保育実習 I 実習基礎⑭	保育者になるための基礎知識と身につけたいこと② (子どもの立場になって考える)	(手引き「全実習共通」) *小テスト	G W
15	保育実習 I 実習基礎⑮	夏休み保育体験準備	(手引き「全実習共通」) *提出物：保育活動ファイル	
16	保育実習 I 実習基礎⑯	前期のまとめ、夏期休暇の過ごし方・夏期休暇中の課題	(手引き「全実習共通」)	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。保育実習ファイル等は授業ごとに作成していくこと

## 【後期】

- 学習成果**
- ① 知識面 実習施設の役割に関する知識を得て、職業倫理の重要性を説明できるようになる
  - ② 技術面 実習の計画、実践、観察、記録、評価の具体的な方法を身につける
  - ③ 理念・理解 保育実習 I の目的・内容が説明できるようになり、実習生としての学習目標を理解する

授業計画		【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技・実習・実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成レポート課題内容		
17	保育実習 I 実習基礎⑰	夏休み保育体験振り返り	(手引き「全実習共通」) 提出物：ふれあい体験参加記録	G W	
18	保育実習 I (保育所) 実習基礎⑱	ゲストスピーカー (障害者支援施設の職員と利用者) による講話	(手引き「保育実習 I (保育所)」) 保育所保育指針解説		
19	保育実習 I (保育所) 実習基礎⑲	施設における実習の内容➡施設実習の要領と準備	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
20	保育実習 I (保育所) 事前指導①	保育所における実習の内容	(手引き「保育実習 I (保育所)」) 提出物：部分実習準備		
21	保育実習 I (保育所) 事前指導②	保育所におけるオリエンテーションの受け方と注意事項	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
22	保育実習 I (保育所) 事前指導③	保育所における実習の課題と計画	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
23	保育実習 I (保育所) 事前指導④	保育所における部分実習指導案作成	(手引き「保育実習 I (保育所)」) 提出物：部分実習指導計画案		
24	保育実習 I (保育所) 事前指導⑤	保育所における観察、記録および評価、実習日誌の書き方① 細菌検査準備	(手引き「保育実習 I (保育所)」) 授業内活動記録(日誌①)		
25	保育実習 I (保育所) 事前指導⑥	保育所における観察、記録および評価、実習日誌の書き方② 細菌検査準備	(手引き「保育実習 I (保育所)」) 授業内活動記録(日誌②)		
26	保育実習 I (保育所) 事前指導⑦	保育実習における留意事項(子ども人権と最善の利益の考慮・プライバシー保護と守秘義務)	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
27	保育実習 I (保育所) 事前指導⑧	保育所における実習直前オリエンテーション、細菌検査結果・評価表・レターパック等の準備	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
28	保育実習 I (保育所) 事前指導⑨	個別面談・グループワーク (実習に向けて)	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
29	保育実習 I (保育所) 事前指導⑩	実習応援講座 (オンライン配信)	(手引き「保育実習 I (保育所)」)		
30	保育実習 I (保育所) 事前指導⑪	実習体験報告会：参加および記録	(手引き「全実習共通」)		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。提出物は必ず期限を守ること。実習にむけ、検温・手洗い等とともに健康管理に十分留意すること。



---

# 保育学科

2年生

---

# おだたん人間成長講座Ⅱ (コースA、B、C) 統括：おだたん人間成長講座運営委員会 [ Liberal Arts of Odawara Junior College II ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーリングNo.
2年生	通年	講義	2単位	必修	教養科目		DP1c	No. Cg2n107
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 建学の精神 10%、コース別活動 60%、コースレポート 10%、小峰祭 10%、振り返り発表会 10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	おだたんポートフォリオ							
参考文献	各回の配布資料、おだたん人間成長講座ファイル							

## 授業概要

建学の精神「女子を人として教育する、女性として教育する、国民として教育する」に基づいて設置された2年間にわたる総合的な教養科目である。 専門科目とあわせて学び、本学の3つの教育目標（自他ともに敬い愛する人・豊かな知性と感性あふれる人・健やかな家庭、社会を担う人）を具体化する授業内容である。

## 学習成果

- ① 知識面 建学の精神について説明できるようになる
- ② 技術面 コースで学んだことを生活に活用できるようになる
- ③ 理念・理解 本学の学生としての自覚を持ち、社会に出ることができるようになる

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L E D E E E E E E F F F F G W
1	4/12 講演「建学の精神」 成長講座Ⅱオリエンテーション	本学の歴史、建学の精神、教育理念について理解を深める 【学長講演】 コース別授業オリエンテーション	シラバス 課題：講演内容レポート①	E
2	4/26 コース①	コース別活動	各コース講師の指示	E
3	5/10 コース②	コース別活動	学生便覧 p2 課題：講演内容レポート	D
4	5/24 コース③	コース別活動	各コース講師の指示	E
5	5/31 コース④	コース別活動	各コース講師の指示	E
6	7/12 コース⑤	コース別活動	各コース講師の指示	E
7	9/27 コース⑥	コース別活動	各コース講師の指示	E
8	小峰祭準備 (コース⑦)	小峰祭での中間発表準備	各コース講師の指示	E
9 10	10/14 小峰祭発表	コース別に中間発表を行うとともに、相互に見学	小峰祭パンフレット 課題：小峰祭見学レポート	F
11	10/25 コース⑧	コース別活動	各コース講師の指示	F
12	11/1 コース⑨	コース別活動	各コース講師の指示	F
13	11/22 コース⑩	コース別活動	各コース講師の指示	F
14	コース別成果確認まとめ	コースのまとめレポートを作成提出	課題：コースレポート	F
15	12/20 人間成長講座 振り返り発表	2年間の人間成長講座の活動を振り返る	人間成長講座のファイル 課題：2年間の人間成長講座 振り返りレポート	G W

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。



# 職業と社会Ⅱ(保育)

中村 真知子

[ Placement AcademyⅡ ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	講義	1単位	選択	教養科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cg2n211
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業中の取り組み 50、提出物 30、小テスト 20 を基本的配分とする総合評価。							
教科書	『CAREER BOOK 保育学科』(オリジナルテキスト)							
参考文献								

**授業概要** 「働く」ことの意味と意義を学びます。仕事に就き、社会人としてどう生きるかを考えることを通して職業観を確立します。保育者として様々な領域で働くビジョンを持ち、就職活動を始めるための準備を行います。自分の目指すゴールを明確にし、タイムリーに動きだしができることを目指します。将来の自分の姿をより具体的にイメージし、よりよい生き方を模索できるよう能動的な態度で学んでいきましょう。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育者の仕事はどんなものがあるのか、自分を知り方向性を考える；就職活動の進め方について学ぶ
  - ② 技術面 ビジネスマナー（電話・メールでの対応）を身に付ける:グループワークを通してコミュニケーション力を上げる
  - ③ 理念・理解 社会人として働くにあたり「働くこと」の意味と意義を学ぶ

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L	
1	履歴書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRシートの作成</li> <li>履歴書記載におけるルールと履歴書の作成</li> <li>筆記試験</li> </ul>	職業と社会Ⅰで学んだ自分の魅力発見シートを復習しておく。テキスト (P. 42~44) 課題:履歴書の完成	D	
2	コミュニケーション力を向上させよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークを通してコミュニケーションを取る方法を学ぶ</li> </ul>	ワーク資料配布	GW	
3	保育の現場を知る ~3園見学ルール~	<ul style="list-style-type: none"> <li>求人票の見かたを知る</li> <li>様々な園、施設について調べる</li> <li>園見学をするにあたり情報収集の方法を知る</li> <li>筆記試験</li> </ul>	自分の就職したいエリアを絞っておき、情報収集ができるようにしておくこと。テキスト (P. 36~37) 課題:授業時に提示	D	
4	面接対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接におけるルール・コツを学ぶ (PREP法)</li> <li>面接練習シートの作成</li> </ul>	テキストP. 54を確認しておくこと。テキスト(P. 54~57) 面接練習シート配布	GW	
5	試験を受けよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験を受けるための準備を整える</li> <li>必要な応募書類の手続きについて</li> </ul>	テキストP. 58を確認しておくこと。資料配布。テキスト (P. 58~59) テキスト (P. 45~48)	GW	
6	園・施設合同説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な園・施設の特長について調べる</li> <li>園・施設で働くことの意味を学ぶ</li> </ul>	配布した資料を確認しておくこと。テキスト (P. 49~53)	D	
7					
8	内定後の手続きについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>お礼状、送付状の書き方を知る</li> <li>各種提出書類について</li> <li>社会人・職業人としての役割と責任について</li> </ul>	テキストP. 61を確認しておくこと。テキスト(P. 61~64)	D	

**備考** 各授業の前に20分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い特参すること。

保育・二年生

# 児童文学

[ Children's literature ]

馬見塚 昭 久

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	前期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格選択 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs2c117
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業中の取り組み（課題に対する発表30%）、授業内テスト（筆記試験1回40%）、レポート課題（ポートフォリオの提出30%）を基本的配分とする総合評価							
教科書	事前にプリントを配付する							
参考文献	『児童文学の教科書』川端有子（玉川大学出版部）							

**授業概要** 日本児童文学の代表作を読みながら、児童文学の大まかな流れと特質について学ぶ。授業では、毎回グループ活動を取り入れ、作品の輪読と対話をし、作品の深層に迫る読みを全員で共有する。大人たちが忘れてしまった大切な心について、保育者の視点から考察しつつ読解力を深め、児童文学と子どもの成長との関係性について理解することを目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 日本児童文学の大まかな流れについて知る。
  - ② 技術面 児童文学の読解力を深める。
  - ③ 理念・理解 子どもの成長と児童文学の関係について理解する。

授業計画		【AL】D:ディカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習（教科書の章・頁、資料No）*作成課題内容			
1	児童文学の諸相①	童話と児童文学	知っている児童文学作品名を3つノートに記入。	G W		
2	児童文学の諸相②	小川未明の児童文学	事前配付する作品①の通読と難解語の意味調べ。	G W		
3	児童文学の諸相③	有島武郎の児童文学①	事前配付する作品②の通読と難解語の意味調べ。	G W		
4	児童文学の諸相④	有島武郎の児童文学②	事前配付する作品③の通読と難解語の意味調べ。	G W		
5	児童文学の諸相⑤	宮澤賢治の児童文学①	事前配付する作品④の通読と難解語の意味調べ。	G W		
6	児童文学の諸相⑥	宮澤賢治の児童文学②	事前配付する作品⑤の通読と難解語の意味調べ。	G W		
7	児童文学の諸相⑦	新美南吉の児童文学①	事前配付する作品⑥の通読と難解語の意味調べ。	G W		
8	児童文学の諸相⑧	新美南吉の児童文学②	事前配付する作品⑦の通読と難解語の意味調べ。	G W		
9	児童文学の諸相⑨	芥川龍之介の児童文学①	事前配付する作品⑧の通読と難解語の意味調べ。	G W		
10	児童文学の諸相⑩	芥川龍之介の児童文学②	事前配付する作品⑨の通読と難解語の意味調べ。	G W		
11	児童文学の諸相⑪	現代児童文学と安房直子	事前配付する作品⑩の通読と難解語の意味調べ。 *お勧めの児童文学作品を選び、紹介レポート作成	G W		
12	現代児童文学とサブカルチャー①	現代児童文学とアニメ文化①	ワークシート①に目を通し、難解語の意味調べ。	G W		
13	現代児童文学とサブカルチャー②	現代児童文学とアニメ文化②	ワークシート②に目を通し、難解語の意味調べ。	G W		
14	現代児童文学とサブカルチャー③	現代児童文学とアニメ文化③	ワークシート③に目を通し、難解語の意味調べ。	G W		
15	現代児童文学とサブカルチャー④	現代児童文学とアニメ文化④	ワークシート④に目を通し、難解語の意味調べ。	G W		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 子どもの食と栄養 I

平井千里

[ Nutrition for Infant and Children I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリングNo.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs2c119
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①媒体提出(1回) 30%、③授業での取り組み(毎回提出のふり返しシート)70%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『子どもの食と栄養 改定第2版』児玉浩子他編著 中山書店							
参考文献	『最新 離乳食オールガイド』新星出版社、『田角 勝のこれだけは伝えたい子どもの意欲を引き出す摂食嚥下支援』医歯薬出版、『保育所における食事の提供ガイドライン』厚生労働省							

## 授業概要

保育者として「保育の対象理解」を深めるための専門科目  
 子どもにおける食の問題点と栄養素についての基本事項、子どもが歩んでいく各ライフステージにおける栄養的な特徴を学ぶ。

## 学習成果

- ① 知識面 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を得る
- ② 技術面 栄養素の働きが分かり、栄養摂取の方法を説明できるようになる
- ③ 理念・理解 子ども的一生におけるライフステージごとの栄養学的な特徴と問題点について理解する

## 授業計画

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	栄養の基本①	エネルギー産生栄養素について学びます	第2章2~5 (p.28~35) を読んでおく	A L
2	栄養の基本②	微量栄養素と消化吸収のしくみについて学びます	第2章1、6~8 (p.26、27、36~41) を読んでおく	A L
3	調乳・離乳食期	調乳・離乳食期 (0~2歳くらいまで) の成長・発達と食生活の特徴について学びます	第3章1~5 (p.50~73) を読んでおく	A L
4	幼児期	幼児期 (2~6歳くらいまで) の成長・発達と食生活の特徴について学びます	第3章6 (p.74~79) を読んでおく	A L
5	学童・思春期	学童・思春期 (6~18歳くらいまで) の食生活の特徴と問題点について学びます	第3章7 (p.80~85) を読んでおく	A L
6	成人	成人期 (18~65歳くらいまで) の食生活の現状と問題点について学びます	事前配布プリントを読んでおく	A L
7	老年期	老年期 (65歳くらい~) の身体の変化と問題点について学びます	事前配布プリントを読んでおく	A L
8	作成 (離乳食の注意点)	「離乳食で気をつけるべき点」を保護者に知らせるための媒体 (保育園だより) を作成する	事前配布プリントを読んでおく #媒体提出	A L

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りシート等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 子どもの食と栄養Ⅱ

稲葉 佳代子

[ Nutrition for Infant and ChildrenⅡ ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパングNo.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs2c120
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①媒体(幼稚園だより)提出で30%、②体験レポートや動画視聴レポート(3回)提出で30%、③小テスト(授業内5回)で40%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『子どもの食と栄養 改定第2版』児玉浩子他編著 中山書店							
参考文献	「あんしん、やさしい最新離乳食オールガイド」新星出版社、「保育現場の食育計画」風鳴舎、「新食育ブック 子どもの食と健康」少年写真新聞社、「食べる・飲むメカニズム」日本歯科新聞社、「田角勝のこれだけは伝えたい子どもの意欲を引き出す摂食嚥下支援」医歯薬出版、「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省							

**授業概要** 保育者として「保育の対象理解」を深めるための専門科目  
 子ども一人ひとりの身体的特徴に合わせた食生活について、保育者が支援できることを学ぶ。また、すべての子どもが生涯にわたって健康で豊かな生活を営むために必要な食育について、その基本や実践方法を習得する。

**学習成果**

- ① 知識面 子ども一人ひとりの身体的特徴に合わせた食生活のあり方、食育の基本などについて理解する
- ② 技術面 調乳、食物アレルギー児や障がい児への対応など、保育者が身につけるべき技術が習得できる
- ③ 理念・理解 子ども一人ひとりの食生活について問題点を見出すことができ、対応方法を考え解決する力が身につく

回数		テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	AL
1		家庭や児童福祉施設における子どもの食と栄養	家庭の食事の問題点、および児童福祉施設の食事と栄養について学ぶ	第5章(p.110~115)、プリント	D
2		調乳体験	調乳映像視聴などにより衛生的取り扱いの基本技術を習得し、体験レポート①を作成	第3章5a(p.62~68)、プリント 【体験レポート①提出】	E
3		離乳食体験	食べる機能の発達に合わせた離乳食の調理について、市販ベビーフードの試食も交えながら学び、体験レポート②を作成	第3章5b(p.69~73)、プリント 【体験レポート②提出】	GW
4		献立と調理の基本	食の衛生管理、献立の立て方について学ぶ	第6章(p.118~133)、プリント	D
5		食育の基本	食育基本法、食育推進基本計画、保育所における食育の推進について学ぶ	第4章(p.88~107)、プリント	D
6		食育媒体作成	食育媒体の一つとして幼稚園だよりを作成	幼稚園だより作成用紙 【幼稚園だより提出】	E
7		特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	食物アレルギーのビデオ視聴などを通して対応方法の基本を理解し、ビデオ視聴レポートを作成	第7章1(p.136~138)、プリント、動画視聴 【動画視聴レポート提出】	D
8		特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	疾病、障がいを持つ子どもへの対応について学ぶ	第7章2~10(p.139~153)、プリント	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリントを配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業時に使用するため、各自PCを持参すること。

# 子どもの健康と安全

[ Health and Safety for Children ]

中山 貴太

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許選択必修 保育士資格必修	DP2c	No. Cs2c122
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(実技試験 1 回等)40%、レポート課題(1回等)40%、授業中の取り組み(授業内課題に対するディスカッション、グループワーク、実習等)20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	①『教育、保育施設などにおける事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン～施設・事業者向け～』内閣府、文部科学省、厚生労働省 ②『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン (2019)』厚生労働省 ③『保育所における感染症対策ガイドライン (2018)』厚生労働省							
参考文献	『授業で現場で役に立つ!子どもの健康と安全演習ノート』診断と治療社							

**授業概要** 保健的観点に基づく保育の環境整備や援助について理解する。体調不良等に対する適切な対応や関連するガイドラインやデータ等を踏まえ保育における健康および安全管理、感染症対策、保育における保健的対応を具体的に理解する。子どもの健康及び安全管理の実施体制や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について説明できる。
  - ② 技術面 子どもの体調不良等に対する適切な対応方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助や関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理、災害対策、感染症、子どもの発達や状態などに即した対応について具体的に理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	保健的保育環境及び援助	子どもの健康と保育環境など	配布資料を読む	D
2	健康及び安全管理 ①	保育現場における衛生管理、安全管理など	教科書②の p.1-11 を読む	D
3	健康及び安全管理 ②	保育現場における危機管理、災害対策など	居住地域のハザードマップを調べる	G W
4	体調不良等に対する適切な対応①	体調不良や傷害の対応、応急処置など	教科書③p.3-23 を読む	E
5	体調不良等に対する適切な対応②	救急処置、救急蘇生法など	各処置方法の実技試験	E
6	感染症対策	集団発生の予防と罹患後の対応など	教科書①の p 1-26,31-33 を読む	G W
7	保健的対応	3歳児未満への対応、障害のある子どもへの対応など	配布資料を読む	D
8	健康・安全管理の実施体制	職員間、自治体、専門機関との連携、保健活動計画及び評価など	レポート課題「保育者の保健的知識の必要性とその範囲」	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、主体的に取り組む、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 言語表現

[ Expression in Japanese ]

宮川 萬寿美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンバリング No.
2年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs2c142
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法及び基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業中の取り組み（課題に対する発表 30%）、授業内テスト（筆記テスト1回 20%、実技テスト1回 20%）、レポート課題（ポートフォリオの提出 30%）を基本的配分とする総合評価							
教科書	『保育実践に生きる言語表現 ―児童文化財活用のエッセンス―』馬見塚昭久、萌文書林							
参考文献	『おはなしのろうそく 1巻～32巻』（東京子ども図書館） 『語るためのグリム童話 1巻～7巻』小澤俊夫（小峰書店）							

**授業概要** この科目は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」における「保育の内容・方法に関する科目」の1つに位置付けられる。絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリングなど、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得することが主な目的である。授業では、集団を前にしての模擬保育（特に「おはなし」は必ずレポーターを持つ）と相互批評も取り入れ、現場で活かせる実践力を身につけることを目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの生活と遊びを豊かにする児童文化財についての基礎的知識を習得する。
  - ② 技術面 子どもの生活と遊びを豊かにする児童文化財の効果的な技術を身につける。
  - ③ 理念・理解 子どもの生活と遊びを豊かにする児童文化財の意義について理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	A L
1	「言語表現」とは	第1章第1節 子ども自らが児童文化財に親しむ体験 第2節 生き方を考える「言語表現」	教科書第1章を通読し、難解語調べ。	G W
2	児童文化財とは	第2章第1節 子どもと児童文化 第2節 保育と児童文化財	教科書第2章を通読し、難解語調べ。	G W
3	おはなし①	第3章第1節 おはなしとは	教科書第3章1節を通読し、難解語調べ。	G W
4	おはなし②	第3章第2節 おはなしの実際	教科書第3章2節を通読し、難解語調べ。	G W
5	絵本①	第4章第1節 絵本とは、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第4章1節を通読し、難解語調べ。	G W
6	絵本②	第4章第2節 読み聞かせの実際、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第4章2節を通読し、難解語調べ。	G W
7	絵本③	第4章第3節 子どもと絵本、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第4章3節を通読し、難解語調べ。	G W
8	紙芝居①	第5章第1節 紙芝居とは、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第5章1節を通読し、難解語調べ。	G W
9	紙芝居②	第5章第2節 紙芝居の実際、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第5章2節を通読し、難解語調べ。	G W
10	パネルシアター①	第6章第1節 パネルシアターとは、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第6章1節を通読し、難解語調べ。	G W
11	パネルシアター②	第6章第2節 パネルシアターの実際、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第6章2節を通読し、難解語調べ。*絵本の特性を紹介するレポート作成。	G W
12	ペープサート①	第7章第1節 ペープサートとは、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第7章1節を通読し、難解語調べ。	G W
13	ペープサート②	第7章第2節 ペープサートの実際、「おはなし」の実践と相互批評	教科書第7章2節を通読し、難解語調べ。	G W
14	人形劇①	第8章第1節 人形劇とは、模擬保育形式の実践と相互批評（ゲストスピーカー・人形劇の専門家より学ぶ）	教科書第8章1節を通読し、難解語調べ。	G W
15	人形劇②	第8章第2節 人形劇の実際、模擬保育形式の実践と相互批評	教科書第8章2節を通読し、難解語調べ。	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 環境指導法

野津直樹

[ Early Child Care and Education (Environment) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c356
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用含む)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①授業内テスト(小テスト7回)70%、②提出物(模擬保育指導計画)30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『保育内容「環境」』無藤隆・中坪史典・後藤範子編著 大学図書出版							
参考文献	『保育・教職実践演習』横山文樹・駒井美智子編著 大学図書出版 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館							

**授業概要** 本授業は、保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示される5領域の一つ「環境」について十分に学び、理解したことを前提に進めていく。実際に教材研究を行いながら指導計画を作成し、それを模擬保育において実践し、その後、保育の省察を行う。次にまた教材研究→指導計画立案→模擬保育へとつなげる流れを学ぶ。この一連のサイクルを実際に保育現場に出た時に応用できるようなより実践力のある保育者を目指すべく授業を進めていく。

- 学習成果**
- ① 知識面 5領域の一つとしての環境について理解している。
  - ② 技術面 ①の知識を基に教材研究を行い、指導計画を立案することができる。自身が立案した指導計画を他者が見直す中で、修正・加筆、アドバイス等を受け入れることができる。
  - ③ 理念・理解 模擬保育の実践後、それを省察、また次の指導計画立案にいかすことができる。

授業計画		【AL】D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験		A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(予読の章・頁、資料No) *作成課題内容	L
1	環境とは何か	環境(前期科目)で学んだことの総復習 (教科書 ※環境(前期科目)でマーカーを引いた部分を中心。環境(前期科目)を担当していない場合は第6章を中心)	教科書のマーカー部分を中心に読み返す。環境(前期科目)のノートを見直す	GW
2	模擬保育準備 教材研究・指導計画立案	模擬保育の準備、そのための教材研究・指導計画立案 (参考文献『保育・教職実践演習』第7章 ※保育・教職実践演習の指定教科書)	指導計画立案についてこれまで学んできたことを見直す	GW
3	模擬保育	模擬保育の実践	模擬保育のための教材研究、指導計画立案	E
4	模擬保育	模擬保育の実践	模擬保育が終了した学生はその省察、終了していない学生は模擬保育のための教材研究、指導計画立案	E
5	模擬保育	模擬保育の実践	模擬保育が終了した学生はその省察、終了していない学生は模擬保育のための教材研究、指導計画立案	E
6	模擬保育	模擬保育の実践	模擬保育が終了した学生はその省察、終了していない学生は模擬保育のための教材研究、指導計画立案	E
7	模擬保育	模擬保育の実践	模擬保育が終了した学生はその省察、終了していない学生は模擬保育のための教材研究、指導計画立案	E
8	意見交換会	模擬保育終了後の意見交換会 (参考文献『保育・教職実践演習』第7章 ※保育・教職実践演習の指定教科書)	模擬保育終了後の省察	GW

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 健康指導法

上野 奈初美

[ Early Child Care and Education(Health) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリグ No.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c357
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用含む)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業中の取り組み (30%)、課題発表(50%)②レポート課題 指導案の作成(20%)を基本配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携認定こども園教育・保育 要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							
参考文献	『保育内容の指導法』ミネルヴァ書房、適宜プリント配布							

**授業概要** 領域「健康」には、幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うといった観点が示されている。本授業では心身の発達過程にもとづき、身体活動、生活習慣、安全指導の支援のあり方を学ぶ。教材づくり、指導法の構築や評価法までを含める。

**学習成果**

- ① 知識面 領域「健康」に示されたねらい及び内容を理解し、全体構造を把握し説明できる
- ② 技術面 子どもが主体的に運動や遊びに取り組めるための環境づくりや援助法が身につく
- ③ 理念・理解 子どもの健康に関する現代的課題や保育実践の動向を知り、保育を改善する視点が分かる

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、 資料No) *作成課題内容		
1	幼児期の心身の発達	領域「健康」と子どもの身体活動(『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省)	教育要領等を熟読しておく(第1・2章)		P D
2	生活習慣の形成を支える援助	生活習慣に関する教材の活用(絵本や紙芝居等)	配布資料①「健康に関する課題」を熟読		E
3	安全能力を育む援助	健康指導の教材作成	教材作成のための準備		E
4	健康指導の実施	指導案を立案し模擬保育を考える	配布資料②領域「健康指導」のプリントを熟読し指導案の作成		E
5	運動遊びの指導①	模擬保育の実施と評価を行う	模擬保育の準備と環境構成を行う		G W
6	動機づけや意欲などに配慮した援助法	指導案を立案し模擬保育を考える	課題や展開方法などを検討、指導案の下書き		E
7	運動遊びの指導②	模擬保育の実施と評価を行う	模擬保育の準備と環境構成を行う		G W
8	保育実践のまとめと現代的課題	授業の振り返りを行うとともに現代的課題についてディスカッションを行う	発表資料の作成とまとめを行う		P D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示により持参すること。



# 表現指導法

有村 さやか

[ Guidance of Expression for Early Childhood Education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	講義	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c358
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内実技演習(器楽演奏、領域「表現」の内容、音楽遊び計画)30%、手作り楽器制作30%、授業中の取り組み(表現活動計画の立案、実践、振り返り)40%を基本配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省プレーベル館、『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美・有村さやか編著(萌文書林)『保育のためのやさしい子どもの歌』有村さやか他編著(ミネルヴァ書房)							
参考文献	『保育内容「表現」』平田智久他編(ミネルヴァ書房)、『わくわく音遊びで簡単発表会』細田淳子著(すずき出版)							

**授業概要** 本授業は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「保育内容」として認定されている5領域「表現」に関する科目であり、幼稚園教諭免許及び保育士資格取得のための必修科目である。保育者として子どもの表現力をどのように育み、援助すればよいのか実践を通して学ぶ。子どもと豊かに関わり、育ちを支えるために必要な保育者自身の感性とそれを支える表現技術の獲得を目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 領域「表現」を理解し、保育における「表現」に関する保育実践方法についての知識を得る
  - ② 技術面 保育者として自ら表現することを楽しみ、感性や表現方法を身につける
  - ③ 理念・理解 子どもの表現や保育現場での表現活動の支援について理解する

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	領域「表現」について 子どもの表現について	領域「表現」の内容、他領域との関わり 子どもの表現と支援について	2部第1章1-4, 7, 9, (P124-134)		L E
2	表現の教材研究Ⅰ	音と動きの表現の実践① 即興的な表現とリズムについて	2部第3章2 p167,160-163 事後学習: chal.44		E
3	表現の教材研究Ⅱ	音と動きの表現の実践② 視覚的な教材を用いた表現活動	2部第2章 p167,160-163 第3章2 p167,161-163		E
4	表現の教材研究Ⅲ	音と動きの表現の実践③ 様々な素材からの表現活動	2部第3章2p167,64-167 第4章2③-1 p178-182		G W
5	表現の教材研究Ⅳ 表現活動の計画①	音と動きの表現の実践④ 身体的な表現活動 表現活動の計画と立案	2部第4章 p170-172、186 課題: 部分実習指導計画表		G W
6	表現活動の計画②	表現活動計画の立案と実践準備	2部第4章 p170-172、186 課題: 部分実習指導計画表		G W
7	表現活動の実践①	立案した表現活動の実践と振り返り	2部第4章 p170-172、186 課題: 部分実習指導計画表		P
8	表現活動の実践② 表現活動における課題	立案した表現活動の実践とその振り返り 表現活動における課題	2部第4章 p170-172、186 提出課題: 振り返りシート		P

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

保育・二年生

# 言葉指導法

小倉直子

[ Early Child Care and Education (Language) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c359
教職課程科目区分 含める必要事項		「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト7回)35%、②授業中の取り組み(毎回授業終了時の課題とミニレポート)40%、③レポート課題(期末レポート)25%を基本的配分とする総合評価。							
教科書	『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』 馬見塚昭久・小倉直子編著、ミネルヴァ書房							
参考文献	『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社							

## 授業概要

言葉は、日常生活で必要不可欠なコミュニケーション手段の一つであると同時に、思考や想像の手段でもある。子どもは乳児期の言葉以前の交流や信頼関係を基礎に、大人や友達とのかかわりの中で言葉を獲得していき、言葉を使うことでコミュニケーションも更なる進化を遂げていく。

言葉指導法では、保育内容の指導法として、言葉という人間のもつ文化の豊かさを保育者がどのようにはぐくんでいけるかを学ぶ。

## 学習成果

- ① 知識面 乳幼児の言葉(コミュニケーション)の発達のプロセスについて説明できるようになる。
- ② 技術面 さまざまな絵本や児童文化財に触れ、豊かな文化を醸成する力量を身に付ける。
- ③ 理念・理解 子どもの言葉を受け止め、保育実践の中で言葉をはぐくむ方法とその留意点を理解する。

## 授業計画

【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L G W
1	領域「言葉」とは	領域の考え方や言葉の育ちについて、領域「言葉」のねらいと内容について学ぶ。	(第9章) 「領域『言葉』について」	G W
2	子どもの発達と言葉	誕生から就学前までの子どもの発達を、新しいコミュニケーション手段を獲得していくという視点から学ぶ。	小テスト① (第10章)「コミュニケーションとは」	G W
3	前言語期のコミュニケーションと保育	乳児期の、前言語期のコミュニケーションとその時期の保育について、実例をもとに学び、指導案を作成する。	小テスト② (第11章)「乳児期のコミュニケーションを育てる指導案」	G W
4	話し言葉の機能と発達	幼児期の、言葉によるコミュニケーションとその時期の保育について、実例をもとに学び、指導案を作成する。	小テスト③ (第12章)「幼児期の言葉を育てる指導案」	G W
5	書き言葉の発達と保育	5, 6歳ごろに新しいコミュニケーション手段として獲得される書き言葉の発達とその時期の保育について、実例をもとに学び、指導案を作成する。	小テスト④ (第13章)「文字の機能を遊びの中でいかす指導案」	G W
6	言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援	言葉の遅れや言語障害、母語が日本語ではない子どもへの関わりと保護者への支援について学び、指導案を作成する。	小テスト⑤ (第16章)「言葉に関する支援が必要な子どもを対象とした指導案」	G W
7	現代社会と言葉	現代社会における、言葉を育む環境の変化とメディアとの付き合い方について学び、指導案を作成する。 模擬保育準備。	小テスト⑥ (第16章)「模擬保育の準備」	G W
8	模擬保育	模擬保育の実践と振り返り	小テスト⑦ 「模擬保育の振り返り」	G W

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従って持参すること。

# 人間関係指導法

竹内 あゆみ

[ Early Child Care and Education(Human Relations) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c360
教職課程科目区分 含める必要事項		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①事例検討 20%、②部分実習指導案 30%・最終レポート課題 30%、③授業中の取り組み(振り返り・感想記入 20%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『事例で学ぶ 人間関係』無藤隆著 萌文書林							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省・フレーベル館、『保育所保育指針解説書』厚生労働省・フレーベル館、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							

**授業概要** 本科目は、1年次に学習した領域「人間関係」の保育内容を踏まえ、実際の保育における配慮点や具体的な実践方法について検討する。また、振り返りや実習等での体験を通して得た気づきを活かし、かかわりをねらいとした遊びの指導計画を立案し、実践する。自分自身の体験を踏まえた計画の立案から実践、評価、改善へとつなげ、保育現場における具体的な指導の流れを理解できるようになることを目指す。

**学習成果**

- ① 知識面 領域「人間関係」の保育内容理論に基づいた保育実践方法に関する知識を得る。
- ② 技術面 「人間関係」に関する保育内容について多様な観点から検討し、計画、実践、評価方法を理解する。
- ③ 理念・理解 遊びの発達段階を理解し、指導計画が作成できる。

授業計画		【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	領域「人間関係」の実践に向けて	1年次の学びを復習する、遊びを通じた総合的な指導の重要性について	1年次に使用した教科書の内容を復習する		
2	遊びの中での関わり(乳児、1~3歳未満)	遊びの発達段階を理解する、園での遊びにおけるかかわりの事例研究	※授業内で指示する		G W
3	遊びの中での関わり(3歳以上)	園での遊びにおけるかかわりの事例研究	※授業内で指示する		G W
4	保育の展開と指導計画①	保育現場における「かかわり」をねらいとした遊び①グループワークを通して遊びを考え、指導案を作成する	※授業終了後、部分実習指導案を立案する。		G W
5	保育の展開と指導計画②	保育現場における「かかわり」をねらいとした遊び②考えた遊びを実践する	※授業内で指示する		E
6	保育の展開と指導計画③	保育現場における「かかわり」をねらいとした遊び③考えた遊びを実践する	※授業内で指示する		E
7	模擬保育実践まとめ	保育現場における「かかわり」をねらいとした遊び③振り返りを行い、実習への課題を見出す	※授業内で指示する		E
8	小学校との連携、全体総括	小学校生活との連携について、全体まとめ	*課題：最終レポート		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。  
授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 乳児保育Ⅱ

[ Nursery-School Teacher ]

神 蔵 幸 子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリングNo.
2年生	前期	講義	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択必修	DP2c	No. Cs2c168
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。レポート課題(2回)20%、各回の授業の省察(指定用紙)30%、 期末試験40%、授業中の取り組み(授業態度、発言等)10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『やさしい乳児保育』神蔵幸子・金允貞編(2020第11版)青踏社							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育 解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館							

**授業概要** 「乳児保育Ⅰ」で学んだ基礎理論を確認しながら、0,1,2歳児の生活全般について必要な保育技術を学んでいく。この時期の子どもの発達が目覚ましく、保育者としての対応にも柔軟性が求められる。グループディスカッション、グループワーク等で保育内容を具体的に想定し、ロールプレイなどにより、乳児保育の実践力を培っていく。

- 学習成果**
- ① 知識面 乳児の発達・生活に関する基礎知識を理解し、確実なものにする。
  - ② 技術面 乳児保育の知識や技術を実践に活かす力を身に付ける。
  - ③ 理念・理解 保育方法を工夫する力を習得し、乳児保育の在り方を理解する。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		L
1	乳児保育の基本	乳幼児の発達・発達の過程を踏まえ援助や関わりの基本的な考え方を理解する。	第1章		D
2	保育園における乳児保育	一日の生活の流れで考える生活・遊びと環境構成	第2章 *提出課題:第2章演習		D
3	生活と遊びの実際と援助(1)	1歳未満児の発達、生活と遊びの援助	第3章 第3章演習課題		G W
4	生活と遊びの実際と援助(2)	1歳児の発達、生活と遊びの援助	第4章		G W
5	生活と遊びの実際と援助(3)	2歳の発達、生活と遊びの援助	第5章		G W
6	乳児保育における配慮と実際(1)	乳児保育の環境(DVD視聴による演習)	第6章		D
7	乳児保育における配慮と実際(2)	乳児保育の計画と連携	第8章 *提出課題:第8章演習		G W
8	乳児保育の未来	乳児保育の使命・乳児保育を担う専門性 まとめの試験と解説	第11章		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。各回の省察記録にはコメントを付けて返却する。テスト・課題等に関しては授業内でフィードバックをする。

# 身体表現Ⅱ

[ Physical Education of Infant II ]

中山 貴太

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs2c140
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内テスト(筆記試験3回等)30%、レポート課題(内容を記載2回等)25%、期末試験 40%、授業中の取り組み(プレゼンテーション等)5%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、 『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							
参考文献	表現指導演法 ―感性を育て表現の世界を拓く― 萌文書林							

**授業概要** 子どもの身体運動に関する基礎的な知識を理解するとともに、自らの身体表現力を高めることをねらいとする。教材研究や模擬保育などの実践を通して、子どもの経験や保育の環境を様々な表現活動に結び付けたり、遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得できるようにする。さらに、保育者として安全な援助法(指導演法)についても考究する。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの身体表現(運動遊び)に関しての基礎的知識が理解できる
  - ② 技術面 運動技術の正しい援助法(指導演法)が身につく
  - ③ 理念・理解 身体表現の面白さ、楽しさの創出などについて説明できる

<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1	子どもの発達について	領域「表現」と子どもの身体表現(『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省)	(1.第2章5) p214-217 領域「表現」を読む	D
2	身近なモノを使う遊び	新聞紙、風船、手作りおもちゃ等を使った遊びの指導演法	配布プリントを読む	P E
3	鬼遊びとゲーム	鬼遊びの指導演法とゲームのアレンジ法について学ぶ	遊び方やルールについて確認しておく	E
4	移動遊具を使う遊び	ボール、フープ、ロープ等を用いた遊びの創作と指導演法	移動遊具の種類と遊び方の事例をレポートにまとめる	E
5	固定遊具を使う遊び	サーキット遊びの考案と実施	固定遊具の種類と遊び方の事例をレポートにまとめる	G W
6	教材研究①	季節の身体表現を考え指導演法の作成、実施、評価	指導演法作成と実施の準備	G W
7	教材研究②	行事に応じた身体表現を考え指導演法の作成、実施、評価	指導演法作成と実施の準備	G W
8	身体表現の指導と援助法について	身体表現における保育者の援助について考究する	振り返りシートの記入と発表	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 社会的養護Ⅱ

[ Theory of Out-of-Home CareⅡ ]

上野文枝

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択必修	DP2c	No. Cs2c126
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内提出課題 40%、復習小テスト 30%、総括レポート 30%							
教科書	『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅱ』吉田眞理著 萌文書林							
参考文献	『社会的養護Ⅰ』吉田眞理著 萌文書林、『社会的養護児童のアセスメント』増沢高 明石書店、『「家族」をつくる 養育里親という生き方』村木和木 中央公論新社、『里子・里親という家族 ファミリーホームで生きる子供たち』吉田菜穂子 大空社 『子どものトラウマ』西澤哲 講談社							

## 授業概要

社会的養護Ⅰにおける学びを踏まえ、社会的養護における日常生活支援、治療的支援、自立支援について具体的に理解する。施設養護と家庭養護について、それぞれの生活特性と実際について理解する。支援計画、記録、自己評価の実際、相談援助の方法と技術を学ぶとともに、要保護児童における虐待の防止と家族支援、被虐待児や障害児のケアや自立支援について具体的に理解する。  
演習科目であり、相互に学び合い理解を深めることを期待するため、積極的な授業参加を求める。

## 学習成果

- ① 知識面 施設養護、家庭養護についてそれぞれの養育形態や施設の体系を理解し、説明できる。
- ② 技術面 事例から子どもの背景や現状をアセスメントし、支援方法を導き出すことができる。
- ③ 理念・理解 社会的養護における権利擁護に基づいた支援について理解し、具体的に説明できる。

## 授業計画

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	子ども理解と子どもの権利擁護	子どもの権利条約を基礎とした子どもの権利と権利擁護の意味を理解する。 自立支援計画、記録、自己評価について学ぶ。	テキスト第1章I §1~3 (p10~44) *課題の提示、復習小テスト	D
2	子どもの権利擁護の仕組みと保育士等の専門性	子どもの権利を守る仕組みについて理解する。 支援者としての資質と倫理、バーンアウトや共依存について学ぶ。	テキスト第1章I §4~第2章II §1~2 (p45~69) *課題の提示、復習小テスト	GW
3	社会的養護の実際① 児童養護の体系と概要、養護施設	児童養護の体系と概要について理解する。 児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設の利用児の特徴と日常生活支援について学ぶ。	テキスト第2章I~II §2 (p72~97) *課題の提示、復習小テスト	GW
4	社会的養護の実際② 医療型障害児入所施設・行動適応障害系施設	医療型障害児入所施設(重症心身障害児、肢体不自由児等)における利用児の特徴と日常生活支援について学ぶ。 児童自立支援施設・児童心理治療施設について学ぶ。	テキスト第2章II §3~4 (p98~123) *課題の提示、復習小テスト	GW
5	社会的養護の実際③ 福祉型障害児入所施設、里親制度	①福祉型障害児入所施設(知的障害児、自閉症児、盲聾唼児)における利用児の特徴と日常生活支援について学ぶ。 ②里親制度と里親養育の実際	テキスト第2章II §5~6 (p124~141) *課題の提示、復習小テスト	GW
6	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践①	被虐待児に対する心の傷を癒し、心を育むための援助について、学ぶ。 親子関係調整について、児童相談所との連携や家族支援について学ぶ。	テキスト第3章I~II (p144~189) *課題の提示、復習小テスト *レポート課題の提示	GW
7	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践②	相談援助の知識・技術を踏まえ、入所から退所までの支援と基本的な日常生活支援について、事例を通して実践的に学ぶ。	テキスト第3章III (p190~223) *課題の提示、復習小テスト	GW
8	社会的養護の課題と展望	施設の小規模化と地域連携について理解する。 地域住民と施設や里親との関係について理解する。 今後の社会的養護のあり方について、現状を踏まえて考察する。	テキスト第4章(p226~247) *レポート提出、復習小テスト	GW

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」としてテキストをよく読んでおくこと。授業後には復習をし、復習小テストをすること。提出課題・質問等に関して授業内またはClassroomにてフィードバックをする。  
\*PCの使用については授業内で指示する。

# 子ども家庭支援論

武山美子

[ Theory of Child and Family Support ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修	DP2c	No. Cs2c129
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内小テスト(筆記試験)40%、レポート課題(2回)30%、演習課題 30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』吉田眞理著 萌文書林							
参考文献	『児童の参画』ロジャー・ハート 萌文社 『子育て支援 はじめの一步』新澤誠治 小学館 『家庭と結婚の歴史』関口裕子他 森話社 『子育て支援とNPO』原田正文 朱鷺書房							

**授業概要** 家庭や地域の子育て機能が低下する中で、保育所等の児童福祉施設には、地域で子育てをしている家庭への支援が求められている。この授業では、家庭の機能の変化や現状、社会的背景、関連分野の実践、法体系、子育て支援サービスについて学習し、実際に家庭支援に取り組む際に役立つ、多角的且つ具体的な方法と考え方について、事例を活用しながら習得する。

- 学習成果**
- ① 知識面 家庭と家族の在り方について説明できるようになる。
  - ② 技術面 保護者との関係づくりや相談に応じるときの基本的態度を身につける。
  - ③ 理念・理解 子育て家庭を支援するための社会資源について理解する。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (教科書の章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	子ども家庭支援の意義と必要性	第1章(1)を学び、子どもが育つ場としての家庭の在り方とそれを支援する意義について理解する。	第1章(1)を熟読して参加演習1	A	L
2	子ども家庭支援の目的と機能	第1章(2)を学び、家庭支援の目的と機能について理解する。	第1章(2)を熟読して参加演習2・3	D	
3	子どもの発達と家族	第2章を学び、子どもの発達に応じた家族や家庭の在り方について理解する	第2章を熟読して参加事例検討	D	
4	保育の専門性と子ども家庭支援	第3章(1)を学び、保育士としての家庭支援の強みについて理解する。	第3章(1)を熟読して参加演習1・2・3	G	W
5	子どもの育ちの喜びの共有	第3章(2)を学び、保護者の相談や保護者との関係づくりにおいて重要な態度について理解する。	第3章(2)を熟読して参加演習4・5・6 *小テスト	A	L
6	保護者や地域の子育ての力	第3章(3)を学び、保護者の子育てする力や地域が子育て支援をする力を育むための考え方を理解する。	第3章(3)を熟読して参加演習7・8	A	L
7	保育士に求められる基本的態度	第3章(4)からバイステックの原則を学び、保護者の相談に応じるときの基本的態度を理解する。	第3章(4)を熟読して参加する。演習9・10・11	E	
8	家族の状況に応じた支援	第3章(5)を学び、家庭機能を念頭に置いたアセスメントから始める相談支援の考え方を理解する。	第3章(5)を熟読して参加演習14・15	A	L
9	地域の資源の活用と連携・協力	第3章(6)から多様な地域資源や自治体・関係機関について学び、連携や協力の方法を理解する。	第3章(6)を熟読して参加演習16 *レポート課題	A	L
10	子育て家庭のための社会資源	第4章(1)を学び、家庭が子育てに行き詰ったときに利用できる社会資源を理解する。	第4章(1)を熟読して参加演習1	G	W
11	子育て支援施策	第4章(2)を学び、行政の行っている子育て支援の根幹となる法律や施策を理解する。	第4章(2)を熟読して参加演習2 *小テスト	A	L
12	次世代育成支援施策の推進	第4章(3)を学び、次世代育成に関わる施策と男女共同参画の動向を理解する。	第4章(3)(4)を熟読して参加事例検討	D	
13	多様な支援展開と関係機関の連携	第5章(1)を学び、現在展開されている多様な子育て支援と連携の重要性を理解する。	第5章(1)を熟読して参加事例検討	P	
14	保育所を利用する子どもの家庭、地域の子育て家庭への支援	第5章(2)(3)を学び、保育所の利用者や保育所を利用していない保護者の子育て支援について理解する。	第5章(2)(3)を熟読して参加演習1 *小テスト	G	W
15	要保護児童等及びその家族に対する支援	第5章(4)を学び、貧困家庭や虐待が疑われる家庭、障害児を育てる家庭や外国につながる家庭への支援について理解する。	第5章(4)を熟読して参加演習2 *レポート課題	P	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「演習課題」に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組むこと。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い特参すること。

# 教育の方法と技術

田 畑 忍

[ Educational Theory and Method ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
2年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目	保育士資格選択 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c261
教職課程科目区分 含める必要事項		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)						
成績評価 方法と基準	授業でのグループ学習…55%、レポート課題…10%、振り返りシート…15%、デジタル教材(作品)…20%を基本配分として総合的に評価します。							
教科書	授業中にプリントを配布します。							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省・フレーベル館、『保育所保育指針解説』厚生労働省・フレーベル館『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・フレーベル館、『小学校学習指導要領解説』文部科学省							

**授業概要** 本授業では、子どもたちの主体的な学びを導くための教育方法と技術について、まずはその歴史的概観や基本原理を学び、実践的な教育現場における教材の研究を含めた授業のデザイン、評価の問題を考えるとともに、より良い学びを成立させるための仕組みや条件を探究します。また、ICT活用能力を高め、教育場でパソコンなどを効果的に活用した教育計画、教材の開発、授業評価に関わる知識と技術を習得し、教育実践の中で有効な道具として生かし、活用していく能力を学習します。

- 学習成果**
- ① 知識面 個人差に対応する指導方法、デジタルシティズンシップ教育、効果的な発問や指示の方法などを理解する。
  - ② 技術面 ICT を効果的に活用してデジタル教材を作成したり、身の回りにあるものを利用しておもちゃを作成したりできる。
  - ③ 理念・理解 教育の方法や技術に関するさまざまな見方や考え方を理解し、それらを説明できる。

<b>授業計画</b>		【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験					A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(併読の章・頁、資料No) *作成課題内容				
1	教育方法・技術に関わる諸概念	授業の目標や授業の進め方などについて確認します。また、グループ(チーム)で考えるメリットについても考えます。	グループワークのイメージについて考えてくること。			G W	
2	教育方法の理論と歴史	より良い指導を行うための方法などについて学習します。また、幼小連携についても考えます。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
3	カリキュラムの構造と類型	幼稚園教育要領の変遷などを確認し、保育の5領域と10の姿などについても考えます。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
4	授業における教師の役割と指導技術	画用紙などを利用したおもちゃの一例を確認します。また、新聞紙などを利用したあそびについても考えます。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
5	教授組織と学習組織の諸形態	コミュニケーション能力を育む方法について学習します。また、ロールプレイについてグループで検討します。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
6	授業の設計・実施・評価	グループで検討したロールプレイを発表し、相互評価を行います。	検討したロールプレイを発表できるように準備しておくこと。			P E	
7	教育における評価	ロールプレイを振り返り、評価を次の指導に活かす方法などについて考えます。	発表したロールプレイについて各自で振り返っておくこと。			G W	
8	教育メディアとその活用	教育メディアを効果的に活用した指導の方法について学習します。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
9	教師の発問と説明について	子どもたちの声を聴き、考えを深めさせる一方法としてのファシリテーションについて学習します。	事前配布した資料を読み、指示した動画も確認しておくこと。			G W	
10	コンピュータ技術と教育へ	デジタルシティズンシップ教育について学習します。また、動画を使った指導についても考えます。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
11	学校におけるICT環境	教育現場におけるICT環境について学習します。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
12	ICTを活用した授業デザインと教師の役割	デジタルメディア時代に求められる保育者の役割などについて考えます。	事前配布した資料を読んでおくこと。			G W	
13	授業実践能力の改善と向上①	デジタル教材(作品:デジタル紙芝居)を作成するための方法について学習します。	事前に指示した課題について検討しておくこと。			E	
14	授業実践能力の改善と向上②	デジタル教材を作成します。また、途中経過などをグループ内で発表します。	作成するデジタル教材の内容を検討しておくこと。また、必要に応じて補助動画を確認しておくこと。			E G W	
15	教育方法の技術と課題とまとめ	作成したデジタル教材を利用して、代表者による模擬授業を行います。また、相互評価を行います。	デジタル教材を発表できるように準備しておくこと。			P E	

**備考** 各授業の前に「準備学習」内容の予習をしてください。また、授業後は「振り返りシート」などで各回の学習内容を復習してください。レポート課題とデジタル教材(作品)については、授業内でフィードバックを行うため、指示する回までに作成し、提出してください。個人・ペア・グループでのワークが多い授業ですので、積極的に参加してください。分かりにくいところがあれば、積極的に質問してください。



# 教育相談

[ Educational Consultation ]

杉 崎 雅 子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	前期	講義	1単位	選択	専門科目	保育士資格選択 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c262
教職課程科目区分 含める必要事項		生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
実務経験との関連性		公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教員が、保育所・幼稚園巡回相談の実務経験から、相談活動の実際について指導する。						
成績評価 方法及び基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①まとめの試験 55%、②レポート課題(授業内ワークシート) 35%、③授業中の取り組み(カウンセリング技法・ロールプレイ実技演習)10%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『スギ先生と学ぶ 教育相談のきほん』杉崎雅子著 萌文書林							
参考文献	『親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック』清水裕・阿部裕子著 学事出版							

**授業概要** 教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身につける。

**学習成果**

- ① 知識面 教育相談に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を習得する。
- ② 技術面 教育相談の具体的な進め方、応答の技術を身につける。
- ③ 理念・理解 教育相談の意義と理論、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

<b>授業計画</b>		D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容			
1	教育相談とは	その意義を知り自己理解を深める	第1章 *ワークシート課題「自己分析をする」			
2	子ども理解	子どもの行動をどう理解するかを学ぶ	第2章 *ワークシート課題「事例検討」		D	
3	カウンセリング①	来談者中心療法(カウンセリングマインド)について理解する	第4章、第5章 *ワークシート課題「体験振り返り」		E	
4	カウンセリング②	カウンセリング技法を学ぶ	第6章 *ワークシート課題「体験振り返り」		E	
5	保護者理解と支援	保護者支援の視点をもつ	第3章 *ワークシート課題「事例検討」		D	
6	教育相談体制	園内の教育相談体制について知る	第8章 *ワークシート課題「事例検討会振り返り」		GW	
7	専門機関等との連携	外部相談機関等との連携について知る	第9章 *ワークシート課題「幼小連携を考える」			
8	保育者のストレス	特に保育者が感じるストレスについて知る これまでのまとめと振り返り	まとめの試験			

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 幼児理解の理論と方法

間野 百子

[ Theory and Method of Understanding Young Children ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c363
教職課程科目区分 含める必要事項		「教職に関する科目」(生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目) 幼児理解の理論及び方法						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内テスト(筆記試験、30%)、レポート課題の執筆(1回、30%)、レポート課題の発表(1回、30%)、授業中の取り組み(コメントシートの提出等、10%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	汐見俊幸・無藤隆『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』(2018) ミネルヴァ書房							
参考文献	高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 (2019)『子ども理解と援助』ミネルヴァ書房 大宮勇雄 (2010)『学びの物語の保育実践』ひとなる書房 中坪史典編 (2018)『子ども理解のメソドロジー』ナカニシヤ出版							

**授業概要** この教科は、保育士資格、ならびに幼稚園教諭2種免許取得のための必修科目である。幼児期の発達の特徴や学びの理論を踏まえたうえで、子どもの主体性を育む支援のあり方を学ぶ。具体的には、「フィールドワーク」や「ラーニング・ストーリー」など、子どもの発達理論、子ども観察の方法などの理解を深めていく。

- 学習成果**
- ① 知識面 幼児理解の視点から、幼児の発達や学びに関する教育理論、発達の過程に必要な援助を導き出すうえでの基礎的な知識を習得する。
  - ② 技術面 子どもの生活や遊び場面における、子ども観察の方法や記録の取り方について学び、子どもの発達を多面的に捉えることができるようになる。
  - ③ 理念・理解 子どもの主体性を育む保育・教育者の役割についての理解を深める。

<b>授業計画</b>		【AL】D:ディカッション・ディバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容			
1	幼児期の発達の特徴	幼児期の発達の特徴を捉えたうえで、幼児の行動様式や心情理解を深める。	※幼児期に育みたい資質について考えておく(第II部第1章)。		D	
2	幼児理解の理論と方法①「フィールドワーク」	幼児理解の方法論として、「フィールドワーク」の基礎的理論とその方法について学ぶ。	※視聴した映像を通して幼児を取り巻く遊び環境に関する課題を抽出・検討する(pp.346-347;pp.437-441)。		G W	
3	幼児理解を深める観察と記録・整理	フィールド先における、参与観察の仕方、記録の取り方、まとめ方について学ぶ。	※フィールドワークの目的・場所について検討しておく。資料配布		D	
4	フィールド案の検討	自らの問題意識をもとに、フィールドワークの案について作成・検討する。	※幼児期における自らの遊び・学び体験についてまとめる。		G W	
5	幼児理解の理論と方法②「ラーニング・ストーリー」	子どもの主体性を育む保育・教育実践と理論について学ぶ。	実習時のエピソードについて振り返りを行う(pp.360-365)。		D	
6	「ラーニング・ストーリー」の依拠する理論	ラーニング・ストーリーの実践例と子どもの発達理論について理解する。	※エピソードをラーニング・ストーリーの視点をもとに再検討する。資料配布		G W	
7	カウンセリングマイインド	受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について事例を通じて学ぶ。	※課題レポート案を構想する。		D	
8	幼児理解の深め方について	自らの実習体験をもとに、子どもの主体性を育む実践例を考案・検討する。レポートの発表・検討会を実施する。授業内テスト	他者の発表を通して知見を深める。		P	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 特別支援教育・保育概論

小倉直子

[ Special Needs Education and Child Care ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP2c	No. Cs2c370
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
実務経験との関連性		臨床心理士として教育・療育現場での実務、保育所・幼稚園巡回の実務経験を持つ教員が、特別支援教育・障害児保育の実際について講義する。						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内テスト(小テスト7回)35%、②授業中の取り組み(毎回授業終了時のミニレポート)40%、③レポート課題(期末レポート)25%を基本的配分とする総合評価。							
教科書	『保育者のためのテキスト 障害児保育』 近藤直子、白石正久、中村尚子 編著 全障研出版部 2013、ほか、必要に応じ資料を配布する。							
参考文献	『保育する力』吉田眞理監修 ミネルヴァ書房、『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社							

**授業概要** 特別な支援を必要とする子どもが排除されることなく、ともに生活し、ともに遊び、ともに学んでいくインクルーシブ保育・教育の実現のために、外部の専門機関との連携、家族への支援、小学校との連携など、実践的に取り組むための支援方法を学ぶ。

**学習成果**

- ① 知識面 障害や多言語環境、保育の中のジェンダー等、特別な教育・保育ニーズについて知識を得る。
- ② 技術面 配慮や支援が必要な具体的な場面について、その支援方法を身に付ける。
- ③ 理念・理解 インクルーシブの理念、特別支援教育について理解する。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (課外の章・頁、資料No) *作成課題内容		L
1	特別支援教育とは	インクルーシブ保育・教育の概念について 障害乳幼児施策について グループワーク①:初めての障害児保育	(第4章Ⅲp.160-176) 「初めての障害児保育」	G	W
2	特別な支援が必要な子どもの指導① ADHD	保育所における障害児保育の現状と課題 グループワーク②:落ち着きがない子の保育	小テスト① (第4章Ⅱp.144-159) 「落ち着きがない子どもへの支援」	G	W
3	特別な支援が必要な子どもの指導② ASD	児童発達支援に関する社会資源 グループワーク③:集団活動にのりにくい子の保育	小テスト② (第4章Ⅰp.135-143) 「集団生活に乗りにくい子どもへの支援」	G	W
4	特別な支援における連携について① 就学後の支援	小学校等との連携、就学後の支援について グループワーク④:就学後の特別支援教育	小テスト③ (第6章p.201-221) 「特別支援教育における支援」	G	W
5	特別な支援における連携について② 保護者への支援	保護者への支援について グループワーク⑤:ダウン症の子どもへの支援	小テスト④ (第5章Ⅰp.177-187) 「ダウン症の子どもへの支援」	G	W
6	特別な支援が必要な子どもの指導⑤ きょうだいの支援	障害児のきょうだいへの支援について グループワーク⑥:自閉症の子どもへの支援 【レポート課題提示】	小テスト⑤、 (第5章Ⅱp.188-200) 「自閉症の子どもへの支援」	G	W
7	特別な支援が必要な子どもの指導⑥ 外国にルーツのある子ども	外国にルーツのある子どもとその家族への支援、異文化の交流と多様性について グループワーク⑦:外国にルーツのある子の保育	小テスト⑥ (外国にルーツのある子どもと家族への支援)	G	W
8	特別な支援が必要な子どもの指導⑦ 保育の中のジェンダー	LGBTQの基礎知識と保育の中のジェンダーについて グループワーク⑧:保育の中のジェンダー	小テスト⑦ (保育の中のジェンダー)	G	W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 子育て支援

上野文枝

[ Parenting Support ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリング No.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許選択必修	DP2c	No. Cs2c171
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内提出課題40%、復習発展課題30%、総括レポート30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『生活事例からはじめる子育て支援』吉田眞理著 萌文書林							
参考文献	『日常の保育を基盤とした子育て支援—子どもの最善の利益を守るために』長島和代、他著、萌文書林							

**授業概要** 保育士に求められる子育て支援について、保護者や地域への対応を中心に知識と技術を学ぶ。ソーシャルワークの知識を得た上で、実践的な対応技術を身に付ける。保育士として必要なケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについて、具体的な事例を通して学び、支援方法の活用について実践力を付ける。

- 学習成果**
- ① 知識面 子育て支援におけるソーシャルワークの知識を得、説明できる。
  - ② 技術面 保護者支援、グループ活動、地域の子育て支援などの事例について、保育士の視点からニーズを明らかにし、支援方法を説明できる。
  - ③ 理念・理解 子育てにおける保護者や地域社会の課題と支援方法を理解し、保育士の具体的な役割について説明できるようになる。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			AL
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	保育士の行う子育て支援の特性	子どもの保育とともに行う保護者の支援 日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成とニーズ把握	テキスト第1章 (p9~26) *ワークシートの提出、復習テスト	D GW	
2	保育士の行う子育て支援の展開①	子ども及び保護者の状況・状態の把握 支援計画と環境の構成 支援の実践と記録	テキスト第2章 (p28~45) *授業課題の提示/第1講復習テスト、復習テスト	D GW	
3	保育士の行う子育て支援の展開②	評価の意義と方法 カンファレンスの目的、内容、方法 職員間の連携・協働	テキスト第2章 (p45~63) *ワークシートの提出、復習テスト	D DW	
4	保育士の行う子育て支援の内容と方法①	保育所等における支援 地域の子育て家庭に対する支援 地域を舞台とした子育て支援	テキスト第3章 (p66~81) *ワークシートの提出、復習テスト	D DW	
5	保育士の行う子育て支援の内容と方法②	障害のある子どもおよびその家族に対する支援 特別な配慮を要する子どもおよびその家族に対する支援	テキスト第3章 (p82~94) *ワークシートの提出、復習テスト	D DW	
6	保育士の行う子育て支援の内容と方法③	子ども虐待の予防と対応 要保護児童等の家庭に対する支援	テキスト第3章 (p94~104) *ワークシートの提出、復習テスト *総括レポート課題の提示	D GW	
7	保育士の行う子育て支援の内容と方法④	多様なニーズを抱える子育て家庭の理解 個々のニーズに合わせた支援、多様化する子育て支援	テキスト第3章 (p104~112) *ワークシートの提出、復習テスト	D GW	
8	保育士の行う子育て支援の技術	グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアクション、社会福祉調査	テキスト第4章(p114~131) *ワークシートの提出、復習テスト *総括レポート課題の提出	D GW	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習(テキストの所定の箇所をよく読み、事例について支援方法を考えておく)をし、授業後には復習テストをすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題・質問等に関して授業内またはClassroomにてフィードバックをする。\*PCの使用については授業内で指示する。

# 教育社会学

[ Educational Sociology ]

間野 百子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	デパートNo.	ナパリング No.
2年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	保育士資格選択 幼稚園2種免許選択	DP2c	No. Cs2c146
教職課程科目区分 含める必要事項		教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）						
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 課題レポートの発表 30%、レポート 30%、授業内テスト 40%を基本的配分とする総合評価							
教科書	「半径5メートルからの教育社会学」片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編 大槻書店 2017							
参考文献	「新しい時代の教育社会学」（シリーズ現代の教職）加野芳正・越智康司著 ミネルヴァ書房 2012							

**授業概要** 教育を社会現象として捉え、人間の成長・発達過程に影響を与える、教育・社会環境について、教育改革の動向、多様化・複雑化する様々な教育課題への支援の在り方などの観点から実証的に検討していく。新聞やテレビ、インターネット、雑誌などで報道される教育に関する記事やニュースに関心を持ち、収集しておくことが望ましい。

**学習成果**

- ① 知識面 子ども・若者を取り巻く、教育・社会環境の変化についての学びを深める。
- ② 技術面 学校生活における様々な教育的課題に対する支援のあり方について理解し、説明できる。
- ③ 理念・理解 青少年が「学校から社会へ」と成長していく過程で遭遇しうる社会的・教育的課題に対処するために展開されている様々な学びの機会について理解できる。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・デパート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	L	
1	教育の目的と役割	教育と社会の関係について、事例に基づき概説する。	※子どもの貧困に関するデータを収集しておく (テキスト第5章-1)	D	
2	教育と家庭環境	子どもの貧困と文化的再生産	※学歴社会の弊害について調べておく (テキスト第3章-2)	GW	
3	教育の機会均等	高学歴社会における学習機会・体験の格差	※フリースクールについて調べておく (テキスト第6章-1, 2)	D	
4	学校を巡る課題①	不登校児童・生徒の増加現象と学校外での学び	※少年非行に至る要因について考えておく (テキスト第12章-1)	GW	
5	学校を巡る課題②	困難を抱える少年の立ち直り支援	※識字教育の意味について調べておく	GW	
6	教育と社会環境	基礎教育とは何か一国の内外における識字教育の取り組み	※自らの関心課題についての資料を取集しておく	GW	
7	教育と地域社会	様々な教育課題に抗する地域社会における実践	※課題レポートを作成する	D	
8	教育と社会	教育と社会の関係についての課題レポートの発表・意見交換会の実施、授業内テスト	他者の発表を通して知見を深める	P	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。  
授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 保育実習指導 I B

上野文枝 小倉直子 武山美子

[ Guidance of Practical Training in Nursery I B ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格必修	DP3c	No. Cs2c173
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 提出物 60%、授業内活動記録 20%、小テスト 10%、取り組み姿勢(グループワーク、発表態度、身だしなみ等) 10%							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学							
参考文献	『社会的養護 I』『社会的養護 II』吉田真理編著、萌文書林 『施設実習ガイド』駒井美智子編著、萌文書林							

**授業概要** 実習を円滑に進めていくための知識・技術の習得、実習体験を深化させるための基礎的学習を行う。保育実習 I (保育所) の振り返りを行い、実習事前学習として自己の課題を明確にし、実習計画を立てる。保育実習 I (施設) に向けた準備と振り返り (実習体験報告会まで) を行い、保育士としての知識と技術を身につける。施設における実習を通して自己課題を明らかにする。

**学習成果 (前期)**

- ① 知識面 保育実習 I (施設) の意義・目的を踏まえ、配属施設について説明できる。
- ② 技術面 配属施設における実習内容を理解し、実習計画を立てることができる。
- ③ 理念・理解 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、記録物として表せる。実習生として指導された言動や身だしなみができている。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィードバック、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (予習の章・頁、資料 No) *作成課題内容		
1	保育実習 I (保育所) を振り返る	オリエンテーション: 授業予定と進め方について保育所実習の振り返り、日誌の点検を行う。	手引き		GW
2	施設実習準備: 実習の概要を学ぶ	施設実習の実際について、VTR を視聴して学ぶ。	手引き *視聴記録		D
3	施設実習準備: 実習生紹介カードの作成	配属先発表、実習生紹介カードを記入する。	手引き *実習生紹介カード		D
4	施設実習準備: 実習配属先調べ	配属施設の確認、施設調べを行い、支援内容や利用児・者について理解する。	手引き・施設情報ファイル *施設調べの記録 *PC 持参		GW
5	施設実習準備: 事前学習	配属施設の種別について、事前学習をする。	手引き 社会的養護 I テキスト		GW
6	施設実習準備: 実習計画書	実習計画書の書き方の説明、実習計画書の作成	手引き *計画書提出		D
7	施設実習準備: オリエンテーション	実習の概要説明、オリエンテーションの受け方について学ぶ。	手引き *オリエンテーション記録		E F
8	施設実習準備: 事前個別面談	施設巡回教員と個別便段を行い、事前指導を受ける。	手引き *個別面談記録		E F
9	施設実習準備: 日誌の書き方など	日誌の書き方、評価方法について学ぶ。 *細菌検査について説明 (予定)	手引き・日誌サンプル配布 *実習日誌記入		D
10	施設実習準備: 実習要領解説	施設実習について、実際の事例から対処法を学ぶ。手引き Q&A から理解を深める。小テストの実施と解説	手引き *小テストの提出		D
11	施設実習準備: 直前オリエンテーション	実習に必要な書類の確認、直前の確認事項について学び、準備を整える。	手引き・実習に必要な書類等配布		D GW

**備考** 各授業の前に 45 分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題・質問等に関して授業内にフィードバックをする。

- 学習成果 (後期)**
- ① 知識面 実習施設における利用児・者の人権と最善の利益の考慮、支援方法について理解し、説明することができる。他者の実習体験から様々な施設や利用児・者について知識を得、説明できる。
  - ② 技術面 自分の実習体験について、グループワークやプレゼンテーションで発表することができる。また、記録物としてまとめることができる。
  - ③ 理念・理解 実習後の振り返りで自己覚知を行い、保育士の視点で自身の課題を発見し、記録物として示すことができる。

授業計画		D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技・実習・実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
12	施設実習事後学習	施設実習について、自分の実習の振り返りを行う。他者の実習体験から学ぶ。	手引き・実習日誌 *提出物：個別振り返り記入用紙	GW P	
13	施設実習事後学習	施設実習の振り返りをグループワークで行う。	手引き *提出物：記録作成	GW	
14	施設実習事後学習：個別面談	実習事後評価面接を受ける。自分の実習の振り返りを行う。	手引き *個別面談記録用紙	D	
15	実習体験報告会	各種実習について代表者の発表を聞き、自身の実習体験を振り返り、今後の課題を明確にする。	*レポートの提出	P	

**備考** 各授業の前に 45 分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。課題・質問等に関して授業内にフィードバックをする。実習の準備と振り返りについて、自主的に取り組み、保育士としての資質の向上に努めること。  
実習に向けて、態度や身だしなみについて指導に従うこと。

# 保育・教職実践演習(幼稚園) 野津直樹 内山 絵美子 竹内 あゆみ

[ Practical Seminar in Early Child Care and Education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	デブマNo.	ナバリング No.
2年生	後期	演習	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修 幼稚園2種免許必修	DP3c	No. Cs2c364
教職課程科目区分 含める必要事項		「教育実践に関する科目」(教職実践演習)						
成績評価 方法及び基準	毎回の授業に出席し、積極的に参加すること。幼稚園実践(第5回～9回)40%、模擬保育(第10回～15回)30%、指導案(第10回～15回)30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	「保育・教職実践演習～実践力のある保育者を目指して」野津直樹・宮川萬寿美 編著 萌文書林							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館							

## 授業概要

これまでの本学での幼稚園教諭・保育士養成の学習内容を整理する。また、保育実践における具体的な事例の検討および幼児教育施設の実情にふれ、幼児理解に基づき保育を構想し実践する指導力の育成を目指す。さらには、模擬保育を通して、幼児教育に対する知識や技能・能力の再確認を行い、教職に役立つ実践的な指導力の育成を行う。

## 学習成果

- ① 知識面 幼稚園教諭、保育士等に必要基礎知識及び技能として、それぞれの役割を知識として備えている。
- ② 技術面 実践演習や模擬保育を通して、それらを実践するための指導計画立案等に取り組むことができる。
- ③ 理念・理解 履修カルテに取り組み、2年間全ての学びを振り返りとして受け止め、今後の課題とすることができる。

## 授業計画

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (予習の章・頁、資料No) *作成課題内容	A L D G W E
1	履修カルテの確認および自己課題の明確化	これまでの授業・実習を通じて学んだことを振り返り、内容を整理する。学生自身が個々の課題を整理し、グループ討議から更に課題を明確にする。 (教科書 第3章 幼児教育者に求められているもの)	教科書 第3章の熟読 課題:授業内容から指示	D
2	子ども理解と実践	子ども理解の手立てを学ぶ (教科書第1章幼稚園教諭とは、教職とは)	教科書 第1章の熟読 課題:授業内容から指示	D
3	子どもをみることを考える	映像等を通して、子どもの姿から場面を切り取る。	教科書 第2章の熟読 課題:授業内容から指示	G W
4	保育現場の理解と実践 事前準備	第5回目～10回目での保育実践準備・計画案作成	これまで指導計画について学んだことを振り返る 課題:授業内容から指示	G W
5	保育現場の理解と実践 ①	幼稚園・保育園・認定こども園等の実情にふれる幼稚園での一日実習	課題:振り返りシート	E
6	保育現場の理解と実践 ②	幼稚園・保育園・認定こども園等の実情にふれる幼稚園での一日実習	課題:振り返りシート	E
7	保育現場の理解と実践 ③	幼稚園・保育園・認定こども園等の実情にふれる幼稚園での一日実習	課題:振り返りシート	E
8	保育現場の理解と実践 ④	幼稚園・保育園・認定こども園等の実情にふれる幼稚園での一日実習	課題:振り返りシート	E
9	保育現場の理解と実践 ⑤	幼稚園・保育園・認定こども園等の実情にふれる幼稚園での一日実習	課題:振り返りシート	E
10	学級経営の理解と実践 ①	学級経営案・保育指導案を作成する (教科書 第7章 総合的な実践を目指して)	教科書 第7章の熟読 課題:授業内容から指示	G W
11	学級経営の理解と実践 ②	学級経営案・保育指導案を作成し、模擬保育を行う (教科書 第7章 総合的な実践を目指して)	模擬保育のための指導計画作成、振り返りシート提出	E
12	学級経営の理解と実践 ③	学級経営案・保育指導案を作成し、模擬保育を行う (教科書 第7章 総合的な実践を目指して)	模擬保育のための指導計画作成、振り返りシート提出	E
13	学級経営の理解と実践 ④	学級経営案・保育指導案を作成し、模擬保育を行う (教科書 第7章 総合的な実践を目指して)	模擬保育のための指導計画作成、振り返りシート提出	E
14	学級経営の理解と実践 ⑤	学級経営案・保育指導案を作成し、模擬保育を行う (教科書 第7章 総合的な実践を目指して)	模擬保育のための指導計画作成、振り返りシート提出	E
15	学級経営の理解と実践 ⑥ 全体総括	学級経営案・保育指導案を作成し、模擬保育を行う 授業総括 (教科書 第7章 総合的な実践を目指して)	模擬保育のための指導計画作成、振り返りシート提出	E

## 備考

各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。幼稚園での一日実習については、コロナ禍における社会状況等により実施できないこともあり得る。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。



# 音楽表現指導法

今泉明美

[ Early Child Care and Education (Music Expression) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	後期	講義	2単位	選択	専門科目		DP2c	No. Cs2n035
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業中の取り組み器楽表現実践 2 種 各 20%、合奏パート譜作成 10%、音楽表現遊びの実践 20%)レポート課題音楽表現遊び計画 20%、振り返りシート 10%)を基本的配分とする総合的評価							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美編著 他 (萌文書林)、『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』有村さやか・今泉他編著 (ミネルヴァ書房)・音楽表現ファイル資料							
参考文献	『こどもといっしょにたのしく打楽器』共同音楽出版社『一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木他編著 (萌文書林)『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							

**授業概要** この授業では、保育内容を理解し、保育現場での子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術、保育環境の構成、活動の考え方を習得する。特に打楽器や鍵盤打楽器の特徴や奏法、楽器活動についての各知識やその指導法、支援方法を学習する。また、歌唱や楽器、身体表現を組み合わせた子どもの音楽的な遊びを計画・実践し、音・音楽環境や支援方法を学ぶ。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育現場で扱う音板打楽器や打楽器、子どもの音楽的発達への理解を深め、楽器活動の指導・支援方法についての知識を得る。
  - ② 技術面 保育現場で扱う楽器の基本的表現技術や音楽的表現活動の展開方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 乳幼児の発達や日々の保育における器楽表現を含む音楽表現活動の意義を理解する。

授業計画		【AL】D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			AL
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (予読の章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	楽器を用いた音楽遊び・音板打楽器演奏	ミュージックベル・トーンチャイムを用いた音楽遊びと実践①	資料配布：ミュージックベル・トーンチャイム合奏曲 課題：ベル奏法練習	E	G W
2	楽器を用いた音楽遊び・音板打楽器演奏	ミュージックベル・トーンチャイムを用いた音楽遊びと実践②	資料配布：ベル合奏曲・Part 1.p110-121 課題：ベルアンサンブルの支援方法	E	G W
3	年中児の器楽合奏とその支援方法	年中クラスを対象とした音板打楽器と打楽器による合奏実践とその支援方法・考え方を学ぶ	Part 1.p110-121 楽譜 p 205-208 課題 p 204 4歳児の音楽的育ち	E	G W
4	年長児の器楽合奏とその支援方法	年長クラスを対象とした音板打楽器と打楽器による合奏実践とその支援方法・考え方を学ぶ	Part 1.p110-121 楽譜 p 209-215 課題 p 209 5歳児の音楽的育ち	E	G W
5	音楽表現遊びの計画	部分実習案(音楽表現遊び)の立案	Part2.p170-186 課題：音楽遊び指導案作成	G	W
6	幼児の器楽合奏	年齢別合奏曲つくりとその演奏	Part2.p127-131、p161-166 楽譜 p 201-215 課題：年齢別打楽器アンサンブル作曲	E	G W
7	音楽遊びの実践と遊びの環境①	部分実習案(音楽遊び)の立案と準備・リハーサル	Part2.p170-186 課題：音楽遊び立案と準備・練習	E	G W
8	音楽遊びの実践と遊びの環境②	計画した部分実習案(音楽遊び)による模擬保育の実践と振り返り、音楽遊びの環境 全体のまとめ	Part2.p170-186 課題：音楽遊び計画案及び振り返りシート提出	E	G W

**備考** 各授業の前に 45 分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には課題に取り組む。復習をすること。課題等に関して授業内にフィードバックをする。配布した振り返りプリント等に意欲的に取り組み、力を付けること。授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 造形表現指導法

吉 田 収

[ Guidance of Art for Infant Education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	デパートNo.	ナンバーNo.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目		DP2c	No. Cs2c038
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業内振り返りシート 20%、②制作作品課題(制作課題 4点) 40%、③最終振り返りレポート 20%、④授業中の取り組み(プレゼンテーション等)20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『生活事例からはじめる造形表現』宮川 萬寿美編著、吉田 収、野津 直樹著 青踏社 必要に応じてプリントを配布する。							
参考文献	『保育をひらく造形表現』槇英子著 萌文書林 2008 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成編著 萌文書林 2018							

**授業概要** 造形など技術を伴う表現は、自己で表現するのと指導するのでは、全く違ったものとなります。自己の表現で簡単に出来るのが、人に教えるとなると、材料の知識や使い方、そして応用方法など、多くの知識や経験が必要となってきます。ここでは1年で学んだ造形の素材、技法全般を自分のものとするべく、復習し、そして表現を深め、保育に活用する術を学んでいきます。

- 学習成果**
- ① 知識 造形素材や材料、技法の知識を自分のものとして、人に説明できるようになる
  - ② 技術 造形の素材や技法を応用して、自分の表現に活用することができるようになる
  - ③ 理念・理解 造形素材や材料や技法を子どもにも分かるように説明し、一緒に表現できるようになる

授業計画				D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験	A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	オリエンテーション 造形活動の意義	カリキュラムの流れと解説 造形活動の意義を解説	(第2部全章 p90~114)を通読しておく		P
2	絵画指導	絵画の意義、そして絵画の種類と指導法	(第1部第1章 p51-52)を通読しておく・配布資料		P E
3	粘土指導	粘土の意義と種類別の表現と指導法	(第1部第1章 p53-60)を通読しておく		P E
4	工作指導	工作の意義と材料別の表現方法	(第1部第1章 p71-81)を通読しておく		P E
5	発表制作指導①	発表における保育者の製作物の立案	ビデオ視聴		P E
6	発表制作指導②	発表における保育者の製作物の作成	(第1部第1章 p84)を通読しておく		E
7	発表制作指導③	模擬保育のシュミレーション	(第2部第3章 p109~114)を通読しておく		P E
8	模擬保育	発表制作を使っでの模擬保育の実践と振り返り	〃		G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。各自課題(作品制作)に沿って主体的に取り組むこと。課題(作品)等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用することがあるので、教員の指示に従い持参すること。

# 身体表現指導法

上野 奈初美

[ Guidance of Physical for infant education ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目		DP2c	No. Cs2n041
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業中の取り組み 基礎理論(20%)、運動技術(40%)、指導技術(20%)、②レポート課題(20%)を基本配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、 『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館							
参考文献	表現指導法 感性を育て表現の世界を拓く・萌文書林							

**授業概要** 身体表現活動を通して、身体表現（ダンス等）の基礎技能を高めるとともに、豊かな表現力や感性を磨くことを目的とする。本授業では、保育の場における発表会や運動会等を想定した企画から発表、評価までを行うことができる実践力の育成を目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 全身を使って表現することの楽しさと喜びについて説明できる
  - ② 技術面 幼児向けの表現運動（ダンス）の創作力が身につく
  - ③ 理念・理解 子どもの表現を支える保育者として、確かな指導力が身につく

<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容	L
1	基礎力を高める	基礎的なテクニックを身につける	配布資料①「ダンスの基礎・基本」を読んでおく	E
2	動きづくり	基本の動きを使って小作品の創作と発表を行う	配布資料②「動きとリズム」を読んでおく	E
3	イメージと動き	イメージトレーニング（絵本、物語、音楽等を使って）	イメージと動きについて発表する	E
4	発表会の企画	場の設定や作品の構想等をグループで立案する	各自が作品に必要な音楽等を準備する	G W
5	創作活動①	計画にもとづきグループごとに作品創作に取り組む	記録（VTR収録等）を確認する	G W
6	創作活動②	作品の手直し、反復練習を行う	発表の練習を行う	G W
7	発表会の実施	発表会を想定した作品発表と相互鑑賞の実施	プログラムの作成、小道具などの準備を行う	P
8	発表会の評価	前回の発表（会）を振り返り指導案に起こす、課題についての検討とディスカッション	指導案をもとに振り返りを行う	P W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 保育実習Ⅰ(施設)

上野文枝 小倉直子 武山美子

[ Practical Training in child welfare institution I ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	前期	実習	2単位	選択	専門科目	保育士資格必修	DP3c	No. Cs2c175
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	実習評価表 40、日誌 60 を基本的配分した上で、提出物・巡回指導により総合的に評価する。							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学							
参考文献	『社会的養護Ⅰ』吉田眞理編著 萌文書林 『社会的養護Ⅱ』吉田眞理編著 萌文書林							

**授業概要** 児童福祉施設や障害者支援施設で、原則として10日間90時間以上の宿泊または通所実習を行う。施設の役割と機能と学び、子どもや利用者の特性や生活支援について施設職員の指導を受けながら実践する。専門職としての役割と倫理について学ぶとともに、実習を通して自分の課題を明確にする。

- 学習成果**
- ① 知識面 児童福祉施設等の組織・運営・子どもや利用者について説明できる。
  - ② 技術面 子どもや利用者への支援方法と権利擁護の実際について理解し、施設職員から指導を受けながら生活場面で支援を実践できる。
  - ③ 理念・理解 保育士としての業務内容や職業倫理について説明できる。また、自分の課題を明確にし言語で表現できる。

<b>授業計画</b>	【AL】 D:ディカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				AL
回数	テーマ	学習内容	準備学習(教科書の章・頁、資料No) *作成課題内容		
およそ1~3日目	(1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する。 子ども・利用者の生活と一日の流れおよび施設の役割と機能を学ぶ。 ②子ども・利用者との関係作りをする。	実習の手引き *実習日誌	E	
およそ4~6日目	(2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める。	③子ども・障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用を学ぶ。 ④日常生活業務の内容や意味を理解する。 環境の整備・健康管理・安全対策 について学ぶ。 ⑤職種間の連携について学ぶ。 ⑥施設内の権利擁護の実際を理解する。 ⑦支援計画や記録がどのようにされているかを理解する。	実習の手引き *実習日誌	E	
およそ7~10日目	(3) 「家族への支援」 (4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する	⑧-1 家族への支援・家族再統合について理解する。 ⑧-2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携について理解する。 ⑨専門職としての保育士の役割を理解し倫理観を明確にする。	実習の手引き *実習日誌	E	

**備考** 実習を履修するためには、「実習履修基準」を満たしていなければならない。  
実習中に教員が巡回訪問指導をするので、実習に関する相談をするとともに指導に従うこと。  
実習前には巡回担当教員の事前面談、実習終了後はクラス担任による評価面接を受けること。学年末の実習報告会に出席すること。  
保育実習Ⅰ(施設)の事前指導、事後指導は保育実習指導ⅠBの授業の中で行う。  
保育実習Ⅰ(施設)を履修する場合は、保育実習指導ⅠBも履修しなければならない。

# 保育実習Ⅱ

[ Practical Training in Nursery II ]

竹内 あゆみ 杉崎 雅子  
山本 華子 宮川 萬寿美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	実習	2単位	選択	専門科目	保育士資格選択必修	DP3c	No. Cs2c176
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	実習評価表 40%、日誌 60%を基本的配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館							
参考文献	『新・保育講座 12 幼稚園実習保育所・施設実習』大豆生田啓友他編 ミネルヴァ書房 『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子他著 わかば社 『保育所保育指針』フレーベル館							

**授業概要** 保育所における実習（合計 10 日間）園の状況に合わせ、土曜日保育・早番や遅番等も体験する保育所の保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養ってほしい。

**学習成果**

- ① 知識面 保育所・保育士に求められる事項や役割についての知識を得るとともに、多様な子どもへの対応を説明できるようになる。
- ② 技術面 保育全般に参加し、実践に即した保育技術を習得する。
- ③ 理念・理解 子どもの最善の利益への配慮や保育士としての職業倫理について説明できるようになる。

<b>授業計画</b>	【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No） *作成課題内容	
1日目～5日目	参加実習	① 実習施設について理解する ② 保育の一日の流れを理解し、参加する ③ 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する ④ 保育の全体的な計画や指導計画を理解する ⑤ 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育計画を立案するとともに、保育技術を習得する	実習の手引き ・実習日誌	E
6日目～10日目	参加実習 責任実習	⑥ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する ⑦ 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する ⑧ 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ ⑨ 保育士としての倫理を具体的に学ぶ ⑩ 安全及び疾病予防への配慮・災害への備え等について理解する	実習の手引き ・実習日誌	E

**備考** 実習を履修するためには、「実習に行くための基準」を満たしていなければならない。  
実習中に教員が巡回するので、その指導に従うこと。  
実習終了後、報告会や個人面接等に参加すること。  
事前指導、事後指導と振り返りは保育実習指導の授業の中で行う。  
実習を履修する場合は保育実習指導の科目も履修しなければならない。

# 保育実習指導Ⅱ

[ Guidance of Practical Training in Nursery II ]

竹内 あゆみ 杉崎 雅子  
山本 華子 宮川 萬寿美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパングNo.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格選択必修	DP3c	No. Cs2c177
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①レポート課題(実践課題65%、レポート課題30%)、②授業中の 取り組み(保育実技の発表)5%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学 『保育所保育指針解説』厚生労働省							
参考文献	『保育所保育指針』フレーベル館 『幼稚園・保育所 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』久富陽子編著 萌文書林							

**授業概要** 保育実習指導Ⅰで学んだことを基礎として、これまでの実習を振り返り、保育実習Ⅱに向けての各自の課題を明確化する。また、保育実習Ⅱの意義、目的、内容を理解し、保育実習Ⅱで求められる知識・技能の習得に向けて事前準備を行う。実習終了後、振り返りを行い、保育における自己評価、チーム保育・保育士の職業倫理・地域、子育て家庭支援・小学校との連携など、保育実習Ⅰ(保育所)で深められた学びなどを確認し、さらに、各自の新たな課題を見つける。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育実習Ⅱの意義・目的・内容に関する知識を得る。
  - ② 技術面 指導計画、実践、記録、評価の方法を習得する。
  - ③ 理念・理解 保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、自己課題を明確にしたうえで、実習生としての保育実習Ⅱへの取り組みについて説明できる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習(手引の章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	保育実習Ⅱ事前準備 ① ガイダンス	保育実習Ⅱの概要と目的	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *提出課題：前実習省察	
2	保育実習Ⅱ事前準備 ② 課題設定	保育実習の課題設定・保育者の仕事と役割	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *提出課題：自己課題設定	G W
3	保育実習Ⅱ事前準備 ③ 日誌	保育実習Ⅱの日誌の書き方	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *提出課題：日誌練習	
4	保育実習Ⅱ事前準備 ④ 指導計画	保育実習Ⅱの部分実習・責任実習指導計画案の立案	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *提出課題：指導計画案作成	G W
5	保育実習Ⅱ事前準備 ⑤ 直前学習	実習直前オリエンテーション	(手引き「保育実習指導Ⅱ」)	
6	保育実習Ⅱ 事後指導①	保育実習体験の報告	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *提出課題：報告記録(グループ課題・個別課題)	G W
7	保育実習Ⅱ 事後指導②	日誌・指導案の記述見直しと復習	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *提出課題：日誌点検	D
8	保育実習Ⅱ 事後指導③	実習の自己評価と保育者としての課題設定	(手引き「保育実習指導Ⅱ」) *課題：総括レポート	D

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 保育実習Ⅲ

上野文枝 武山美子 小倉直子

[ Practical Training in Child Welfare Institution III ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	前期	実習	2単位	選択	専門科目	保育士資格選択必修	DP3c	No. Cs2c178
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	実習評価表 40、実習日誌 60 を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学							
参考文献	『社会的養護Ⅰ』吉田眞理 萌文書林 『社会的養護Ⅱ』吉田眞理 萌文書林							

**授業概要** 児童福祉施設や障害者施設で、原則として 10 日間 90 時間以上の宿泊または通所実習を行う。既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、施設の役割と機能について実践を通して学ぶ。子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援等について理解を深め、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を修得する。

**学習成果**

- ① 知識面 児童福祉施設等の組織・運営・子どもや施設利用者への理解をより深め、説明できる。
- ② 技術面 子どもや施設利用者に対し、受容し共感する態度で関わり、個々のニーズに応じた支援ができる。
- ③ 理念・理解 保育士としての職務内容を理解し、職業倫理について説明できる。また、自己課題を理解し明確化できる。

<b>授業計画</b>	【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		L
およそ 1~3 日目	(1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する。 生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 を学ぶ。 ②子ども・利用者の特性を理解し、受容・共感する態度で接する。	実習の手引き *実習日誌		E
およそ 4~6 日目	(2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用を学ぶ。実際に職員の指導を受けながら実践する。 ④日常生活業務の内容や意味を理解する。 環境の整備・健康管理・安全対策 について学ぶ。 ⑤職種間の連携について学ぶ。 ⑥施設内の権利擁護の実態を理解する。 ⑦個別支援計画や記録がどのようにされているか理解し、個別支援計画を作成し実践する。	実習の手引き *実習日誌		E
およそ 7~10 日目	(3) 「家族への支援」 (4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する	⑧-1 家族への支援・家族再統合について理解する。 ⑧-2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携について理解する。 ⑨専門職としての保育士の役割を理解し倫理観を明確にする。 自己課題を明確化し実習評価表に記述する。	実習の手引き *実習日誌 *実習のまとめ		E

**備考** 実習を履修するためには、「実習履修基準」を満たしていなければならない。  
実習中に教員が巡回するので、その指導に従うこと。  
実習終了後、報告会や個人面接等に参加すること。  
事前指導、事後指導と振り返りは保育実習指導Ⅲの授業の中で行う。  
実習を履修する場合は保育実習指導Ⅲも履修しなければならない。

# 保育実習指導Ⅲ

上野文枝 小倉直子 武山美子

[ Guidance of Practical Training in Child Welfare Institution Ⅲ ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ハンパリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	保育士資格選択必修	DP3c	No. Cs2c179
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。提出課題 50%、授業中の取り組み姿勢（グループワーク、発表態度、身だしなみ等） 10%、プレゼンテーション 10%、レポート課題 30%を基本配分とする総合評価							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学							
参考文献	『社会的養護Ⅰ』吉田眞理編著 萌文書林 『社会的養護Ⅱ』吉田眞理編著 萌文書林							

**授業概要** 保育実習指導ⅠA・ⅠB、保育実習Ⅰ（保育所）で学んだことを基礎として、これまでの実習を振り返り、保育実習Ⅲに向けての自己課題を明確化する。また、保育実習Ⅲの意義、目的、内容を理解し、保育実習Ⅲで求められる知識・技能の習得に向けて事前準備を行う。実習終了後に振り返りを行い、実習における学びを評価し、自己覚知により今後の課題を明らかにする。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育実習Ⅲの意義・目的・内容を理解し、配属先施設と利用児・者について説明できる。また、保育士の専門性と職業倫理について説明できる。
  - ② 技術面 実習施設に関する知識と支援方法を理解し、実習計画を立てることができる。実習後には計画に基づいた振り返りを行い、プレゼンテーションすることができる。
  - ③ 理念・理解 保育実習Ⅲの計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、言語で示すことができる。実習後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にできる。

<b>授業計画</b>		【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習（予読の章・頁、資料No）*作成課題内容			
1	保育実習Ⅲオリエンテーション、準備	保育実習Ⅲの概要、必要書類の準備、配属先についての理解	保育実習Ⅲオリエンテーション、準備 *課題提出	D GW		
2	実習配属先施設の事前学習	配属先施設の概要、種別による特徴などについて各自で調べ、記述する。	実習配属先施設の事前学習 *課題提出	D GW		
3	利用者理解、社会的養護の基礎知識の確認	利用者理解を深める。社会的養護で学んだ内容を事前学習として再確認する。	利用者理解、社会的養護の基礎知識の確認 *課題提出	GW		
4	実習計画表準備	自己課題を明確にし、実習計画表を作成する。	実習計画表準備 *実習計画表の提出	D		
5	日誌の書き方、実習直前オリエンテーション	日誌の書き方を学ぶ。実習に向けて具体的準備を行う。	日誌の書き方、実習直前オリエンテーション *課題提出	D		
6	事後指導① 実習全体報告会	各自の振り返りを行い、実習体験を発表する。	実習全体報告会 *課題提出	P		
7	事後指導② 日誌による振り返り	実習振り返りを行い、エピソード記録から利用者理解を深める。グループワークを行い、相互の発表を通して理解を深める。	日誌による振り返り *課題提出	GW		
8	事後指導③ 実習の自己評価と今後の課題	実習体験について、グループワークを行う。施設からの評価等を通して自己評価を行い、自己覚知につなげる。今後の課題を明確にする。	実習の自己評価と今後の課題の明確化 *課題：総括レポート	GW		

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題・質問等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。\*PCの使用については授業内で指示する。



# 教育実習

野津直樹 内山絵美子 中山貴太

[ Practical Training in Kindergarten ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	実習	4単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP3c	No. Cs2c266
教職課程科目区分 含める必要事項		「教育実践に関する科目」(教育実習)						
成績評価 方法と基準	実習評価表 40、実習日誌 60、事前事後学習の課題取り組み状況を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学, 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館							
参考文献	『保育用語辞典』森上史朗・柏女霊峰編、ミネルヴァ書房							

**授業概要** 教育実習(2年次6月4週間)を原則として同一の幼稚園で実習する。実習最初の1週では、観察実習を通じて、幼稚園における子どもの姿や教師の役割について理解し、2週目以降の参加・指導実習に備える。以降、3週目には部分実習、4週目には責任実習を幼稚園側とよく相談しながら日程設定をした上で行う。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習園の子どもの実態や課題を把握しつつ適切に関わる中で、担当指導教員が保育する視点を十分に観察し、その事実即した記録をとることができる。また担当指導教員の補助的な役割を担うことができる。
  - ② 技術面 幼稚園の運営方針及び特色を実施するための組織体制についての理解を深める。
  - ③ 理念・理解 幼稚園教師の役割と職務について実習園での理解を深めながら、幼稚園教育要領及び子どもの実態をふまえた指導案を作成、実践することができる。実践を通して保育に必要な基礎的技術(話し方、保育の展開、保育方法、環境の構成等)を確かな資質として身に付ける。

授業計画		【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験		A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L
第1週	見学・観察・参加実習	① 一日の保育の流れを実習日誌に記載し少しずつ把握し理解する。 ② 子どもが遊び、学ぶ姿を理解する。 ③ 幼稚園教諭の役割(心のよりどころ、憧れを形成するモデル、共同作業、理解者、援助者)及びその他の様々な活動(保育を支えるための時間として環境設定等)を理解する。	実習の手引き 課題: 部分実習指導計画案を作成する 日誌を作成する	E
第2週	観察・参加実習	④ 実習1週目で把握した一日の保育の流れを保育参加することによって、より深く体験的に理解する。 ⑤ 直接子どもに働きかけることによって、実習1週目で得た子どもの姿をより正しく認識する。 ⑥ 保育活動を補助的に受け持つことによって、幼稚園教諭の職務内容や役割、他の教職員との連携の在り方を把握する。 ⑦ 送迎に参加することによって、登園や降園の状況を観察しつつ園と家庭との連携の大切さやその方法について理解する。	実習の手引き 課題: 部分実習指導計画案を修正する 日誌を作成する	E
第3週～第4週	参加・指導実習(部分実習・責任実習)	⑧ 子ども一人ひとりの実態を把握する。 ⑨ 子どもの実態に即した指導計画案を作成する。 ⑩ ねらいに応じた内容を決定、環境構成を設定する。 ⑪ 実際の保育の指導技術を身につける。 ⑫ 幼稚園教諭の保育活動を補助的に受け持つことによって、幼稚園教諭の職務内容や役割、他の教職員との連携の在り方をより的確に把握する。 ⑬ 登園や降園の状況を観察しつつ、送迎に参加することによって園と家庭との連携の大切さやその方法をより深く理解する。 ⑭ 省察することによって自分の保育活動の反省・評価をする。	実習の手引き 課題: 責任実習指導計画案を作成・修正する 日誌を作成する	E

**備考** 日誌(指導計画を含む)を丁寧に日々作成を積み重ねていくこと。事前に準備すべきこと(指導計画案、それに伴う教材研究等、日々の身だしなみ)を自らが取り組むこと。事前・事後指導、振り返りについては教育実習指導の授業内で行う。

保育・二年生

# 教育実習指導

野津直樹 内山絵美子 中山貴太

[ Guidance of Practical Training in Kindergarten ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	幼稚園2種免許必修	DP3c	No. Cs2c265
教職課程科目区分 含める必要事項		「教育実践に関する科目」(教育実習)						
成績評価 方法と基準	教育実習準備の授業である。毎回授業に出席し授業に積極的に参加すること。 部分実習指導案、責任実習指導案各 30、授業内活動 40 を基本的配分とする総合評価							
教科書	『実習の手引き』小田原短期大学 『生活事例からはじめる教育実習 保育実習』吉田真理編著 青踏社 2018年初版							
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育用語辞典』森上史朗・柏女霊峰編 ミネルヴァ書房							

**授業概要** 実習の意義・目的・内容の理解を中心に実習の準備と省察を行う。事前学習では、幼稚園・子ども・保育者の役割に関する理解を意識化するとともに、自己の課題を明確化する。事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習の事前学習を通して、実習を円滑に進めていくための態度及び知識、技能を修得し、実習内容・実習課題を明確にする。
  - ② 技術面 実習事後の振り返りとまとめの授業を通じて、実習体験を深化させる。
  - ③ 理念・理解 幼稚園教育職への意欲、適性を体験から考察し、進路決定をしていく。

回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1		教育実習の目的と概要	教育実習への取り組み (理論と実践の学び) 教育実習の目的・進め方、実習生の心得 幼稚園の生活 (登園から降園までの一日の生活の流れ/ 行事理解) (実習の手引き 第1回)	実習の手引き 第1回を熟読 課題:授業内容から提示	G W
2		教育実習課題設定	教育実習課題設定 (実習の手引き 第2回)	実習の手引き 第2回を熟読 課題:授業内容から提示	G W
3		指導案の作成①	部分実習指導案の作成、提出 各欄に書くこと、子どもの実態→ねらい→活動の流れについて (実習の手引き 第3回)	実習の手引き 第3回を熟読 課題:授業内容から提示	G W
4		指導案の作成②	責任実習指導案の作成、提出 一日の実習を想定した指導案を作成 (実習の手引き 第3回)	部分実習指導案作成・提出 課題:授業内容から提示	G W
5		日誌の書き方①	エピソード記録、各週の違い (ステップアップ) について (実習の手引き 第4回)	責任実習指導案作成・提出 実習の手引き 第4回・第5回を熟読 課題:授業内容から提示	G W
6		日誌の書き方②	ある幼稚園の一日をビデオで視聴しながら実際に日誌を書く (実習の手引き 第5回)	実習の手引き 第4回・第5回を熟読 課題:授業内容から提示	G W
7		実習直前 オリエンテーション	日誌の書き方の基本復習、言葉づかい・挨拶・態度について 実習中の欠席・補いについて、実習初日に持っていくもの (実習の手引き 第6回)	実習の手引き 第6回を熟読 課題:授業内容から提示	G W
8		教育実習体験報告会 教育実習振り返り	教育実習体験報告会をグループ毎に行う 幼稚園について、子どもについて、幼稚園教師の役割について話し合う (実習の手引き 第7回・第8回)	実習の手引き 第8回を熟読 実習の手引き 第8回内にある振り返りシートに記入	G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 卒業研究（有村ゼミナール）

有村 さやか

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	各自のテーマに応じて適宜指示する							
参考文献	『音楽の文章セミナー』久保田慶一 音楽之友社、『最新・幼児音楽教育』井口太 朝日出版社							

**授業概要** 現代における音楽の様々な在り方に目を向け、幼児教育の実践につながる創造的表現について研究する。音楽教育分野を研究するための基本的知識と理論、研究方法について学び、論文作成に取り組む。学生個々が自らの研究課題を持ち、教員の指導を受けながら内容を深め、論文を執筆する演習科目である。

**学習成果** ① 知識面 基礎的な楽譜学、演奏理論、管弦楽法、音楽教育を学び、研究の基礎となる知識を習得する  
② 技術面 子どもを取り巻く音環境やその現代的課題について調査・実践し分析方法を身につける  
③ 理念・理解 自己の研究テーマと結論について説明することができる

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
1	卒業研究の概要 1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要 2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	ゼミの内容について 1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
4	ゼミの内容について 2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
5	論文執筆について 1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。		P
6	論文執筆について 2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。		P
7	論文執筆について 3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。		P
8	研究調査活動 1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
9	研究調査活動 2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
10	研究調査活動 3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。		P
12	先行研究のまとめ 1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
13	先行研究のまとめ 2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
14	研究調査活動のまとめ 1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
15	研究調査活動のまとめ 2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
16	中間発表準備 1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
17	中間発表準備 2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	論文指導 1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
21	論文指導 2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
22	論文指導 3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
23	論文指導 4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
24	論文指導 5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。

# 卒業研究（今泉ゼミナール）

今泉明美

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーNo.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美編著他（萌文書林）							
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 各自のテーマに応じて適宜指示する							

## 授業概要

乳幼児の豊かな感性や音楽的表現力を育てていく為に、保育者の保育や音楽に関する感性が重要となる。本ゼミでは、これらの育ちの糸口としてこの論文作成を位置づける。まず、各学生の論文テーマについて文献による基礎研究を行い、基本的知識を得る。これに基づき、事例観察や実践、調査から得た結果について、乳幼児の音楽的発達や音楽的な要素、保育者の支援の各視点から分析・考察し、テーマについての結論を導く。これらの過程により保育者としての感性を育てたい。

## 学習成果

- ① 知識面 保育現場の音楽的表現活動やその支援方法についての知識を得る。
- ② 技術面 事例観察や実践、調査の結果を分析することができる。
- ③ 理念・理解 自己の研究テーマと結論について説明することができる。

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習	A L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）	卒業研究とゼミ活動の意味の振り返り	D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。	研究の方向性の模索	D
4	卒業研究の論題探し	ワークシートにより自身の興味や疑問を見つける。	興味関心の模索	D
5	卒業論文論題と動機	研究論題とその動機についての発表と研究方法模索	研究動機の確認	P
6	音楽分野の論文事例	音楽分野の論文事例による研究方法、文献検索の理解	研究方法の確認	P
7	研究論題と研究方法	研究論題・動機の執筆及び研究方法の決定	ここまでの執筆	P
8	実践内容の整理	実践内容や調査（実習）の整理	調査内容の整理	F
9	実践内容の整理	実践内容や調査（実習）の整理	調査内容の整理	F
10	実践内容の整理	実践内容や調査（実習）の整理	調査内容の整理	F
11	文献研究	先行研究や文献検索及び文献読み	文献検索と文献読み	P
12	文献研究	先行研究や文献検索及び文献読み	文献検索と文献読み	P
13	文献研究	先行研究や文献検索及び文献読み	文献検索と文献読み	P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。	活動の概要まとめ	P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。	活動の概要まとめ	P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	発表準備	P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	発表準備	P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。	発表の振り返り	P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。	発表の振り返り	P
20	論文指導1	各自の論題に従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
21	論文指導2	各自の論題に従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
22	論文指導3	各自の論題に従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
23	論文指導4	各自の論題に従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
24	論文指導5	各自の論題に従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。	論文執筆	E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。	論文執筆	E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。	論文執筆	E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出	論文概要執筆	E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会	発表の準備	P
30	卒業研究発表会	卒業研究発表会—各ゼミナール代表者の研究発表 2024年2月予定	1年間の振り返り	P

## 備考

「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組むこと。卒論は提出日 1/12) までに仕上げ、概要も指定日に提出する。後期の個人作業となる論文執筆は毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受ける。執筆用 PC を持参すること。

# 卒業研究（上野奈初美ゼミナール）

上野 奈初美

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表20%、中間発表30%） ②レポート課題（論文作成50%）							
教科書	各自のテーマに応じて適宜指示する							
参考文献	各自のテーマに応じて適宜指示する							

**授業概要** 保育の場には様々な背景を持った子どもがたくさんいる。また、保育を取り巻く昨今の状況の変化には目を見張るものがある。本ゼミでは、子どもの生活の変化を踏まえた具体的な指導上の課題および対応能力について、特に「生活習慣」の形成を目指した保育者の役割について探求する。日頃、当然と思っていることを再吟味することによって、新たな視点を発見し、自己の考えを論理的に表現するために論文作成を行う。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの健康をめぐる現状と課題について知識を得る。
  - ② 技術面 アンケート調査結果や実践結果を分析することができる。
  - ③ 理念・理解 自己の研究テーマと結論について説明することができる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習	A L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	研究テーマ設定1	各自の興味・関心からテーマを考える。		D
4	研究テーマ設定2	ワークシートやグループ別議論を通してテーマを掘り下げる。		GW
5	研究方法1	研究調査方法について学ぶ。		E
6	研究方法2	資料、文献の集め方について学ぶ。		E
7	研究方法3	資料や文献の活用方法について学ぶ。		D
8	研究計画を立てる	テーマ、研究方法を設定し、研究計画を立てる。		D
9	文献研究1	テーマにそった文献を探す。		E
10	文献研究2	文献を読んでまとめる。		E
11	調査研究1	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
12	調査研究2	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
13	調査研究3	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
14	ゼミ内発表1	個別の課題についてゼミ内で報告会を行い研究の方向性を確認する。		PD
15	ゼミ内発表2	個別の課題についてゼミ内で報告会を行い研究の方向性を確認する。		PD
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		E
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		E
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	中間発表振り返り	ゼミ内発表会を通して中間発表を振り返り、テーマの再構築と内容の修正を行う。		PD
21	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
22	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
23	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
24	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示により持参すること。

# 卒業研究（上野文枝ゼミナール）

上野文枝

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	デパートNo.	ナパリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	「切り抜き速報 保育と幼児教育版」ニホン・ミック							
参考文献	季刊『児童養護』全国児童養護施設協議会、『月間福祉』全国社会福祉協議会							

## 授業概要

本子どもを取り巻く社会背景と児童福祉の現状について学ぶ。特に、児童虐待やDVによる子どもへの影響や社会的養護の現状と課題など、児童福祉について探求し、理解を深める。また、子育て支援や社会福祉施設等の現場を経験し、保育者としての態度や視点を実践的に身に付ける。

## 学習成果

- ① 知識面 様々な事情を抱えた子どもと家族の現状とその支援策について基本的な知識を得る。
- ② 技術面 自らの研究テーマについて文献や資料を適切に選択できる。
- ③ 理念・理解 自分の研究テーマと調査方法について説明することができる。

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）	論文の書き方調べ	D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。	資料調べ	D
4	ゼミの内容について2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。	資料調べ	D
5	論文執筆について1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。	図書調べ	P
6	論文執筆について2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。	図書調べ	P
7	論文執筆について3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。	テーマ設定	P
8	研究調査活動1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。	先行研究調べ	F
9	研究調査活動2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。	先行研究調べ	F
10	研究調査活動3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。	研究課題調べ	F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。	テーマの確認と調査方法検討	P
12	先行研究のまとめ1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。	先行研究まとめ	P
13	先行研究のまとめ2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。	先行研究まとめ	P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。	論文構成	P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。	研究目的執筆	P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	発表準備	P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	発表準備	P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。	他者発表から学ぶ	P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。	他者発表から学ぶ	P
20	論文指導1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
21	論文指導2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
22	論文指導3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
23	論文指導4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
24	論文指導5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文執筆	D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。	論文推敲	E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。	論部推敲	E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。	論文概要執筆	E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出	論文概要推敲・提出	E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会	他研究から学ぶ	P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）	他研究から学ぶ	P

## 備考

「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。執筆用PCを持参すること。

# 卒業研究（内山ゼミナール）

内山 絵美子

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	そのつど資料を配布する。							
参考文献	『教育問題はなぜまちがって語られるのかー「わかったつもり」からの脱却』 広田照幸、伊藤茂樹、日本図書センター 『論文の教室——レポートから卒論まで』 戸田山和久、NHK ブックス							

**授業概要** 教育、保育にかかわる社会課題の中から関心のあるものを選択し、理解を深められるよう、調べ学習を行う。それをメンバー間で発表し、話し合うことで、問題関心を広げる。その後、特に深めたい「問い」を設定し、それを研究テーマとして論文執筆を行う。

- 学習成果**
- ① 知識面 関心のある教育問題について現状や背景など基本的な事項を理解している。
  - ② 技術面 論理的な思考や、表現の仕方、事例研究の方法を身に付けている。
  - ③ 理念・理解 課題を発見し解決する力や多様な視点で物事を考えることができる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
	【AL】D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
				L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）	配布資料を読む	D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）	配布資料を読む	D
3	教育問題とは何か	興味のある教育問題について調べる	*テーマ案の提出	D
4	調べ学習①	興味のある教育問題について発表する	教育問題を調べる	D
5	調べ学習②	論文の研究テーマについて調べながらブレイン・ストーミングする	教育問題を調べる	P
6	研究テーマの決定①	教員と相談しながら論文の研究テーマを決定・発表する	*テーマの概要提出	P
7	研究テーマの決定②	研究テーマに関連する基礎的な資料、先行研究を収集、整理する	文献を収集する	P
8	資料収集①	研究テーマに関連する基礎的な資料、先行研究を収集、整理する	文献を収集する	F
9	資料収集②	収集した資料をから先行研究の動向を検討する	文献を収集する	F
10	先行研究の検討	リサーチ・クエスチョン (RQ) を立て、アプローチ方法を検討する	文献を読む	F
11	研究課題の設定	RQ に沿って、調査・研究を進める。	文献を読む	P
12	調査・研究活動①	RQ に沿って、調査・研究を進める。	文献を読む	P
13	調査・研究活動②	RQ に沿って、調査・研究を進める。	文献を読む	P
14	調査・研究活動③	RQ に沿って、調査・研究を進める。	文献を読む	P
15	調査・研究活動④	興味のある教育問題について調べる	文献を読む	P
16	中間発表準備 1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	*中間発表案提出	P
17	中間発表準備 2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	*中間発表ポスター	P
18	卒業研究中間発表	(小峰祭) 各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	(小峰祭) 各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	論文指導 1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文を加筆修正する	D
21	論文指導 2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文を加筆修正する	D
22	論文指導 3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文を加筆修正する	D
23	論文指導 4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文を加筆修正する	D
24	論文指導 5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	論文を加筆修正する	D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。	*論文提出	E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。	論文を加筆修正する	E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。	*完成論文	E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出	*論文概要	E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 卒業研究（小倉ゼミナール）

小倉直子

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	各自のテーマに応じて適宜指示する							
参考文献	『保育者のためのテキスト 障害児保育』近藤直子・白石正久・中村尚子編 全障研出版部							

**授業概要** 障害や支援の必要性の有無にかかわらず、すべての子ども（と大人）が毎日を生き生きと過ごし育ちあうことができる保育をめざし、そのために必要な発達と障害の理解、対応と保育内容の検討、集団づくり、保護者・家族の支援、地域における障害乳幼児施策のあり方などについて考える。学生一人一人がそれぞれ課題を設定し、論文を執筆する。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの発達と障害について、幅広い知識を習得する。
  - ② 技術面 論文の作成、研究の発表を通して自分の考えを表現する力を身につける。
  - ③ 理念・理解 発達保障という考え方と実践の歴史を理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習	A L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	研究テーマ設定1	各自の興味・関心からテーマを考える。		D
4	研究テーマ設定2	ワークシートやグループ別議論を通してテーマを掘り下げる。		G W
5	研究方法1	研究調査方法について学ぶ。		E
6	研究方法2	資料、文献の集め方について学ぶ。		E
7	理解と支援	子どもの理解と支援、保護者支援に関するテーマで議論する。		D
8	研究計画を立てる	テーマ、研究方法を設定し、研究計画を立てる。		D
9	文献研究1	テーマにそった文献を探す。		E
10	文献研究2	文献を読んでまとめる。		E
11	調査研究1	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
12	調査研究2	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
13	調査研究3	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
14	ゼミ内発表1	個別の課題についてゼミ内で報告会を行い研究の方向性を確認する。		P D
15	ゼミ内発表2	個別の課題についてゼミ内で報告会を行い研究の方向性を確認する。		P D
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		E
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		E
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	中間発表振り返り	ゼミ内発表会を通して中間発表を振り返り、テーマの再構築と内容の修正を行う。		P D
21	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
22	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
23	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
24	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。



# 卒業研究（杉崎ゼミナール）

杉崎 雅子

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
<b>成績評価 方法及基準</b>	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
<b>教科書</b>	『心理学入門こころを科学する 10 のアプローチ』 坂口典弘・相馬花恵編著 講談社							
<b>参考文献</b>	『保育者のためのカウンセリングマインド入門』 佐川寛子・成瀬美恵子著 チャイルド本社							

**授業概要** 支援ニーズのあるすべての子どもを対象に適切な保育が実践でき、さまざまな背景を抱える保護者に理解を示す保育者となるべく、「理解」と「支援」の視点を身につけることを目指す。そのために、配慮を必要とする子どもの理解、対応や環境整備の検討、保護者支援、子ども支援体制のあり方等について学び、考えを深める。学生一人一人がそれぞれ課題を設定し、論文を作成していく。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもや保護者の心理について幅広い知識を習得する。
  - ② 技術面 論文の作成、研究の発表を通して自分の考えを表現する力を身につける。
  - ③ 理念・理解 配慮を必要とする子どもや保護者への支援の観点を理解する。

授業計画				【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験	A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習		
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）			D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（ゼミごとの授業）			D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。			D
4	ゼミの内容について2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。			D
5	論文執筆について1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。			P
6	論文執筆について2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。			P
7	論文執筆について3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。			P
8	研究調査活動1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。			F
9	研究調査活動2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。			F
10	研究調査活動3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。			F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。			P
12	先行研究のまとめ1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。			P
13	先行研究のまとめ2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。			P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。			P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。			P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。			P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。			P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。			P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。			P
20	論文指導1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。			D
21	論文指導2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。			D
22	論文指導3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。			D
23	論文指導4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。			D
24	論文指導5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。			D
25	論文仮提出	論文を仕上げ提出する。			E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。			E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。			E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出			E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会			P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）			P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い特参すること。

# 卒業研究（竹内ゼミナール）

竹内 あゆみ

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
<b>成績評価方法と基準</b>	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
<b>教科書</b>	各自のテーマに応じて適宜指示する							
<b>参考文献</b>	各自のテーマに応じて適宜指示する							

**授業概要** 本ゼミでは、学生が自ら意欲的に学ぶ体験を大切にしながら玩具の知識を深め、子どもの発達段階に合わせた選び方や提示ができるようになることを目指す。また、保育現場で取り入れられている可視化の方法を学びながら、専門的な知識や技術を人にわかりやすく伝えるための表現方法についても検討する。論文執筆は、保育現場や子育て支援の場での遊びに関する事例を収集し、分析及び考察をしながらまとめる。

- 学習成果**
- ① 知識面 子どもの発達段階に合わせた玩具や保育現場の遊びの実践を知る。
  - ② 技術面 子どもが遊びを通して学んでいることを分析し、考察することができる。
  - ③ 理念・理解 自己の研究テーマの内容及び結論をわかりやすく説明することができる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習	A L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	研究テーマ設定1	各自の興味・関心からテーマを考える。		D
4	研究テーマ設定2	ワークシートやグループ別議論を通してテーマを掘り下げる。		GW
5	研究方法1	研究調査方法について学ぶ。		E
6	研究方法2	資料、文献の集め方について学ぶ。		E
7	研究方法3	資料や文献の活用方法について学ぶ。		D
8	研究計画を立てる	テーマ、研究方法を設定し、研究計画を立てる。		D
9	文献研究1	テーマにそった文献を探す。		E
10	文献研究2	文献を読んでまとめる。		E
11	調査研究1	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
12	調査研究2	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
13	調査研究3	各自のテーマにそって、調査・研究をすすめる。		E
14	ゼミ内発表1	個別の課題についてゼミ内で報告会を行い研究の方向性を確認する。		PD
15	ゼミ内発表2	個別の課題についてゼミ内で報告会を行い研究の方向性を確認する。		PD
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		E
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		E
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	中間発表振り返り	ゼミ内発表会を通して中間発表を振り返り、テーマの再構築と内容の修正を行う。		PD
21	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
22	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
23	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
24	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日1/12（金）までに仕上げて提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 卒業研究（中山ゼミナール）

中山 貴太

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表20%、中間発表30%） ②レポート課題（論文作成50%）							
教科書	『最新版 大学生のためのレポート・論術』、株式会社講談社							
参考文献	『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析 第13版』学文社							

**授業概要** 本ゼミナールでは、スポーツ健康科学の知識を学ぶ。スポーツ心理学、スポーツコーチング学、スポーツマネジメント学、健康科学、公衆衛生学などの様々な視点から理論と実践を通じ各自の興味・関心にそって卒業論文を執筆する。

- 学習成果**
- ① 知識面 スポーツ・健康に関する課題について説明できるようになる。
  - ② 技術面 事例調査、質問紙調査、面接調査など方法を身につける。
  - ③ 理念・理解 スポーツ・健康に関する現状について理解する。

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
4	ゼミの内容について2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
5	論文執筆について1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。		P
6	論文執筆について2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。		P
7	論文執筆について3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。		P
8	研究調査活動1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
9	研究調査活動2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
10	研究調査活動3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。		P
12	先行研究のまとめ1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
13	先行研究のまとめ2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	論文指導1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
21	論文指導2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
22	論文指導3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
23	論文指導4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
24	論文指導5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。

# 卒業研究（野津ゼミナール）

野津直樹

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
<b>成績評価方法と基準</b>	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
<b>教科書</b>	各自のテーマに応じて適宜指示する							
<b>参考文献</b>	各自のテーマに応じて適宜指示する							

**授業概要** 学生が学生のうちに保育現場で起きている様々な事象を捉え、それを記録・分析経験を積んでおくことが重要である。この経験を、特に幼稚園現場における様々な研究会に参加する際の先行経験とするべく指導を行う。幼稚園教諭を目指す学生が本ゼミを希望することを望む。

- 学習成果**
- ① 知識面 幼稚園現場における様々な研究会について、その実際を知る
  - ② 技術面 ひろば活動を保育現場で起こる様々な事象と捉え直し、記録・分析することができる
  - ③ 理念・理解 上記記録・分析を卒業論文として完成し、それを発表することができる

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
				A L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
4	ゼミの内容について2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
5	論文執筆について1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。		P
6	論文執筆について2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。		P
7	論文執筆について3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。		P
8	研究調査活動1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
9	研究調査活動2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
10	研究調査活動3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。		P
12	先行研究のまとめ1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
13	先行研究のまとめ2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	論文指導1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
21	論文指導2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
22	論文指導3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
23	論文指導4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
24	論文指導5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 卒業研究（間野ゼミナール）

間野 百子

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表20%、中間発表30%） ②レポート課題（論文作成50%）							
教科書	『子どもが育つ地域社会』（2002）佐藤一子 東京大学出版会							
参考文献	『世代間交流学の創造—無縁社会から多世代交流型社会の実現のために』（2010）草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子編著 あけび書房他							

## 授業概要

子どもの発達過程に地域社会のさまざまな世代の人びとが関わることの現代的意味を理解したうえで、地域の子育て支援施設や子どもの生活・遊び場面において観察・調査を行う。各自の興味・関心を問題意識として深め、現場で収集したデータを分析・考察し、論文を執筆する。

## 学習成果

- ① 知識面 地域社会内の人々が、子ども・若者の学び・発達を支えることの意味について理解を深める。
- ② 技術面 質問紙調査やインタビュー調査、フィールドワークの結果について分析することができる。
- ③ 理念・理解 自己の研究テーマと結論について説明することができる。

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	ゼミの内容について	卒業研究のテーマについて考える。1年間の計画を各自が立てる。		D
4	ゼミの進め方	1年間の計画を各自が立てる。		D
5	研究テーマ設定1	自分の興味に従って決めた研究テーマの深め方について考える。		E
6	研究テーマ設定2	自分の興味に従って決めた研究テーマの深め方について考える。		E
7	研究の調査方法1	研究の進め方について考え、研究計画を再考する。調査全般に関して学ぶ。		E
8	研究の調査方法2	研究のすすけたについて考え研究計画を再考する。調査全般に関して学ぶ。		E
9	研究・実践例の調査1	問題意識と関連のある先行研究や実践例について調べる。		E
10	研究・実践例の調査2	問題意識と関連のある先行研究や実践例について調べる。		E
11	調査計画立案1	調査対象のデータ収集の方法を決定し、論文の骨子を固める。		E
12	調査計画立案2	調査対象のデータ収集の方法を決定し、論文の骨子を固める。		E
13	現場調査1	中間発表時の課題を踏まえて、現場での観察・調査に基づき、再度データを分析する。		E
14	現場調査2	中間発表時の課題を踏まえて、現場での観察・調査に基づき、再度データを分析する。		E
15	交流活動	個別の課題について、ゼミ内で意見交換を行う。		E
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	作品の分析と考察	中間発表の反省を基に、研究を深める。		D
21	作品の分析と考察	中間発表の反省を基に、研究を深める。		D
22	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
23	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
24	論文指導	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		E
25	論文仮提出	論文を仕上げ提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

## 備考

「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 卒業研究

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

(未 開 講)

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	『保育における生活技術』 神蔵幸子・中川秋美編著(2017)萌文書林 『グループ活動を始める時に: つながりをつむぐ50のかかわり技法』 土屋明美編著 ななみ書房							
参考文献	『保育用語辞典』(森上他) ミネルバ書房、 『心理劇入門:理論と実践から学ぶ』 土屋・茨木・吉川編著 慶應義塾大学出版会							

## 授業概要

保育所・幼稚園など集団の保育の場で、実践力をもった保育者として育つために、いまここで新しく振るまえる力を育てる。じっくり遊びこむことで成し遂げられる子どもの成長・発達への理解、そこを支える保育者の資質やこころもちについて学ぶ。心理劇体験を通じて、自由でしなやかな動きができる新しい自分を発見していく。

## 学習成果

- ① 知識面 一年を通じた子どもの生活や遊びについて理解する。
- ② 技術面 様々な保育場面を想定し、場面構成や設定ができる
- ③ 理念・理解 子どもにとっての遊びの重要性を理解し、説明できる

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
1	卒業研究の概要 1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要 2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）		D
3	卒業論文のテーマ設定①	グループワークを通じて、自分の課題を明確化する		D
4	卒業論文のテーマ設定②	『保育における生活技術』を概観し、自分のテーマを探す		D
5	卒業論文のテーマ設定③	心理劇を体験する①		P
6	研究計画の作成①	参考文献・先行研究を探る		P
7	研究計画の作成②	テーマを心理劇で体験する ② 研究計画を立てる		P
8	事例記録の発掘・分析①	心理劇を体験し、記録を書く③		F
9	事例記録の発掘・分析②	玩具を使った遊び体験をし、それを記録にする		F
10	事例記録の発掘・分析③	保育現場を見学・参考文献を読みテーマへの理解を深める		F
11	事例記録の発掘・分析④	保育現場を見学・参考文献を読みテーマへの理解を深める		P
12	文献研究①	参考文献を読みテーマへの理解を深める		P
13	文献研究②	参考文献を読みテーマへの理解を深める		P
14	文献研究③	参考文献を読みテーマへの理解を深める		P
15	ゼミ内中間発表	ゼミ内発表を通じ、各自の論文の内容を深める		P
16	中間発表準備 1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
17	中間発表準備 2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭ポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭ポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	個別の研究活動①	個別の研究活動		D
21	個別の研究活動②	個別の研究活動		D
22	個別の研究活動③	個別の研究活動		D
23	個別の研究活動④	個別の研究活動		D
24	個別の研究活動⑤	個別の研究活動		D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

## 備考

「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。

# 卒業研究（山本ゼミナール）

山本華子

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	『諸外国における保育の現状と課題』 日本保育学会編 世界文化社							
参考文献	『大学における多文化体験学習への挑戦』 村田晶子編著 ナカニシヤ出版							

**授業概要** 日本の保育現場にも、外国人を親に持つ子どもたちが増えており、異文化理解は保育者に求められる要素と言える。まずは、最も近い外国である「韓国」について学び、それをきっかけに、少しずつ国際的視野を広げていく。同時に、異文化を通して、日本に対する理解も深める。その中で自らの研究課題を探し、教員の指導を受けながら、論文を作成していく。

- 学習成果**
- ① 知識面 国際文化や日本文化に対する幅広い知識を深める。
  - ② 技術面 論文の作成、研究の発表を通して自分の考えを表現する力を身につける。
  - ③ 理念・理解 異文化を理解し、自国の文化との違いについて説明できるようになる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
				A
				L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（ゼミごとの授業）		D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
4	ゼミの内容について2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。		D
5	論文執筆について1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。		P
6	論文執筆について2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。		P
7	論文執筆について3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。		P
8	研究調査活動1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
9	研究調査活動2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
10	研究調査活動3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。		F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。		P
12	先行研究のまとめ1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
13	先行研究のまとめ2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。		P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。		P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。		P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。		P
20	論文指導1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
21	論文指導2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
22	論文指導3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
23	論文指導4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
24	論文指導5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。		D
25	論文仮提出	論文を仕上げ提出する。		E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。		E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。		E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出		E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会		P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）		P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 卒業研究（吉田ゼミナール）

吉 田 収

[ Graduation Study (Seminar on Case Study) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
2年生	通年	演習	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n032
成績評価 方法と基準	毎回ゼミに出席し、積極的に指導を受けること。 ①授業中の取り組み（授業内発表 20%、中間発表 30%） ②レポート課題（論文作成 50%）							
教科書	各自のテーマに応じて適宜指示する。							
参考文献	各自のテーマに応じて適宜指示する							

**授業概要** 造形に関する知識や見聞を広め、得たものを実践へと発展させ、保育現場での実践や自己表現の術となるよう、分析し、論文の作成としてまとめる。学生個々が自らの研究課題を持ち、教員の指導を受けながら内容を深め、論文を執筆する演習科目である。

**学習成果**

- ① 知識面 保育と造形に関する自発的、科目横断的な学習意義を説明できるようになる。
- ② 技術面 多様な造形表現を理解し、保育における意義を分析、検討ができるようになる
- ③ 理念・理解 自己の研究テーマと結論について説明することができるようになる

回数	テーマ	学習内容	準備学習	
	<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			
				A L
1	卒業研究の概要1	卒業研究とゼミ活動（合同授業）		D
2	卒業研究の概要2	卒業研究の書き方について（各ゼミごとの授業）	※PC持参	D
3	ゼミの内容について1	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。	〃	D
4	ゼミの内容について2	研究の方向性の検討、1年間の計画を各自で考える。	〃	D
5	論文執筆について1	各時の興味・関心に基づき、卒業研究のテーマを焦点化する。	〃	P
6	論文執筆について2	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。	〃	P
7	論文執筆について3	研究テーマを絞り込み、調査方法を検討する。研究計画を作成する。	〃	P
8	研究調査活動1	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。	〃	F
9	研究調査活動2	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。	〃	F
10	研究調査活動3	各自の計画に沿って、調査や資料収集を行う。	〃	F
11	先行研究の見直し	フィールドワークや調査で得た結果をもとに各自の研究計画、方法の見直しをする。	〃	P
12	先行研究のまとめ1	各自の研究分野に関する文献をまとめる。	〃	P
13	先行研究のまとめ2	各自の研究分野に関する文献をまとめる。	〃	P
14	研究調査活動のまとめ1	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。	〃	P
15	研究調査活動のまとめ2	フィールドワークや調査で得た知見を文章としてまとめていく。	〃	P
16	中間発表準備1	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	〃	P
17	中間発表準備2	各自の研究計画に従って、中間発表準備を行う。	〃	P
18	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。	〃	P
19	卒業研究中間発表	（小峰祭）各自の研究に関してポスター発表をし、外部からの中間評価を受ける。	〃	P
20	論文指導1	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	PC持参	D
21	論文指導2	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	〃	D
22	論文指導3	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	〃	D
23	論文指導4	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	〃	D
24	論文指導5	各自のテーマに従って、個別指導を受けながら論文を執筆する。	〃	D
25	論文仮提出	論文を仕上げて提出する。	〃	E
26	リライト作業	指導に従って加筆・修正する。	〃	E
27	卒業論文提出	卒業論文を推敲して最終提出する。	〃	E
28	卒業論文概要作成	A4版1枚の所定の用紙（別途メールに添付し配布）に卒業論文概要（卒業論文集に収録）を記入し提出	〃	E
29	卒業研究発表会	卒論概要をもとにした各ゼミナール内での卒業研究発表会	〃	P
30	卒業研究発表会	各ゼミナール代表者の研究発表（2024年2月予定）	〃	P

**備考** 「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関してフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。卒論提出日 1/12（金）までに仕上げ提出すること。概要も指定日に提出すること。後期の論文執筆は個人作業となるが、毎授業時に教員に進捗状況を報告し指導を受けて進めること。



# サービスラーニング

有村 さやか

[ Service-learning ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	講義	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	各自の内容に応じて適宜指示する							
参考文献	授業の中で逐次紹介する							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ

回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	
1		活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	事後：活動計画案	D G W
2		フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	活動計画	D G W
3		フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	事後：振り返りシート	F
4		フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	事後：振り返りシート	F
5		フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	事後：振り返りシート	F
6		フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	事後：振り返りシート	F
7		フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする	振り返りシートまとめ	D G W
8		フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	プレゼンテーション資料	P D

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。

保育・二年生

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

今 泉 明 美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	デパートNo.	ナパリング No.
2年生	通年	講義	2単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	平成 27 年度小田原短期大学乳幼児研究所幼児教室制作『幼児教室リーフレット』 等							
参考文献	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美編著 他(萌文書林)、『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』有村さやか・今泉他編著(ミ ネルヴァ書房) その他、授業の中で逐次紹介する。							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各 2 回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験					A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(予読の章・頁、資料No) *作成課題内容			L	
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	資料配布「本授業及び各活動の目的」課題:資料内容の確認			D	
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	資料配布「各活動の内容と学生の役割」前半の活動計画の立案 課題:資料内容の確認と計画立案			G W P	
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率:おだびよ保育講座)	各実践についてのシミュレーション 課題:振り返りシート作成			E P	
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率:幼児教室)	各実践についてのシミュレーション 課題:振り返りシート作成			E P	
5	フィールドワーク振り返りと発表準備	前半の活動の振り返りをして、そこから得た課題を活かして後半の活動の準備をする	これまでの振り返りシートの整理、後半の活動計画の立案 課題:前半の振り返りシート作成			E P	
6	フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率:おだびよ保育講座)	各実践についてのシミュレーション 課題:振り返りシート作成			E P	
7	フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率:幼児教室)	各実践についてのシミュレーション 課題:振り返りシート作成			D	
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	振り返りシート課題:全体の振り返りシート作成			P D	

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリントを配布する。  
授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

上野 奈初美

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	事前にプリントを配布する							
参考文献	授業の中で適宜紹介する							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各 2 回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	配布資料を読み活動を理解する。		L D
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる。	地域で取り組みたい活動を考える。 *行動計画表の作成		G W
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)	振り返りシート記入		F
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)	振り返りシート記入		F
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)	振り返りシート記入		F
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)	振り返りシート記入		F
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする。	振り返りシートまとめ		G W
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	報告事項を整理する。		P

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。  
授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービ斯拉ーニング

上野文枝

[ Service-learning ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリングNo.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	なし							
参考文献	授業の中で適宜紹介する。							

## 授業概要

ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

子育て支援に関する活動に参加する、社会福祉関連施設を見学する、オレンジリボン活動に参加する、等を通して、福祉活動を実践的に学ぶ。

## 学習成果

- ① 知識面 福祉活動の現場における活動を通して、社会福祉についての見識を広め、知識を得る。
- ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献し、保育者としてふさわしい行動をとれるようになる。
- ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。理解したことを言語で表現できるようになる。

## 授業計画

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	地域子育て支援、福祉活動について学ぶ。	D GW
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	地域で取り組みたい活動を考える。 *行動計画表の作成	D GW
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	振り返りレポートを作成する。	F
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	振り返りレポートを作成する。	F
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	小峰祭におけるオレンジリボン活動準備。現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。	活動の理解と準備	GW
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	小峰祭におけるオレンジリボン活動。現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。	振り返りレポートを作成する。	F
7	フィールドワーク⑤ 実践と振り返り	福祉関係のセミナー等に参加する、あるいは福祉関連の映像資料を視聴する。	活動の振り返りと反省会	GW
8	フィールドワーク全体 報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	体験と学びの報告会	P、D

## 備考

フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。  
地域の子育て支援活動への参加の他、福祉施設の見学等、メンバーの関心事によりフィールドを検討する。

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

内山 絵美子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	内容に応じて適宜指示する							
参考文献	土谷みち子編・汐見稔幸ほか著『今、もっとも必要な これからのこども・子育て支援（これからの保育シリーズ9）』風鳴舎、2021年							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ

回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	AL
1		活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	配布資料を確認する *活動計画案	D G W
2		フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	フィールドの調べ学習	D G W
3		フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	活動計画を確認する *振り返りシート	F
4		フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	活動計画を確認する *振り返りシート	F
5		フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	活動計画を確認する *振り返りシート	F
6		フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)/ゲストスピーカーより「地域貢献」について話を伺う	活動計画を確認する *振り返りシート	F
7		フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通した振り返りをして、全体で共有するための準備をする	振り返りシートまとめ	D G W
8		フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	プレゼンテーション資料	P D

**備考** 「準備学習」内容の予習をし、授業後には振り返りシートなど「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。授業内でPCを使用することがあるため、教員の指示に従って持参すること。

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

小倉直子

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	なし							
参考文献	『こうすればうまくいく発達障害のペアレント・トレーニング実践マニュアル』上林靖子監修 中央法規出版 『キミヤーズの教材・教具 知的好奇心を引き出す』村上公也+赤木和重 クリエイツかもがわ							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	配布資料を読み活動を理解する。		L D
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる。	地域で取り組みたい活動を考える。 *行動計画表の作成		G W
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	ペアレントトレーニングに参加し現場での活動を通じて保育者として資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入		F
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	ペアレントトレーニング修了者のための保護者の会(つばさの会)に参加し現場での活動を通じて保育者として資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入		F
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	コスモスの会オープン研修会に参加し現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入		F
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	支援教育実践研究会に参加し現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入		F
7	フィールドワーク振り返り と発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする。	振り返りシートまとめ		G W
8	フィールドワーク全体 報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	報告事項を整理する。		P

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。  
授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービスラーニング

杉 崎 雅 子

[ Service-learning ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナパリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	『こうすればうまくいく発達障害のペアレント・トレーニング実践マニュアル』 上林靖子監修 中央法規出版							
参考文献	『むずかしい子を育てるペアレントトレーニング』 野口啓示著 明石書店 『ちょっとした言葉かけで変わる保護者支援の新ルール 10 の原則』 大豆生田啓友著 メイト							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各 2 回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料 No) *作成課題内容		
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	配布資料を読み活動を理解する。	D	
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる。	地域で取り組みたい活動を考える。 *行動計画表の作成	G W	
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	ペアレントトレーニングに参加し現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入	F	
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	ペアレントトレーニングに参加し現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入	F	
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	コスモスの会オープン研修会に参加し現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入	F	
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	コスモスの会定例会に参加し現場での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)。	振り返りシート記入	F	
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする。	振り返りシートまとめ	G W	
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	報告事項を整理する。	P	

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。  
授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

竹内 あゆみ

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリングNo.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	授業の中で適宜紹介する							
参考文献	授業の中で適宜紹介する							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b>		【AL】 D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	配布資料を読み活動を理解する。		D
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる。	地域で取り組みたい活動を考える。 *行動計画表の作成		G W
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)	振り返りシート記入		F
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)(外部講師の指導あり)	振り返りシート記入		F
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)	振り返りシート記入		F
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。(教員引率)(外部講師の指導あり)	振り返りシート記入		F
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする。	振り返りシートまとめ		G W
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	報告事項を整理する。		P

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。



# サービスラーニング

[ Service-learning ]

中山 貴太

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	活動の中で適宜紹介する。							
参考文献	活動の中で適宜紹介する。							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各 2 回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料 No) *作成課題内容		
1	活動の目的と考え方	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。	配布資料を読んでおく		D
2	活動方法	活動方法の詳細を理解する。	活動計画の素案を作成しておく		D
3	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	活動内容と気づきについてまとめる		E
4	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率)	活動内容と気づきについてまとめる		E
5	フィールドワーク② 実践と振り返り	おだたん広場など	活動内容と気づきについてまとめる		E
6	フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率)	活動内容と気づきについてまとめる		E
7	フィールドワーク④ 実践と振り返り	おだたん広場など	これまでの活動内容と気づきについてまとめる		E
8	フィールドワーク振り返りと発表準備	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率)	発表に向けた準備をする		D

**備考** 各授業の前に 45 分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

野津直樹

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ハンパリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	なし							
参考文献	授業の中で適宜紹介する。							

**授業概要** 本学において月に1回程度（水曜1限・2限）開催されている“おだたんひろば”において学生がこれまでに獲得した専門的知識・技術をいかす活動を社会貢献活動として行う。実習や学校で得た知識・技術を活用し活動計画を事前に立案した上でひろば活動に取り組む。活動後には省察を行い、授業内で共有、就職後の糧へと昇華する。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習（テキストの章・頁、資料No）*作成課題内容		
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	おだたんひろばでの活動方法を理解する。 課題:授業内容から提示		D
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	おだたんひろばで取り組みたい活動を熟考する。 課題:授業内容から提示		D
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	おだたんひろばでの活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	指導計画立案 課題:授業内容から提示		E
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	おだたんひろばでの活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	前回の省察、指導計画立案 課題:授業内容から提示		E
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	おだたんひろばでの活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	前回の省察、指導計画立案 課題:授業内容から提示		E
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	おだたんひろばでの活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	前回の省察、指導計画立案 課題:授業内容から提示		E
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通した振り返りをして、全体で共有するための準備をする	全省察のとりまとめ 課題:授業内容から提示		E
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	発表準備		D

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービスラーニング

間野 百子

[ Service-learning ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	特になし							
参考文献	授業の中で適宜紹介する。							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験	A L E
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (教科の章・頁、資料No) *作成課題内容
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	※子どもの貧困や少年の抱える課題について調べておく。
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる。	※食を通じた少年の発達支援活動の意味について考えておく。
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。 (教員引率)	※子ども食堂の実践例を調べておく。
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。 (教員引率)	※「子ども食堂」における実践プログラムを検討する。
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。 (教員引率)	※「子ども食堂」における実践プログラムを検討する。
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める。 (教員引率)	※「子ども食堂」における実践プログラムを検討する。
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた実践の振り返りをして、フィールド先のスタッフや子どもたちとの交流を通して、学んだことや課題について検討する。	※地域社会における子どもの居場所作りについて、体験を踏まえて考察する。
8	フィールドワーク全体の総括と意見交換会	意見発表・交換会を通して、地域社会における子どもの発達支援のあり方についての理解を深める。	他者の発表を通して、自らの知見を深める。

- 備考**
- ・フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。
  - ・子ども食堂の取り組みについて見識を深め、活動に参加する(社会情勢に応じて変更あり)。
  - ・授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。
  - ・非行や困難を抱える少年の発達支援に関わるボランティア関係者の見解を伺ったり、更生保護活動(社会を明るくする運動)の広報を含めた活動(UMECO祭りでのパフォーマンスなど)にも参加する可能性がある。

# サービスラーニング

[ Service-learning ]

(未 開 講)

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	カンパリングNo.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2r081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	『保育における生活技術』神蔵幸子・中川秋美編著 (2017) (萌文書林) 『グループ活動を始める時に: つながりを育む 50 のかわり技法』土屋明美編著 ななみ書房							
参考文献	『保育する力』第2版 吉田眞理編著 (ミネルヴァ書房)							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各 2 回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	活動の目的と考え方	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。			D
2	活動方法	活動方法の詳細を理解する。			G W
3	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	実践と振り返り		F
4	フィールドワーク① 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率) 実践の準備 (心理劇体験)	実践と振り返り		F
5	フィールドワーク② 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率) 地域の園で劇遊び	実践と振り返り		F
6	フィールドワーク③ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率) 図書館での読み聞かせ	実践と振り返り		F
7	フィールドワーク④ 実践と振り返り	現場での活動を通じて保育者としての資質を高める (教員引率) 地域の園での行事の企画・劇遊び	活動のまとめの作成		G W
8	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする			P

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。

# サービスラーニング

山本華子

[ Service-learning ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	現場における活動内容 30%、活動記録 30%、報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	『やさしい韓国文化の話 52』 崔俊植 (著), 崔京国・荒井淑子 (翻訳) かんよう出版 『多文化・多様性理解ハンドブック』松永 典子 (編著) 金木犀舎							
参考文献	『月刊韓国文化』 韓国文化院編 栄光他 『グローバル化のなかの異文化間教育』 西山教行・大木充編著、明石書店							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各 2 回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識面 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術面 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b> 【AL】 D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験				A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	L
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	配布資料、活動計画案	D
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる。	配布資料、活動計画	G W
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	乳幼児研究所の実践活動を通じて、保育者としての資質を高める(教員引率)。	実践と振り返り	F
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	地域の園での実践活動を通じて、保育者としての資質を高める(教員引率)。	実践と振り返り	F
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	ゲスト講師による海外文化体験を通じて、保育者としての資質を高める(教員引率)。	実践と振り返り	F
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	海外在住者との交流を通じて、保育者としての資質を高める(教員引率)。	実践と振り返り	F
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする。	振り返りシートまとめ	G W
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	報告事項を整理する。	P

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。授業内で PC を使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# サービスラーニング

吉 田 収

[ Service-learning ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	通年	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP3c	No. Cs2n081
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	①現場における活動内容 30%、②活動記録 30%、③報告会の発表内容 40%の総合評価							
教科書	なし							
参考文献	授業の中で適宜紹介する。							

**授業概要** ゼミナール担当教員がコーディネートし、前期と後期各2回程度活動する。事前に活動の場について下調べし、これまで学んだことを活用しながら活動計画を立案する。活動後に活動計画を参照しながら振り返りをする。最後に受講生全員で報告をしあう。

- 学習成果**
- ① 知識 実習とは異なる活動を通して、社会についての見識を広める。
  - ② 技術 授業で学んだことを応用して、地域社会に貢献できるようになる。
  - ③ 理念・理解 社会人として必要な社会観、職業観、労働観を持つ。

<b>授業計画</b>				D:ディスカッション・デバート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験		A
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容			L
1	活動の目的と考え方 活動方法	各担当者が実施する活動の目的と考え方について学ぶ。 活動方法の詳細を理解する。	図書館法における図書館の定義を読んでおく。	E		E
2	フィールドワーク準備	活動計画の作成を通じて活動内容を精査し、充実した実践につなげる	地域で取り組みたい活動を考える。 *行動計画表の作成	E		E
3	フィールドワーク① 実践と振り返り	作品発表の現場を通じて保育者としての資質を高める	美術館について事前調査しノートにまとめる。	E		E
4	フィールドワーク② 実践と振り返り	「おだびよ幼児教室」での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	活動計画をノートにまとめる。	F		F
5	フィールドワーク③ 実践と振り返り	「幼児教室」での活動を通じて保育者としての資質を高める	活動計画をノートにまとめる。	F		F
6	フィールドワーク④ 実践と振り返り	「おだびよ保育講座」での活動を通じて保育者としての資質を高める(教員引率)	活動計画をノートにまとめる。	F		F
7	フィールドワーク振り返りと発表準備	1年間を通じた振り返りをして、全体で共有するための準備をする	活動の振り返りをノートにまとめる。	E		E
8	フィールドワーク全体報告	活動の全体報告を通じて、自らの職業観、労働観、社会観形成の一助とする。	報告事項を整理する。	E		E

**備考** フィールドワークに自主的に取り組み、アイデアを出しながら、保育の学びを活用すること。

# 生活実践Ⅱ ～子どもの発達と遊び～

小倉直子

[ Practice of Life management II : Child Development and Play ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2r084
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。評価は ①授業中の取り組み(毎回授業終了時のミニレポート)40%、②レポート課題(校外学習のまとめレポート20%、発達段階表の作成40%)60%を基本的配分とする総合評価とする。							
教科書	『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本 第2版』河原紀子 学研 2018							
参考文献	『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社							

**授業概要** 乳児期前半から就学前までの子どもの発達とその時期の遊びを映像でふり返って子どもの発達の理解を深めるとともに、それぞれの時期における遊びを保育現場に即して考える。全身を使った遊び、手を使う活動、絵本など児童文化財を使った遊びなど、フィールド調査やグループ討議、資料からの学びを通じ、発達の視点から目の前の子どもにどんな遊びの中身を準備していけばよいかを考える。

**学習成果**

- ① 知識面 子どもの発達を保障する各種の遊びについて、知識を広げる。
- ② 技術面 グループで話し合いながら実際にそれぞれの発達段階における遊びを下調べし、デザインする。
- ③ 理念・理解 発達心理学の学びを深め、それぞれの発達段階における特徴を理解する。

授業計画				【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験	A
回数	テーマ	学習内容	準備学習(予習の章・頁、資料No) *作成課題内容		L
1	0, 1, 2歳児の発達と遊び	乳児期前半から 2 歳ごろまでの発達を映像をもとに振り返り、それぞれの時期の特徴を表にまとめる。	課題：乳児期の発達の表への記入		D
2	3, 4, 5 歳児の発達と遊び	3 歳から 5, 6 歳ごろまでの発達を映像をもとに振り返り、それぞれの時期の特徴を表にまとめる。	課題：幼児期の発達の表への記入		D
3	子どもの発達と運動遊び①	フィールドワーク(わんぱくらんど)にて、グループに分かれ、各年齢(月齢)で身体を使って遊ぶ遊びについて調べる。	課題：運動遊び調査、発表準備		F
4	子どもの発達と運動遊び②	グループで調べた運動遊びを発表し、レポートにまとめる。	課題：運動遊びの表への記入		P
5	子どもの発達と手を使った遊び①	グループに分かれ、各年齢(月齢)で手を使う活動や遊びについて調べる。	課題：手を使った遊びの調査、発表準備		G W
6	子どもの発達と手を使った遊び②	グループで調べた手を使う活動・遊びを発表し、表にまとめる。	課題：手を使った遊びの表への記入		P
7	子どもの発達と言葉や文化財を使った遊び①	グループに分かれ、各年齢(月齢)で言葉遊びや絵本などの児童文化財を使った遊びについて調べる。	課題：児童文化財を使った遊びの調査と発表準備		G W
8	子どもの発達と言葉や文化財を使った遊び②	グループで調べた言葉遊びや児童文化財を使った遊びを発表し、表にまとめる。 【発達段階表を成果物として提出】	課題：児童文化財を使った遊びの表への記入		P

**備考** 各授業の前に 45 分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。課題等に関して授業内にフィードバックをする。授業内で PC を利用するため、教員の指示に従い持参すること。

保育・二年生

# 生活実践Ⅱ 子どもの発達と心理～保育現場の心理学～ 宮川 萬寿美

[ Child development and psychology (Effective use of psychology at child care) ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバリング No.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2n083
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。授業内容確認テスト 40点、授業内レポート課題 40点(授業内で作成するものを提出) 総合的レポート 20点							
教科書	『保育する力』 吉田眞理編著 三幸学園 (ミネルヴァ書房) (2020) 『グループ活動を始める時に: つながりをつなぐ50のかかわり技法』 土屋明美編著 ななみ書房							
参考文献	保育用語辞典 森上史朗・柏女霊峰編 (ミネルヴァ書房)							

**授業概要** 1年次に学習した「心理学」「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「障害児保育」等の学習を基に、保育現場で必要でかつ有効な心理学的知識や技法を学ぶ。保育者として、子どもの発達と心理について理解し、実際の場面で活用できるようにする。現場と学校を往還的に学び、デュアル教育的視点も持てるようにすすめていく。今ここで新しく行動できる柔軟な保育者として、自分を育てていきたい学生に履修して欲しい。

- 学習成果**
- ① 知識面 保育現場に必要な心理学的知識を身につける
  - ② 技術面 心理学的な検査やチェックリストの結果を読みとることができる
  - ③ 理念・理解 心理学的な観点を活かして子どもの遊びを考えることができる

授業計画		【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L G W D D G W E D G W E
回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	自己理解をするために	自己課題の設定。今ここで、新しくある自分を理解するためのウーミングアップ・心理劇体験。心理学と保育の関連。			
2	子どもの発達と保育①	認知の発達と保育	LD体験		
3	子どもの発達と保育②	言葉の発達と保育	言葉あそび集め		
4	検査のいろいろ	発達理解のための検査やチェックリストのいろいろ 検査結果を活かし方			
5	様々な子どもの対応	子どもの特性に合わせた対応と保育展開 ロールプレイを活用			
6	芸術療法	芸術療法と保育 —コラージュ作成—	ハガキコラージュ作成		
7	心理劇とは	心理劇とロールプレイ 補助自我の体験			
8	保育実践へむけて	心理劇体験 デュアル教育的視点から現場で生かす (自己評価ルーブリックの活用)			

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。  
\*PCについては、授業内の指示に従う事。



# 生活実践Ⅱ ～国際バカロレア PYPを知る～

野津直樹

[ Practice of Life management Ⅱ ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2r085
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内発表10、小テスト1回で30、見学レポート60を基本的配分とする総合評価							
教科書	事前にプリント等、配布する。その他、必要に応じて適宜指示する							
参考文献	適宜指示する							

**授業概要** この教科は国際バカロレア (IB) の教育、特にPYP (プライマリー・イヤーズ・プログラム) について知るためのものである。講義や見学を通じて、国際教育について知るとともに、子どものもつ力を信じ、それを伸ばすべく関わる保育者の在り方について学ぶ。多様な幼児教育・保育の現場でこれから実践に取り組む受講生が、それぞれの現場でPYPを念頭に置きながら、より高い理想をもって保育にあたるように、見学を通じたディスカッションも多く設定する。なお、IBについてはもちろん、今日の幼児教育・保育について“語り合う”ことも目的とする。

- 学習成果**
- ① 知識面 国際バカロレアの教育、特にPYPについて知る。
  - ② 技術面 PYPを学ぶことを通じて、幼児教育・保育におけるプログラムの在り方を深く考えることができるようになる。同時に昨今の幼児教育・保育に関して“語り合う”ことでより高い次元での学びを深める。
  - ③ 理念・理解 自身が就く現場で本演習で得られた学びを基により高い理想をもって保育にあたる。

回数	テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L G W
1	国際バカロレアの教育とは	IB3つのプログラム、指導と学習について	国際バカロレアの教育とは	G W
2	プライマリー・イヤーズ・プログラムの枠組み	子どもを中心に置くプログラムとは	プライマリー・イヤーズ・プログラムの枠組み	G W
3	見学に向けた事前学習	キッズ大陸よこはま中川園について、沿革、教育理念、教育内容などを知る	見学に向けた事前学習	G W
4	キッズ大陸よこはま中川園見学	キッズ大陸よこはま中川園にて見学	見学に向けた事前学習	G W
5	キッズ大陸よこはま中川園見学	キッズ大陸よこはま中川園にて見学	見学に向けた事前学習	G W
6	キッズ大陸よこはま中川園見学	キッズ大陸よこはま中川園にて見学	見学に向けた事前学習	G W
7	見学の振り返り	各自のレポートを持ち寄ってディスカッションをする。	見学の振り返り	G W
8	IBPYPまとめ	それぞれの現場でPYPをどのように生かせるか、話し合う。	IBPYPまとめ	G W

**備考**

- ・各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。
- ・コロナ禍において見学学習がかなわない場合もある。この場合はレポート課題等に代替する。
- ・授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

保育・二年生

# 生活実践Ⅱ ～食育と調理～

[ Practice of Life management II : Food Education and Cooking ]

栗本 公 恵 内山 麻子  
中村 眞樹子 平井 千里

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	後期	講義	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2n087
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	授業中の取組み、積極的な参加状況。 授業中の取組み(実技) 20%、レポート課題 80% (4回) を基本とする総合評価							
教科書	『子どもの食と栄養 改訂第2版』児玉浩子他著 中山書店							
参考文献	『保育者のための食育サポートブック』ひかりのくに							

## 授業概要

保育所では様々な体験型食育が行われている。中でも、子どもたちが自ら調理して食べる調理体験は、子どもたちのやる気を育て、食への関心を高める効果が大い。しかし一方で調理体験は、火傷や包丁による怪我などの危険と隣り合わせでもある。抵抗力が弱い幼児が喫食することを考えれば、衛生面への配慮は怠れない。子どもの口の大きさ、噛む力、飲み込む力などを考え、安全に安心して食べられる工夫も必要である。この授業では、保育所で調理体験食育を実践することを想定し、衛生的で安全で、そして楽しい食育を実施するための方法を、調理実習を通して学んでいく。

## 学習の達成目標

- ① 知識面 衛生・安全に配慮した食育計画書の作成方法が分かる。
- ② 技術面 調理体験食育実施時の安全調理への配慮点が理解でき、実践できる。
- ③ 理念・理解 調理体験食育実施時の安全に喫食するための配慮点が理解でき、実践できる。

## 授業計画

回数		テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	A L
D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験					
1		食育と調理の基本①	はさみ、包丁、ピーラー、おろし金、裏ごし器などの安全な扱い方、さらにダスター、中心温度計、アルコール消毒の方法など安全と衛生を踏まえた食育実践につなげる基礎を学ぶ。	事前配布プリントを読んでおく	E
2		食育と調理の基本②	上記で使用した器具によって準備された食材を使い「人参とリンゴのサラダ」「ミートボールシチュー」「ポテトのニョッキ」等簡単な調理実習を体験し、加熱中の配慮、食具の扱い、器具の片づけや保管方法などを学ぶ。	事前配布プリントを読んでおく *課題: 調理と安全レポート	E
3		カレーパーティーでの食育①	子どもと安全に楽しく調理をするためにはどんな準備をし、何を配慮すべきかを実際にカレーライスの調理をしながら学ぶ。	事前配布プリントを読んでおく	E
4		カレーパーティーでの食育②	カレーパーティーを企画し、安全に調理し、安全に食事をする方法・配慮を意識し、何を学ぶのかを明確にした計画書を作成する。	事前配布プリントを読んでおく *課題: カレーパーティー企画書作成	E
5		お団子づくりでの食育①	衛生面や安全面への配慮の仕方、食育スタッフの準備と片付け、子どもへの働きかけを考え、実施計画書の作成について学ぶ。	事前配布プリントを読んでおく	E
6		お団子づくりでの食育②	計画書に従い、衛生面に配慮しながら準備・実習・片付を行う。試食を通して、子どもに相応しい味付け、安全に食べられる大きさや柔らかさを体験する。	事前配布プリントを読んでおく *課題: 安全安心に配慮したお団子パーティーの企画書作成	E
7		献立と配膳①	献立の基本とは何かを食材や栄養面などから学び、献立の立て方、調理準備、簡単な和食の調理方法について学ぶ。	事前配布プリントを読んでおく	E
8		献立と配膳②	和食献立を実際に調理し、配膳方法や食事のマナーを学ぶとともに、今までの授業(調理の基本や衛生への配慮など)の総まとめを行う。	事前配布プリントを読んでおく *課題: 献立と配膳のレポート	E

## 備考

- ・各授業の前に45分程度の予習をし、授業後には復習をすること。
- ・テスト・課題等に関してフィードバックを行うので、自主的に取り組み、力を付けること。

# 表現実践 ～伝統音楽による音あそび～

山本華子

[ Practical Expression ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナンバーNo.
2年生	前期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2n95
実務経験との関連性		日本の郷土芸能や世界の民族音楽の理論について30年間研究を積み、伝統音楽を用いたワークショップや国際交流行事を開催した実務経験から、初めて伝統音楽に触れるきっかけ作りに重きを置いている。						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 授業内の振り返りシート40%、提出課題20%、実践20%、創作発表20%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 原本』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 (2019) 第7刷							
参考文献	『「先生力」をつける!…待ち遠しい音楽授業のために』橋本龍雄他著 (教育出版) 『日本音楽の授業—伝統音楽のこころを大切に—きく・うたう・おどる・かなでる・つくる』山内雅子著 (音楽之友社)							

**授業概要** これまであまりなじみのなかった「日本の郷土芸能」と「世界の民族音楽」について、「リズム」の観点から実践的に学ぶ。授業ではいくつかの伝統音楽を取り上げて、その要素を用いた身体あそび、声、楽器によるリズム表現を実践し、グループごとに創作発表する。日本と世界の民族楽器やリズムになじみ、その魅力や楽しさを感じてみよう。あわせて、身のまわりにあるさまざまな音や素材に興味を持ち、音あそびの幅を広げていく。

- 学習成果**
- ① 知識面 日本の郷土芸能と世界の民族音楽について、基本的な知識を身につける。
  - ② 技術面 民族楽器の特徴や奏法を理解し、実践できるようにする。
  - ③ 理念・理解 伝統音楽の要素を取り入れて、子どもの音あそびにつながる創作への発展の仕方について理解する

回数		テーマ	学習内容	準備学習 (テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	AL
1		音あそび1・実践1	オセアニアで発達した「身体打奏」について学び、子どもの表現活動として「身体あそび」を実践する。	配布資料、課題: ビデオ鑑賞後、身体あそびの体験、振り返りシート。	E G W
2		音あそび2・実践2	フィリピン・カリガ族の生活文化とともに彼らの「竹の楽器」について知り、体験する。	配布資料、課題: ビデオ鑑賞後、竹楽器の体験、振り返りシート。	E G W
3		音あそび3・実践3	竹素材による様々な楽器を用いて、グループごとにリズムアンサンブルを創作し、発表する。	配布資料、課題: ビデオ鑑賞後、創作・発表、振り返りシート。	G W E P
4		音あそび4・実践4	韓国の伝統音楽について知り、韓国のリズムを感じながら民謡《アリラン》を歌い、身体あそびをする。	配布資料、課題: ビデオ鑑賞後、韓国音楽の体験、振り返りシート。	E
5		音あそび5・実践5	日本の郷土芸能について知り、代表的な民謡と掛け声、囃子言葉等を体験する。	配布資料、課題: ビデオ鑑賞後、日本の民謡体験、振り返りシート。	E G W
6		音あそび6・実践6	日本の伝統的な楽器について知り、和太鼓等を体験し、独特な音色を味わう。	配布資料、課題: ビデオ鑑賞後、和太鼓の体験、振り返りシート。	E G W
7		音あそび7・実践7	《TAKIO' SSOHRAN2》の合奏により、民謡のリズムや和楽器の音色を体感する。	配布資料、課題: 発表のための練習、振り返りシート。	E P G W
8		成果発表	これまでに学んだ伝統音楽の要素を取り入れて、子どもの音あそびにつながるリズム表現をグループごとに創作して、発表する。	課題: 第7回の音あそび課題提出、振り返りシート。	E P G W

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用するため、教員の指示に従い持参すること。

# 表現実践 ～ヴォイスパフォーマンス～

今泉明美

[ Practical Expression ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2r093
教職課程科目区分 含める必要事項								
成績評価 方法と基準	回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。①授業中の取り組み(毎回のパフォーマンス実践各5%×8回)②レポート振り返りシート作成・楽譜作成等(5%×8回)③授業内テスト(歌唱試験及び創作歌唱曲演奏の各10%)を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美編著 他(萌文書林)、『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』有村さやか・今泉他編著(ミネルヴァ書房)・音楽表現ファイル資料							
参考文献	『ポケットいっぱいのおうた』鈴木恵津子他編著(教育芸術社)配布資料『楽しいボディーパーカッション②～山ちゃんのリズムスクール』『楽しいボディーパーカッション③～リズムで発表会』山田俊之著							

**授業概要** 本授業では、保育者を子どもの音楽的感性の成長に欠かせない人的環境と捉え、保育者に成る者として「声」「歌唱」のパフォーマンスや、声を用いた音楽作品の創作を通して、第1に学生自身の歌唱力や総合的な表現力、音楽的感性、創造力の伸長を図るものである。第2に、これらを通じて、声を用いた様々な表現やその表現方法、創作の仕方を知り、保育現場の子どもとの表現活動に繋げるものとする。

- 学習成果**
- ① 知識面 声を用いた様々な表現やその表現方法、創作についての知識を得る
  - ② 技術面 歌唱をはじめ、声を用いた様々な表現方法を身につける
  - ③ 理念・理解 声を用いた様々な表現が子どもにとってどのような意義があるか理解する。

<b>授業計画</b>				【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験	A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	独唱・ヴォイスパーカッション①	声を用いた音楽遊び①・声を用いた表現について 子どもの歌歌唱・ヴォイスパーカッションの基本と作品の表現	楽譜 p181 「あんたがたどこさ」資料集	F	
2	独唱 ヴォイスパーカッション②	声を用いた音楽遊び②・子どもの歌歌唱 ヴォイスパーカッション作品の表現 ヴォイスパーカッション作品の創作と発表、振り返り	楽譜 p181、99、118 課題: ヴォイスパーカッション創作 作品提出	F D	
3	独唱 ヴォイスアンサンブル①	声を用いた音楽遊び③・子どもの歌歌唱 ヴォイスアンサンブルの基本と作品の表現	楽譜 p118、182、183 「おでん」 「おやつ大好き」・課 作品の練習	F	
4	独唱 ヴォイスアンサンブル②	声を用いた音楽遊び④・子どもの歌歌唱 ヴォイスアンサンブル作品の表現とその分析・ヴォイスアンサンブル作品の創作	楽譜 p74、182 「おでん」 課題: 創作作品提出	F D	
5	歌唱アンサンブル 歌唱曲の創作①	声楽アンサンブル・オリジナル歌唱曲の創作の仕方 歌詞を決める	楽譜 p187～192、184～186 課題: 歌詞及びリズム譜作成	F D	
6	歌唱アンサンブル 歌唱曲の創作②	声楽アンサンブル オリジナル歌唱曲の創作 メロディー作り	楽譜 p184～186 課題: メロディー作曲	F	
7	歌唱曲の創作③	オリジナル歌唱曲の創作 コード伴奏付け	楽譜 p184～186 課題: 伴奏付け	F	
8	歌唱曲、創作曲の発表	子どもの歌独唱・アンサンブル曲の発表 オリジナル曲の弾き歌い発表 全体の振り返り	楽譜 p184～186 課題: オリジナル作品の提出	F D	

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には課題に取り組む。復習をすること。課題等に関して授業内にフィードバックをする。配布した振り返りプリント等に意欲的に取り組み、力を付けること。授業内でPCを使用する際は、教員の指示に従い特参すること。

# 表現実践 ～五感で感じるリズム・アンサンブル～

有村 さやか

[ Practical Expression ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリングNo.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	学科履修指定科目	DP2c	No. Cs2n094
実務経験との関連性		作曲家・演奏家としての20年以上の実務経験を活かして、保育者としての感性を育成するための音楽表現のパフォーマンス及び作曲について実践的な音楽教育を行う。						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 実践50%、課題提出物20%、成果発表30%を基本的配分とする総合評価							
教科書	『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ—』今泉明美・有村さやか編著他(萌文書林)『保育のためのやさしい子どもの歌』有村さやか他編著(ミネルヴァ書房)							
参考文献	「保育者のためのリズム遊び」木許隆他編著(音楽之友社)「子どものための音楽II.リズムの即興表現」星野圭朗・井口太編(日本ショット)							

**授業概要** この授業では、リズムを中心としたアンサンブルの実践と創作を行う。リズムは音楽の基本要素の一つでもあり、広義にはあらゆる運動、時間、空間に関係している。音楽的リズムを身体的・感覚的に経験することで、身体(五感)を通じた音楽感覚を味わい、自らの音楽表現を豊かにすることを目指す。また、アンサンブルならではの他者と一体感を味わうこと、音楽で心が共鳴する経験から音楽の楽しさや気持ち良さを感じ、保育者としての感性を高めることを目指す。

- 学習成果**
- ① 知識面 様々な打楽器の発音原理や奏法などの知識を深める。
  - ② 技術面 リズム・アンサンブルを通して、一緒に演奏する気持ちよさや楽しさを経験する
  - ③ 理念・理解 楽器や音による自分なりの表現を探求し、表現力や感性を高める

回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容	AL
1	リズム・アンサンブル基礎①楽器の奏法	授業計画と内容について いろいろなリズムと打楽器の奏法について	課題:授業内容から提示	E
2	リズム・アンサンブル基礎②実践1	リズム・アンサンブル曲の実践(ボディ・パーカッション)	課題曲の譜読み 課題:課題曲復習	E
3	リズム・アンサンブル基礎③実践2	リズム・アンサンブル曲の実践(楽器アンサンブル)	課題曲の譜読み 課題:課題曲復習	E
4	リズム・アンサンブル基礎④実践3	リズム・アンサンブル曲の実践(楽器アンサンブル大編成)	リズム・アンサンブル基礎④実践3	E
5	リズム・アンサンブル基礎⑤実践4	リズム・アンサンブル曲の実践(手作り楽器・音具)	課題:手作り楽器づくり	G W E
6	各グループでのアンサンブル演習①	グループでのリズム・アンサンブルの創作・計画	課題:リズム・アンサンブル計画シートの作成	G W E
7	各グループでのアンサンブル演習②	グループでのリズム・アンサンブルの創作・発表準備	課題:創作アンサンブルの練習、計画シート提出	G W E
8	アンサンブル発表振り返り	各発表の鑑賞と振り返り(成果発表)	成果発表	P E

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。「作成課題」の欄の課題に取り組むこと。テスト・課題等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。

保育・二年生

# 表現実践 ～造形あそび～

吉 田 収

[ Practical Expression ～Art playing～ ]

対象	開講期	形態	単位	卒業条件	教養・専門・教職区分	免許・資格・学科履修条件	ディプロマNo.	ナバリング No.
2年生	後期	演習	1単位	選択	専門科目	学科指定履修科目	DP3c	No. Cs2r091
実務経験との関連性		保育者養成及び教職と、彫刻家としての制作活動や展覧会の発表歴の 30 年以上に渡る実務経験を活かして、造形全般の素材や技能の保育における指導や理論、そして実践的な造形教育を行う。						
成績評価方法と基準	毎回授業に出席し、授業に積極的に参加すること。 ①授業中の取り組み(制作姿勢)30%、②課題提出(授業内制作作品7点)35%、③成果発表35%を基本配分とする総合評価							
教科書	1年次で使用した造形材料。必要に応じてプリント配布をする。							
参考文献	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」樋口一成編著 萌文書林							

**授業概要** 造形とは人間が手を使ってものを扱うことを学んでから獲得した表現方法です。この表現方法を獲得したからこそ、感性を持ち人間へと進化してきました。同じように子どもも造形を経験して、成長し、感性や生きる術を身に付けていきます。ここでは造形をあそびの一つとして位置づけることで、身近なものとし、感性の幅を広げていく術とします。自身の感性を認め、思う存分表現して下さい。

- 学習成果**
- ① 技術 造形表現で学んだ技術を自分の表現として身に付け、遊びへと発展させる。
  - ② 知識 造形の表現形態を探索し、新たな表現形態を模索し、形へと導く。
  - ③ 理念・理解 遊び考案の成果として、発表を最終目標とするが、過程も成果の一つとして残す。

授業計画		D:ディスカッション・レポート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、実験			A L
回数	テーマ	学習内容	準備学習(テキストの章・頁、資料No) *作成課題内容		
1	オリエンテーション 造形と遊び	これまでの造形の経験を振り返り、この授業の計画を学ぶ	資料 No.1 「造形遊び1」		P
2	平面素材から	絵の具を中心とした素材の探究	資料 No.2 「平面の可能性」		P E
3	立体素材から	立体素材を中心とした素材の探究	資料 No.3 「立体の可能性」		P E
4	五感を表現する	五感の内「聴覚」を意識して表現する	資料 No.4 「聴覚・色彩」		P E
5	五感を表現する	五感の内「触覚」を意識して表現する	資料 No.5 「触覚・描写」		P E
6	現代美術から	五感の内「味覚」と「嗅覚」を意識して表現する	資料 No.6 「味覚・嗅覚」		P E
7	造形から遊びへ1	造形を遊びへ発展させ術を考え、制作する	資料 No.7 「現代美術から」		P E
8	造形から遊びへ2	造形遊びの実践へ・発表	〃		E

**備考** 各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。各自課題(作品制作)に沿って主体的に取り組むこと。課題(作品)等に関して授業内にフィードバックをする。振り返りプリント等を配布するので、自主的に取り組み、力を付けること。